

令和5年度

躍動

研究集録

第15号



北海道小樽高等支援学校

校訓

感動

すばらしいもの、美しいものを、常に新鮮な気持ちで、素直に力強く主体的に受け入れ、様々な人の思いに共感する豊かな感性と思いやりに満ちた、潤いのある学校でありたい。

協働

生徒の自立、社会参加を目指し、家庭、地域、関係機関など生徒にかかわるすべての人々と、各々の責任と行動において相互に立体的に連携し、共に歩み続ける学校でありたい。

躍動

生徒を取り巻く環境を多面的、総合的に捉え、常に新たな発想で、生徒の輝く未来のために創造的に生き生きと活動する学校でありたい。

目 次

はじめに	1
1 校内研究の概要	
□ 第6次研究計画の概要（2年目）	3
□ 第6次研究計画（2年目）	4
2 研究の成果と課題	
□ グループ研究の成果と課題	
① ICTグループ	1 2
② 指導法グループ	1 7
③ 観点別評価グループ	2 9
④ キャリア教育グループ	3 5
⑤ 道徳グループ	6 3
⑥ 授業づくりグループ	7 3
□ 第6次研究（2年目）のまとめ（成果と課題）	9 2
3 寄宿舍の研究	
□ 第5次研究（2年目）の成果と課題	1 0 1
4 校内研究に関連した取組	
□ 第45回 北海道特別支援教育研究協議会 道央地区大会（小樽大会） 兼 北海道小樽高等支援学校 夏季校内研究会	1 0 7
□ ICT校内研修会の概要	1 0 9
□ 冬季校内研修会の概要	1 1 1
□ 校内研究交流会の概要	1 1 2
5 道外視察研修	1 1 4
あしがき	1 2 1
執筆者一覧	1 2 2
研究集録バックナンバー一覧	1 2 3
共同研究者	1 2 5

令和3年中央教育審議会答申で、『「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿』として以下のことが示されました。

- ・変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続ける
- ・子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たす
- ・子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- ・多様な人材の教育界内外からの確保や、教師の資質・能力の向上により、質の高い教職員集団を実現する
- ・多様な外部人材や専門スタッフ等がチームとして力を発揮する
- ・教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができる
としています。

また、令和4年12月『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～答申で「令和の日本型学校教育」を担う教師に求められる資質能力の中で教師に求められる資質能力の再整理として、教師に共通的に求められる資質能力の柱を、①教職に必要な素養②学習指導③生徒指導④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応⑤ICTや情報・教育データの利活用 として示されました。

研究主題として「時代と社会の変化に敏感に対応できる力を高める実践的研究」と掲げ、第6次研究（3カ年計画）として取り組み、今年度で2年目を迎えました。時代や社会の変化に対応することは、今日的な教育課題を的確に把握し、先行研究をしっかりと理解しながら、学習者主体の教育的ニーズと適切な指導につなげるものです。

前述した令和の日本型学校教育を担う教師に求められる資質能力の柱としてまとめた5つとほぼ合致した、課題別グループによって文献並び理論研究、そして実践と進めて参りました。これらの校内研究をとおして本校における課題を整理し、来年度いよいよ本格的な利活用と実践をとおして検証を進めていくことができます。

今後ますます教師の資質能力を高め、専門性の向上を図り、学び続ける教師を示すとともに、変化の激しい社会で生きる生徒達が豊かな生活を送るために、よりよい指導につなげていくことができるように研究と修養に努めて参ります。

つきましては、本研究集録を御一読いただき、御指導・御助言をいただけましたら幸甚に存じます。

令和6年(2024年)3月

北海道小樽高等支援学校長 児玉倫政

第6次校内研究
(令和4年度～令和6年度)
2年目

第6次研究計画（R4～6）2年目の概要

教育方針

R5年度（抜粋）

- キャリアパスポートの理念を踏まえた、「OKSライフキャリアプラン」を活用し、キャリアカウンセリング、キャリアガイダンスの充実
- 対話能力の向上、他者と協調的・社会的にかかわろうとする態度の育成
- 学習指導要領に基づき、生徒一人一人に応じた個別の指導計画と両立した教育課程の編成・実施・評価
- ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの両立

経営方針

R5年度（抜粋）

- 教職員相互による信頼と協力・協働により、チーム学校づくりに努める。そのために相互対話のためのスキルを身に付ける。
- 社会の動きに対応した創造的・組織的な校務遂行に努める。
- 職員の資質及び専門性の向上のための研究・修養の充実に努める。

重点目標

R5年度

- 「自立」と「貢献」から始まる新たなOKS
～自分の思いをしっかりと伝える、相手の思いを感じる、みんなでつなぐ～
- （伝える）新学習指導要領を踏まえて、生徒と教師、生徒同士の対話による授業を通して、社会の構成員としての資質と能力を育む
- （感じる）キャッチフレーズを通して、生徒・教師・保護者・地域との対話を続け、チーム力を発揮する
- （つなぐ）生徒の質の高い学校生活のため、学校運営協議会委員と学校職員との対話を通して、効果的な学習環境を創造する

研究主題

R4～6

設定の理由

- 『時代と社会の変化に対応できる力を高める実践的研究』（3か年計画）

- ・ R4新学習指導要領の学年進行による実施スタート（過去の研究を検証）
- ・ 可能性を引き出す「個別最適な学び」協働的な学びの実現
- ・ 多様な教育方法や学習活動の展開（ICTを活用した教育、GIGAスクール構想実現）
- ・ 成年年齢の改正（R4年4月）に伴う指導内容等の検討
- ・ 第5次研究の課題＜キーワード＞（授業改善、評価基準の具体化、題材の整理、ICT機器の有効活用、対話場面の設定、情報交流）
- ・ R4年2月実施の教職員アンケートより＜キーワード＞（ICT機器の有効活用、発達障害の特性とその理解、観点別評価、キャリア教育の充実）

研究の課題

- 新学習指導要領を踏まえた教育課程の実践・改善・検証
- 多様な教育方法や学習活動の研究と実践
- 障害特性とその対応に関わる研究

研究の内容

1年目：R4（成果より）～課題解決に必要な理論を学び合う～
<input type="checkbox"/> 新学習指導要領を踏まえた教育課程の実践・改善・検証 <input type="checkbox"/> 多様な教育方法や学習活動の研究と実践 （時代背景や第5次研究の課題、アンケートから研究課題を設定し、6グループで主に理論研究を中心に行った。①ICTを活用した教育【情報モラル、授業づくり等】/②発達障害の特性を踏まえた指導法【指導に役立つポイントの整理】/③観点別評価を生かした授業【1学年個別の指導計画の検討】/④キャリア教育の充実【アンケート調査と教材の見直し】/⑤特別の教科道徳の取組【教材の発掘、年間指導計画の見直し】/⑥主体的で対話的な深い学び【授業ポイントの共有、授業フォームの検討】） <input type="checkbox"/> 障害特性とその対応に関わる研究 （8/2 夏季校内研修会「発達障害の理解と対応」、1/11 冬季校内研修会「ICT活用授業」）
2年目：R5 ～学んだ理論を実践で試す～
<input type="checkbox"/> 新学習指導要領を踏まえた教育課程の実践・改善・検証 <input type="checkbox"/> 多様な教育方法や学習活動の研究と実践 ①グループで積み残した研究課題の解決に向けた取組を継続して行う。②各グループで研究課題の解決に関わる授業研究（公開授業、授業参観）や指導法等の検証を行う。 <input type="checkbox"/> 障害特性とその対応に関わる研究 （夏季校内研修会は、北特研道央地区大会と兼ねて7/28実施、1/10 冬季校内研修会「J」）
3年目：R6 ～学んだ理論を実践で深める～
<input type="checkbox"/> 学び合った理論に基づく、授業を通してのさらなる実践と検証② <input type="checkbox"/> 3年間の研究のまとめ

研究の方法

1年目： 研究課題に基づくグループ編成（実施後）
<input type="checkbox"/> 全体研究及び6つの課題別グループによる研究活動 <input type="checkbox"/> 教職員の研究ニーズを把握し、グループ編成（主体的な取組へ） <input type="checkbox"/> 月1回の研究日を活用 □研究の進行は各グループ内で選出 <input type="checkbox"/> 研究推進係から各グループに連絡員の配置 □校内研究交流会の実施（1/13）
2年目： 研究課題に基づくグループ編成（昨年度の継続）
<input type="checkbox"/> 月1回の研究日を基本とする □グループ数、メンバーは基本的に昨年度踏襲し研究の継続性を保つ □研究の進行は各グループ内で選出 □校内研究交流会で成果の交流
3年目： 研究課題に基づくグループ編成
<input type="checkbox"/> 月1回の研究日を基本とする □全体研究、課題別グループ研究（3年間の研究成果をまとめる） □公開研究会予定（1月）

その他

- 研究の成果を整理し「研究集録第15号」として発行する。

第6次 研究計画（令和4～6年度 3か年計画 2年目）細案

1 主 題

『時代と社会の変化に敏感に対応できる力を高める実践的研究』
～ 学んだ理論を実践で試す ～

2 設定の理由と課題

(1) 設定理由

ア 第5次研究のまとめ（課題）より

次の点について、さらに研究を深める必要がある。

○今回の研究を通して、明らかになった次のような授業改善の視点や授業づくりに関わる課題を今後の授業づくりに生かし、授業の充実に努めること。

- ・評価規準の具体化と題材の整理
- ・ICT機器の有効活用
- ・生徒同士の対話場面の設定
- ・授業者間の情報交流
- ・生徒の興味・関心に応える題材の設定
- ・その他

イ 第5次研究（3年次）終了時に行った職員アンケートより

○研究主題や内容としてふさわしいと思うキーワードとは（意見が多かったもの）

- ・ICT機器を有効に活用した授業 【23】
- ・発達障害の特性とその対応 【13】
- ・観点別学習状況の評価 【8】
- ・進路に応じたキャリア教育の充実 【6】

ウ 令和5年度経営計画より

(ア) 教育方針 ※校内研究とかかわりの深いものを抜粋。太字は係がキーワードとして記入

- ・キャリア・パスポートの理念を踏まえた「OKSライフキャリアプラン」を活用し、キャリアカウンセリング、キャリアガイダンスの充実に努める。
- ・対話（コミュニケーション）能力の向上を促し、他者と協調的・社会的にかかわろうとする意欲や態度の育成に努める。
- ・学習指導要領に基づき、生徒一人一人に応じた個別の指導計画と両立した教育課程の編成・実施・評価に努める。
- ・GIGAスクール構想に基づき、ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの両立に努める。

(イ) 経営方針 ※校内研究とかかわりの深いものを抜粋。

- ・教職員相互による信頼と協力・協働により、チーム学校づくりに努める。そのために、相互の対話（コミュニケーション）のためのスキルを身に付ける。
- ・社会の変化や生徒の実態、保護者等や地域の願い等に応じた、教育課程の改善に努める。
- ・社会の動きに対応した創造的・組織的な校務遂行に努める。
- ・職員の資質及び専門性の向上のための研究・修養の充実に努める。

(ウ) 重点目標 ※5年度の経営計画をうけて修正

「自立」と「貢献」から始まる新たなOKS

～ 自分の思いをしっかりと伝える。相手の思いを感じる。みんなでつなぐ ～

- ・ 伝える (教育) 新学習指導要領を踏まえて、生徒と教師、生徒同士の対話による「OKS授業フォーム(型)」を通して、社会の構成員としての資質と能力を育む。
- ・ 感じる (文化) キャッチフレーズを通して、生徒・教師・保護者等・地域との対話を続け、チーム力を発揮する学校をつくる。
- ・ つなぐ (経営) 生徒の質の高い学校生活のために、コミュニティ・スクールでの運営委員と学校職員の対話を通して、効果的な学習環境を創造する。

(エ) 教育動向等

- ・ 令和4年度入学生徒より高等部新学習指導要領の学年進行で実施、2年目
- ・ 「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」(令和3年1月文部科学省 中央教育審議会答申)
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大などの先行き不透明な「予測困難な時代」を乗り越えて
- ・ 多様な教育方法や学習活動の展開(ICT機器を活用した教育、GIGAスクール構想の実現～本校もR4年10月よりタブレット生徒1人1台所持)
- ・ 学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実(令和4年4月1日からの成年年齢の改正に伴い高等部在学中に主権者に)

エ まとめ ※1年目の研究成果と課題及び5年度の経営計画をうけて修正

これらを総合的に踏まえ、開校14年目にあたる昨年度からの研究では、第5次研究「学習指導要領等の教育動向を踏まえ、教育課程の見直しと授業の充実を目指す実践的研究」の成果と課題を継承しながら、①新学習指導要領の実施、②コロナ禍での学校生活、③成年年齢の改正などに代表される「時代と社会の変化」に敏感に対応できる力を高めることが求められると考え、第6次研究主題を前述のように設定することとした。

さらにグループ編制に当たっては、2年目の今年度も、経営方針や重点目標にある「チーム学校づくり」や「創造的・組織的な校務遂行」の実現のために、希望する「研究課題のニーズ」と「学年・学科の枠を超えた対話」でつながる研究テーマごとの縦割り編制とした。これにより職員が自主性をさらに発揮し、実践に生かせる、やりがいのある校内研究を目指したい。

(2) 研究の課題

設定の理由で述べたように、多くの研究課題を整理・分類したところ次の3点にまとめることができる。またグループの研究課題との関連は次のとおり。

- ① 新学習指導要領を踏まえた教育課程の実践・改善・検証
(観点別学習状況の評価を生かした授業、キャリア教育の充実、特別の教科 道徳の取組)
- ② 多様な教育方法や学習活動の研究と実践
(ICTを活用した教育、主体的で対話的な深い学び)
- ③ 障がい特性とその対応に関わる研究
(発達障害の特性を踏まえた指導法)

3 仮説

- (1) 各年度で重点的に研究内容を絞り込んで組織的に取り組むことで、教育課程の実践・改善・検証が円滑に図られる。
- (2) 研究課題を分析し、課題解決に見合った研究体制を整えることで、効率的に研究活動が推進できる。「対話」を通し、共通理解のもと、創意工夫のある、主体的な研究活動が期待できる。

※最終的な仮説の検証、考察は研究最終年度に行う。

4 年次計画

昨年度から高等部学習指導要領の本格実施となったことを踏まえ、教育課程の検証を図るために3か年計画としている。

年次	主な研究内容	研究の方法（体制）
1年目 (成果)	<p style="text-align: center;">重点 「研究課題解決に必要な理論を学び合う」</p> <p>□時代背景、職員アンケートなどから研究課題を設定</p> <p>●新学習指導要領を踏まえた教育課程の実践・改善・検証</p> <p>●多様な教育方法や学習活動の研究と実践</p> <p>●障がい特性とその対応に関わる研究</p> <p>①ICT機器を活用した教育 (情報モラルや授業づくりの研究)</p> <p>②発達障害の特性を踏まえた指導法 (文献研究、指導に役立つポイントの整理)</p> <p>③観点別学習状況の評価を生かした授業 (1学年個別の指導計画で活用した結果の検討)</p> <p>④キャリア教育の充実 (アンケート調査と教材の見直し)</p> <p>⑤特別の教科 道徳の取組 (教材の発掘、年間指導計画の見直し)</p> <p>⑥主体的対話的な深い学び (授業のポイントの共有、授業フォームの検討)</p> <p>●障害特性とその対応に関わる研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/2 夏季研修会の実施(発達障害の理解と対応) ・1/11 冬季研修会の実施(ICT機器を活用した授業) <p>□学び合った内容の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/13 校内研究交流会の実施、寄宿舍も含め、7グループで交流(3年ぶりに実施) 	<p>研究課題に基づくグループ編制</p> <p>教職員の研究ニーズを把握し編制</p> <p>月1回の研究日</p> <p>全体研究</p> <p>校内研究交流会(冬季休業中)</p> <p>長期休業中の校内研修会</p>
2年目 1年目の課題より	<p style="text-align: center;">重点 「学んだ理論を実践で試す」</p> <p>□学び合った理論に基づき、を授業を通しての実践と検証①</p> <p>●新学習指導要領を踏まえた教育課程の実践・改善・検証</p> <p>●多様な教育方法や学習活動の研究と実践</p> <p>●障がい特性とその対応に関わる研究</p> <p>(1) 昨年度、グループで積み残した研究課題の解決に向けた取組を今年度継続し、形あるものにしていく。</p> <p>(2) 各グループで研究課題の解決に関わる授業研究等(授業見学、授業参観等)や指導法の検証を行う。</p> <p>①ICT機器を活用した教育 (ICT機器の活用、モラル教育に関する教科「情報」の充実と検証)</p> <p>②発達障害の特性を踏まえた指導法 (さらなる文献研究、指導に役立つポイントの整理、困難や問題行動のメカニズムの分析を生かした実践と検証)</p> <p>③観点別学習状況の評価を生かした授業 (さらなる文献研究、客観的な基準の作成、評価方法の検討と検証)</p> <p>④キャリア教育の充実 (ライフキャリアプランの理解と活用、キャリアカウンセリングの充実、キャリアパスポート取組の検討と検証)</p> <p>⑤特別の教科 道徳の取組 (基底となる指導計画の更新、各学年の年間指導計画の作成年間指導計画との整合性などの検証)</p>	<p>研究課題に基づくグループ編制(継続)</p> <p>6月より月1回研究日(年間7回)</p> <p>全体研究</p> <p>校内研究交流会</p>

	<p>◎主体的で対話的な深い学び （主体的で対話的な深い学びのポイントが分かる授業フォームの検討と検証）</p> <p>●障害特性とその対応に関わる研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/28 「北特研道央地区大会」 （夏季研修会を兼ねて開催） ・1/10 「冬季研修会」予定 <p>□学び合った内容の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/13 「校内研究交流会」の実施 	
3年目	<p>重点 「学んだ理論を実践で深める」</p> <p>□学び合った理論に基づく物を授業を通しての実践と検証②</p> <p>□3年目の研究のまとめ</p> <p>□研究の成果の発表（12月 公開研究会予定）</p>	各教科等のグループを編制 学習内容等を効率的に検討できる体制

5 内容と方法（2年目）

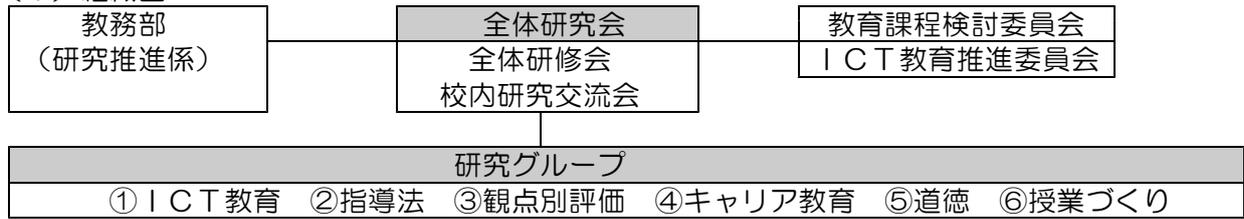
研究課題を効率的に検討していくために、昨年度のグループを継続し、積み残された課題（研究集録第14号参照）を中心にグループで検討し、授業研究等を通して「主体的・対話的な深い学び」のある授業づくりについて検証する取組を行う。

グループ名	具体的な取組（昨年度から積み残した課題）
① ICT教育	<p>【研究内容】～ICT機器を活用した教育、情報モラル教育について〈活用グループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○視点をかえてのICT機器の活用 ○ICT機器を活用した教科「情報」の充実（PCやアプリの基本操作等） ○教科「情報」の基底となる指導計画、年間指導計画の見直し・改訂〈モラルグループ〉 ○学習する場面と学習内容の統一的視点 ○教科「情報」における情報モラル教育の充実 <p>【研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論研究、課題に基づく協議、授業研究での課題の検証 ○ICT機器を活用した「主体的・対話的な深い学び」を目指す授業研究 <p>-----</p> <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の効果的な活用方法（さらなる実践事例の蓄積） ・ICT機器活用における統一的視点での指導の在り方 （学級、教科「情報」） <p>-----</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究集録「躍動」第14号
②発達障害指導法	<p>【研究内容】～発達障がいの特徴を踏まえた指導法、指導法に役立つポイントの整理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導にも対応できる資料にするために、さらに多くの文献研究 ○「なぜ、どうして」という困難のメカニズムの分析 ○事例と指導法を増やし、実践につなげる <p>【研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論研究、課題に基づく協議、授業研究での課題の検証 ○授業研究を通じた生徒の困難、課題に応じた指導法の実践検証 <p>-----</p> <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害特性に応じた指導のポイントを生かした授業展開の工夫 （さらなる事例の蓄積） <p>-----</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究集録「躍動」第14号

③観点別評価	<p>【研究内容】～観点別学習状況の評価を生かした授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に対応した観点別評価の参考文献の発掘 ○公正で客観的な評価のための基準の作成 ○実践を通じた評価の記述の工夫 <p>【研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論研究、課題に基づく協議、授業研究での課題の検証 <p>○観点別評価の基準を取り入れた指導略案の作成と授業実践等による検証</p> <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価基準を生かした授業の在り方（目標と評価の一体化、授業の充実） <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究集録「躍動」第14号
④キャリア教育	<p>【研究内容】～キャリア教育の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○OKSライフキャリアプランの理解と活用 ○キャリアカウンセリングの充実 ○キャリアパスポートの取組 <p>【研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論研究、課題に基づく協議、授業研究での課題の検証 <p>○可能ならば「授業参観（進路学習など）」での課題の検証</p> <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアカウンセリングの効果的な実施方法及び活用しやすい教材の開発 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究集録「躍動」第14号
⑤道徳	<p>【研究内容】～特別の教科 道徳の取組（教材の発掘、年間指導計画の作成）について</p> <p>〈教材発掘グループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画と題材の整合性を整える ○活用目指して題材の略案やワークシートの充実 ○取り扱えなかった題材についての発掘 <p>〈年間指導計画グループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年ごとに年間指導計画を作成 ○基底となる指導計画の更新 <p>【研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論研究、課題に基づく協議、授業研究での課題の検証 <p>○道徳の授業研究（授業参観等）を通じての検証</p> <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳指導における具体的な題材と教材の充実・整備 ・学年ごとの年間指導計画の作成 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究集録「躍動」第14号
⑥授業づくり	<p>【研究内容】～主体的で対話的な深い学びの授業の充実について（授業ポイントの共有と授業フォームの検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「OKS授業フォーム」の検討、作成、提案（指導計画、略案） →主体的・対話的な深い学び」を意識し、授業の充実につなげる。 <p>【研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論研究、課題に基づく協議、授業研究での課題の検証 <p>○研究の成果「ピクトグラム※を取り入れた略案等」に基づく授業実践とその有効性の検証を授業研究で行う。</p> <p>※「主体的で対話的な深い学び」により実現したい子供の姿をイメージしたもの</p> <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的な深い学び」の視点を取り入れた授業の充実 ・新しい授業フォームの提案（略案、指導計画等） <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究集録「躍動」第14号

6 体制

(1) 組織図



(2) グループメンバー

- ・ チーフ（推進、まとめ）はグループ内で話し合って選出してください。
- ・ 司会、記録者などは輪番等で行ってください。
- ・ 月1回の「研究日」を有効に活用し、日によって参加者が少なくても極力延期せず、複数人そろったら活動を行きましょう。参加できなかったメンバーとも書面等で内容の共有をしましょう。
- ・ 各グループに研究推進係より研究推進委員を配置していますので、推進上の相談をしてください。
- ・ 活動時は状況に応じて、教室の換気・適切な距離など感染症対策もよろしくお願いいたします。

今年度の新転入者

新転入者	1 学年	2 学年	3 学年	
※着任後にアンケート調査第3希望まで受付けてその後調整	門間 佐々木敏 久保 亀谷 折 中島 外館 小笠原	村上 安藤 行田 梅野	相澤 大槻 奥山 櫻田 片岡 (木村)	18名 ※グループの人数バランスを考慮

※木村Tは、昨年12月赴任。研究にほとんど参加できなかったため今年度より参加。

今年度新転入者を含めたグループ構成（案）

↓ チーフ所属教室等

名 称	メンバー			場 所(仮)
	1 学年	2 学年	3 学年	
① ICT教育	○大野 久保	山田宏 中野 富山 鈴木宏 志賀	小山 鈴木美 小蕎 片岡 大槻	12 視聴覚室
② 指導法	兼平 濱谷 武澤 関川 ○折 外館	香城 石川 藤巻 菊田	岩川 俵 小早川 奥山	14 会議室
③ 観点別評価	奥村 佐々木み 山森 横堀 中村 小笠原	○富加見 梅野	三上 相澤(木村)	11 音楽室
④ キャリア教育	内藤 大久保 鈴木有	山本 ○牟禮 (奈良) 村上	小谷 成松 福澤	10 家庭科室
⑤ 道徳	亀谷 門間 ○佐々木敏	田村 茶谷 上村 行田	長田 岡田 櫻田	10 美術室
⑥ 授業づくり	森谷 小松 佐々木美 中島	安藤	浅井 新山 ○大滝 高橋 池本	10 理科室

※太字は、今年度、赴任された先生方等

※○印は、研究推進委員（研究推進係） 第1回目の司会及び日常的な連絡・調整（各グループと研究推進係の連絡・調整）担当。

7 推進日程

推進に向けては、昨年度の各グループの研究進捗状況にもよるが、
 ※1学期は、昨年度の課題を継承した理論研究、課題に基づく協議を中心に行う。
 ※2学期は、公開授業や授業参観を通じての授業研究による検証を中心に行う。

月	研究日	全体研修等	研究の内容
4		20 職員会議	第6次研究計画2年目計画 概要の周知
5	11 全体		第6次研究計画2年目計画 細案の周知
6	16 ①		<ul style="list-style-type: none"> 各グループの体制確立、研究内容の確認 年間活動計画の検討
7	14 ②	28 北特研道央地区 大会兼夏季校内 研修会	<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進 道央地区大会全体講演、講座における研修
8	24 ③		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進
9	20 ④		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進 授業研究等を通じた研究の検証開始～ 研究状況の中間発表（研究だより：紙面）
10	20 ⑤		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進
11	16 ⑥		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進
12	14 ⑦		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進 研究の成果と課題の検討、1月交流会の準備
1	12	10 冬季校内研修会 12 校内研究交流会	<ul style="list-style-type: none"> 「発達障がいの特性とその対応（仮）」 各グループの研究成果の発表交流
2	15	15 全体研究	<ul style="list-style-type: none"> 研究の成果と課題のまとめの確認（係提案）
3			研究集録第15号印刷
4			研究集録第15号丁合い、製本、発行

8 参考資料

- *今年度は「学んだ理論を実践で試す」ことを重点としています。各グループにおいて協力しながら、昨年度の研究課題の積み上げや検証に取り組むようお願いいたします。
- *4月28日発行の「研究集録第14号」を大いに活用してください。
- *毎月の研究日に向けて、後日、研究推進係から「共通レジュメ（様式）」等を提示します。チームの先生は、議題等を作成の上、各グループ研究の推進をお願いします。また、データをデスクトップに張り付けてグループ研究に臨んでも結構です。ペーパーレスで資源 節約)
- *記録については、レジュメ等に記録し、データを所定の場所に保存してください。

9 研究計画の全体構造

- ・第6次 研究計画（令和4～6年度）2年目の概要 <別紙> ※4月14日職員会議提案

グループ研究の成果と課題

1 研究の方向性と内容

(1) ICT 教育グループの研究について

本グループでは、“ICT を活用した各教科の授業づくり”、“「教科 情報」における情報モラル等の指導内容の検討・年間指導計画の改善”を研究の方向性として進めてきた。ただし方向性が複数あるため、グループ内で活用グループ・モラルグループをつくり、研究の方向性に対応した編成を行った。

(2) 昨年度の研究結果について

ア 活用グループ

昨年度は作業学習に焦点を当て、現状を検討したところ、ICT 機器を活用した指導を展開していくのは教師の ICT 活用に関する知識・技術の不足等を踏まえるとまだ難しい部分が多い。また作業日誌のデジタル化を進めても、教師間の連携を図る等の実現に向けたハードルがまだ多いことが分かった。

イ モラルグループ

昨年度は、学級（個別）で教える場面と学年（集団）で教える場面それぞれの方向性について検討し、生徒の課題の多くが「社会人としての一般的なモラル、マナー」「コミュニケーションは、直接よりも SNS 等に頼る傾向」であることが分かった。それをもとに、今後の指導は新教育課程に準拠しつつ、モラル・マナーの学習に比重を多くしたほうがよいことが分かった。

(3) 今年度の研究について

ア 活用グループ

引き続き作業学習に焦点を当て、昨年度の研究結果のもとに今年度は各学科の作業学習での ICT 活用状況の調査を行った。

イ モラルグループ

生徒の課題を更に細かく把握するために、生徒のモラルに関する生徒指導の実態の調査や、その調査結果に基づいた情報モラル等の指導内容の検討を行った。

2 研究の成果

(1) 活用グループ

各学科の作業学習の様子の中で、ICT を活用しているのがどの場面なのか調査を実施した。（資料 1）共通した成果としては、「作業工程などを可視化することで自分の役割を理解し、積極的に取り組む場面が増えたこと」「提示する教材や言葉で伝えにくいことが可視化されたことで、生徒の理解が深まったこと」が挙げられた。また、デザインを決める過程で著作権について学ぶことができた等、過程の中で目的に関連した学びを深められたといった学びの幅が広がったという成果もあった。

その他に、生徒の学習効果だけでなく「作業手順を動画としてまとめることで生徒も教師も引き継ぎがしやすい」「データを共有することで、生徒情報を把握しやすい」という教師側への成果や負担軽減にも繋がっている。

生産技術科の実践

●3学年

- ・紙製品に使用するイラストを
フリーボードアプリを活用して、デザイン決め。

●2学年

- ・作業目標や日程の確認 ・製品管理
- ・日誌の記入

●1学年

- ・掲示物の作成

木工科の実践

●3学年

- ・調べ学習による木工製品のデザイン決め。

●2学年

- ・木工製品のデザイン決め ・作業手順の動画作成
- ・日誌入力や振り返りでの活用 (Classroom)
- ・元さん工房の注文用HP作成 (Googleサイト)

●1学年

- ・振り返りシートの入力

【学校祭関係】
・製品紹介用CM作成 (iMovie)
・会計アプリを活用した会計作業 等

環境・流通サービス科の実践

●3学年

- ・コンビニまらしょう

●2学年

- ・調べ物学習 ・作業日誌

●1学年

- ・学校祭時のレジ

家庭総合科の実践

●3学年

- ・製品作成方法 (動画にて説明)

●2学年

- ・作業工程の確認

●1学年

- ・作業工程の確認

福祉サービス科の実践

●3学年

- ・接客、介護の動作確認
- ・動画編集 (接客用ビデオ)

●2学年

- ・接客、介護の動作確認
- ・掲示物作成

●1学年

- ・掲示物作成
- ・動画を活用した、自分の動作確認 (笑顔など)

資料1：各学科のICTを活用した授業実践の現状

(2) モラルグループ

本校指導部の協力のもと、モラルに関する生徒指導（学年指導以上）について調査を行い、「不適切なSNS利用」がモラルに関する生徒指導の中で最多で、毎年指導が行われていることが分かった。（資料2）具体的な内容としては、不適切な写真を送る、仲間同士の悪口を言う等である。

また、令和2年度から

寄宿舎でもモラルに関する生徒指導案件（寄宿舎での携帯の無断持ち込み）があったことが調査で判明した。しかし年度によって生徒指導の件数に増減がみられるため、当時在籍していた生徒の実態が影響していると考えられる。

更に、教師側からモラルに関する生徒指導の実態について調査したところ、「指導を行ってもICT機器の使い方のルールを守れない」「一度の指導だけでは理解が深めることが難しく、同じ指導を何度も行う」等の困り感を抱えていることが分かり、また教師間で統一した指導が未だ不十分という現状も把握できた。

この調査結果により、教科・情報におけるモラルの学習においては「生徒の実態に即した内容」がポイントになるのではないかと考え、生徒の情報モラルに関する実態や教科・情報の基底となる指導計画（モラル部分）を参考に情報モラルの学習内容について検討した。（資料3）そこで、現時点で検討している学習内容を単発で行うのではなく、生徒の学習時の理解状況・生徒の情報モラルに関する実態をもとに、同じ内容を継続して学習するような構成のほうが生徒の理解力が深まるのではないかという結論に至った。（資料4）

【過去の生徒指導状況 ※学年指導以上】

年度	指導内容	件数
平成28年	不適切なSNS利用	1
平成29年	不適切なSNS利用	6
平成30年	不適切なSNS利用	3
平成31年 令和元年	不適切なSNS利用	6
令和2年	不適切なSNS利用 携帯の無断持ち込み	4
令和3年	不適切なSNS利用 携帯の無断持ち込み	2
令和4年	不適切なSNS利用 携帯の無断持ち込み	4

※参考：「平成28年度～令和4年度の問題行動と指導措置について」（指導部作成）

□ 「不適切なSNS利用」が最多
↳ ※特に画像のやり取り

↓

□ 令和2年度からは「携帯の無断持ち込み」（寄宿舎）
↳ ※生徒同士で噂も存在

↓

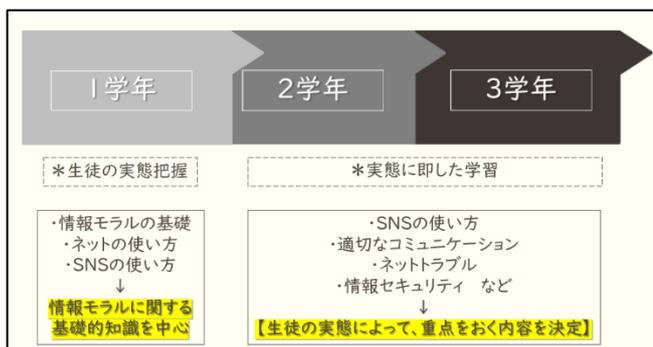
□ 「情報モラルに関する生徒指導」は依然多い状況

資料2：現在までの情報モラルに関する生徒指導の実態

資料3：教科・情報「基底となる指導計画」を参考に検討した学習内容
※継続した指導（下線部）を展開する場合

	1学年	2学年	3学年
1学期	【ネット依存①】 <u>（使用時間について）</u>	【ネット依存②】 <u>（使用時間について）</u> （健康等への影響）	【SNS等のトラブル③】 <u>（情報の伝え方）</u> （周りにへの影響、気持ち等）
2学期	【ネット被害①、②】 <u>（ネットについて）</u> （拡散の怖さ）	【ネット被害③、④】 <u>（ワンクリック詐欺等）</u>	【情報セキュリティ】 <u>（著作権、パスワード管理等）</u>
3学期	【SNS等のトラブル①】 <u>（情報の伝え方）</u> ※画像等を含む	【SNS等のトラブル②】 <u>（情報の伝え方）</u> （情報のウソ・ホント）	【適切なコミュニケーション】 <u>（社会人としての心掛け）</u> ※学習のまとめ

資料4：研究グループで考察した「モラルに関する学習への考え方」



3 今後の課題

(1) 活用グループ

作業学習での活用状況を今回調査したが、作業内容を踏まえての活用は学科によっては積極的な活用は難しいことが確認された。特に機械を扱う木工科は、木くず等が ICT 機器類の破損に繋がりにかからないため作業中の使用は難しい。そのためどのように ICT 機器を活用していくのか、学習内容によって検討が必要となる。しかし検討が作業学習担当の教師を中心となり、その教師らへの負担が増加傾向にある。また、比較的取り組みやすい動画を活用した内容を授業に取り入れるとしてもその前段階のマニュアル等のデータ化に時間を要しているのが、現状である。

その他に、学校保有の ICT 機器は数少なく、常に活用することが難しい。そのため、現在教師で使用している ICT 機器の多くは教師の私物である。また、データ共有に関して校内研修で Google ドライブ等の共有ドライブを学んでいるが、まだ活発な動きは少ない。

(2) モラルグループ

今年度までは1・3学年に教科・情報があり（ただし3年は選択科目）、その中でモラルの学習を行ってきた。しかし、単発な内容でその後の継続した指導への展開については不透明であった。また、生徒の実態の中でもモラルに関する実態については把握しきれておらず、教師間でもモラルに関する生徒指導では苦慮することがあった。

指導の現状として、モラルの指導を行っても生徒は他人事のように受け止め、自分に置き換えて考えることが難しい。そのため、授業の中で事例を提示しても「分かっている」という反応が多く、実際に自分の身に起きた場合に適切な対処ができておらず、結果指導に繋がっているケースが多い。

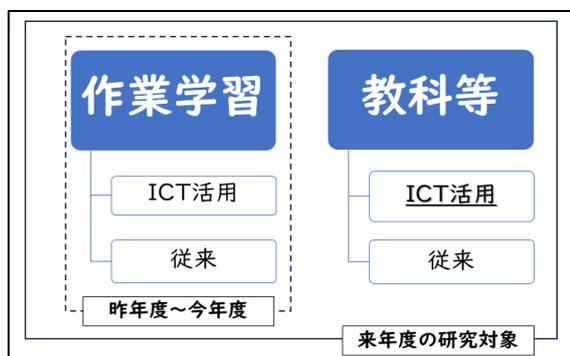
来年度からは2学年にも教科・情報の授業が導入され、3年間情報を学ぶことができるようになる。現時点では3年間分の教科・情報の基底の指導計画や年間指導計画は作成されているが、今後は研究成果と課題を参考に年間指導計画等の見直しが必要と考えられる。

4 次年度（最終年度）に向けて（研究の方向性）

(1) 活用グループ

次年度では教科にも幅を広げていき、各教科での ICT の活用状況を調査する。それを踏まえて、各教科における ICT を活用した成果と課題を取り上げ、どのような活用方法が生徒の学びを深められるのか検討する。（資料5）

また今年度で得た成果と課題をそのままにせず、それらを活かして多くの教師が ICT を活用できるように授業づくりのポイント等のまとめていき、教師の負担軽減に繋げていくことを研究の方向性として進めていく。



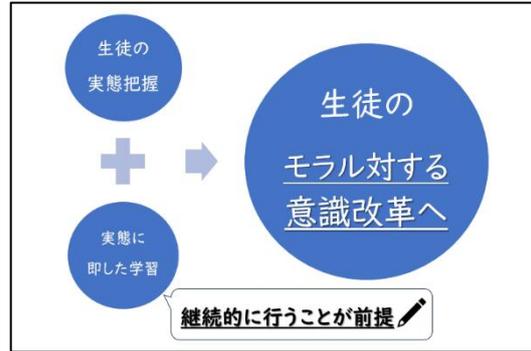
資料5：来年度の研究（活用グループ）のイメージ

(2) モラルグループ

昨年度から今年度まで、今後の充実したモラル学習に向けての検討材料を収集・検討が中心で進めてきた。

次年度は、全学年で教科・情報の授業が開始するため、全校的にモラルに関する学習を授業で学ぶ機会がある。その機会を無駄にしないために、これまでの研究で得た成果等をもとに年間指導計画の改訂を進めていく。具体的には、生徒の実態（モラルに関する部分）に重きをおき、そこに文部科学省が作成した情報モラル指導モデルカリキュラム等を参考に、実態に即した学習計画を立て、PDCAサイクルを用いて検証を行う。

そして、その検証から生徒の意識改革等の糸口を追究し、本校のモラルに関する学習の指針を提起する。（資料6, 7）



資料6：モラル学習を計画する際のイメージ

情報モラル指導モデルカリキュラム表		この表は、情報モラルの指導カリキュラムの内容を小・中・高一貫のモデルカリキュラムとして示したものです。このモデルカリキュラムの目標は、学校教育全体の中で達成していくことが望ましく、本モデルカリキュラムを参考に、それぞれの学校では、地域の実情に合わせ、情報モラルのカリキュラムを組み立て、実施してください。各目標の詳細は、Webページをご覧ください。http://www.japet.or.jp/moral/guidebook/				
＜大目標・中目標レベル＞		L1: 小学校1～2年	L2: 小学校3～4年	L3: 小学校5～6年	L4: 中学校	L5: 高等学校
1. 情報社会の倫理	a1-3: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ	a1-1: 約束や決まりを守る	a2-1: 相手への影響を考えて行動する	a3-1: 他人や社会への影響を考えて行動する	a4-5: 情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす	a5-1: 情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす
	b1-1: 人の作ったものを大切にすることを大切にする	b2-1: 自分の情報や他人の情報を大切に	b3-1: 情報にも、自分の権利があることを知り、尊重する	b4-5: 情報に関する自分や他人の権利を理解し、尊重する	b4-1: 個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重する	b5-1: 個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する
2. 法の理解と遵守	c2-3: 情報社会でのルール・マナーを遵守できる	c2-1: 情報の発信や情報やりとりする際のルール・マナーを知り、守る	c3-1: 受け手・発信者に対する行為を知り、絶対に行わない	c3-2: 「ネットやまわりを守る」ということの意味を理解し、尊重する	c4-1: 違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない	c5: 情報に関する法律の内容を理解し、遵守する
	c3-3: 契約行為の意味を知り、公平な判断で行わない			c4-2: 情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る	c5-2: 情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動する	c5-3: 契約の内容を正確に把握し、適切に行動する
3. 安全への配慮	d1-3: 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる	d1-1: 大人と一緒に使い、危険に近づかない	d2-1: 危険に出会ったときは大人に意見を求め、適切に対応する	d3-1: 予測される危険の内容がわかり、避ける	d4-5: 危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する	d5-1: 情報社会の特性を理解する
	e1-3: 情報を正しく安全に利用することに努める	e2-1: 知らない人に、連絡先を教えない	e2-2: 個人の情報は、他人にも教えない	e3-2: 自他の個人情報を、第三者にも教えない	e4-5: 情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける	e5-1: 情報の信頼性を吟味できる
4. 情報セキュリティ	f1-3: 安全や健康を害するような行動を抑制できる	f1-1: 決められた利用の時間や約束を守る	f2-1: 健康のために利用時間を決め守る	f3-1: 健康を害するような行動を抑制する	f4-5: 自他の安全や健康を害するような行動を抑制できる	f5-1: 情報の信頼性を吟味し、適切に対応できる
	g2-3: 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る	g2-1: 認証の重要性を理解し、正しく利用できる	g3-1: 不正使用や不正アクセスされないよう利用できる	g4-5: 情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につける	g4-1: 情報セキュリティの基礎的な知識を身につける	g5-1: 情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ、適切な行動ができる
5. 公共的ネットワーク社会の構築	h2-3: 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ	h2-1: 協力し合ってネットワークを使う	h3-1: ネットワークは共有のものであるという意識を持って使う	h4-5: 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる	h4-1: 基礎的なセキュリティ対策が立てられる	h5-1: 情報セキュリティに関する事前対策・緊急対応・事後対策ができる
	i2-3: 情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる	i2-1: ネットワークの公共性を意識して行動する	i3-1: ネットワークの公共性を意識して行動する	i4-5: ネットワークの公共性を意識して行動する	i4-1: ネットワークの公共性を意識して行動する	i5-1: ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する

資料7：情報モラル指導モデルカリキュラム（出典：文部科学省）

5 参考文献

- 文部科学省（2023）教育の情報化の推進。https://www.mext.go.jp/a_menu/shoutou/zyouhou/index.htm。（参照 2023年12月26日）

研究成果

1. 現状と課題

本校の研究主題は「時代と社会の変化に敏感に対応できる力を高める実践的研究」であり、昨年度より3カ年の計画で研究が推進されている。この研究では、研究課題を3点挙げており、その中の一つに「障害特性とその対応に関わる研究」がある。昨年度は、生徒一人一人の個別の教育的ニーズに応じた指導を充実させるために、発達障害のある生徒への指導に関する知見の蓄積を進めてきた。

これは、2007年に行われた特殊教育から特別支援教育への転換でもいわれており、「場の教育」から「ニーズの教育」への転換であり、特別支援教育は、子ども一人一人のニーズを把握し、そのニーズに応じた適切な配慮・支援を行うことを目指している（柘植,2013）ことと矛盾しない。

昨年度までの研究の成果では、障害の理解と知識の蓄積に効果があったとしている。しかし一方では、課題として、本校の事例と収集した知見の合致に困難性があること、また、問題行動の理解には至っていないこと、理論を実践に繋げられないことが課題となっていた。

この点について、発達障害（特に自閉症スペクトラム：Autism Spectrum Disorder 以下 ASD、注意欠如多動性障害：Attention-Deficit / Hyperactivity Disorder 以下 ADHD）のある生徒の指導の困難性について、特別支援教育士資格認定協会（2018）では、困難性が多岐にわたり複雑化するとともに、生育歴や生活環境によっても影響を受けることを指摘している。また、日本の通常の学校では、集団行動と集団学習が重視されるため、行動面のつまずきが顕在化することが多い。さらに、思春期は、友人関係が複雑なものとなり、自意識の高まりと周囲と自分の比較による、自尊感情や自己肯定感が低下することが多い。これまでの失敗経験に起因する自己不全感から二次的な障害を生じさせることが明らかとなっている。

このような、発達障害の状態に応じた支援を充実させることは青年期の生徒にとっては重要である。さらに、発達障害のある人に役立つ支援は障害のない人にも役立つ支援であり、誰もが過ごしやすい共生社会の形成の基盤になるものとされている（文部科学省,2007）。

本校は知的障害の単独設置の特別支援学校である。しかし現状として、ASDかADHDを合わせ有する生徒が大半を占めており（Fig.1）、その行動面における問題への対応に追われることが多い現状である。

日本における発達障害の定義として2016年に改正された発達障害支援法（平成16年法律第167号）第2条1項では、「自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠如・多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその状態が通常低年齢において発現するもの」と定義している。

昨年までの文献研究では、広義での発達障害（Fig.2）としており、定義では知的障害を明確に示すものではないが、知的障害も含めて文献研究を実施している。

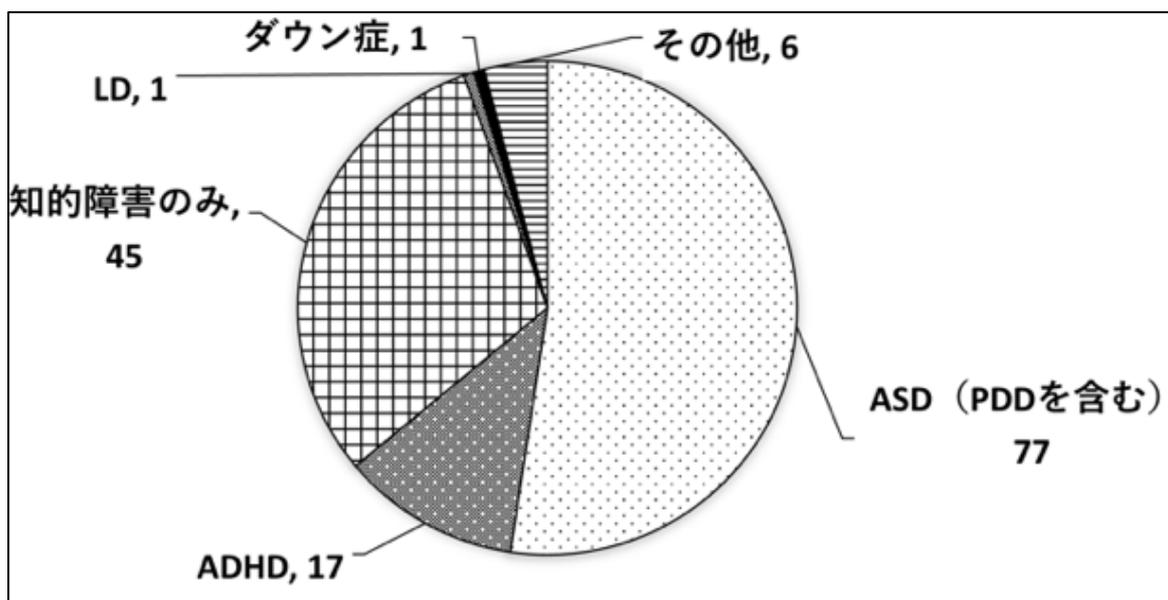


Fig.1 本校の障害別の状況

今年度は、より狭義の発達障害として ASD、ADHD の 2 障害を対象に研究を実施することとした。また昨年度までは、学習障害：Learning Disability 以下 LD について扱っていたが、LD の定義として、基本的には知的発達の遅れはない (IQ70 以上) 聞く、話す、計算する、読む、書く、推論する、のうち特定のものの習得に困難性を示す状態であるとしており (国立特別支援教育総合研究所,2020) 本校は知的障害特別支援学校であり対象の生徒も少ないことから、LD は除外した。さらに、昨年度までの研究から、行動問題に対応した指導方について研究を進める必要があるとしていることから、応用行動分析：Applied Behavior Analysis 以下 ABA についても文献研究を実施することとした。

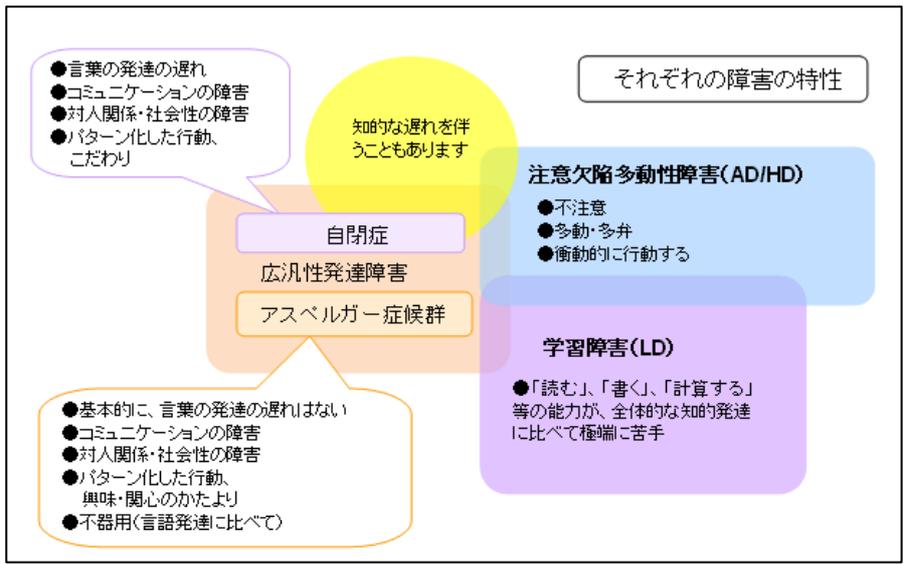


Fig. 2 それぞれの障害特性 (出典：厚生労働省)

日本 LD 学会 (2016) では、ABA について「個体の内的要因で説明するのではなく、環境要因に求める。そして、行動の生起に影響を与える環境要因を明らかにすることを通して、行動と環境の相互の法則性を見出すことを目的としている」とし、人の行動を良い方向に変化させるために、直接人に働きかけることと、周囲の環境を修正し結果として行動を変化させることができる理論であり、その有効性について ASD、ADHD への適応について種々の研究実績があることから ABA についても知見を蓄積することが必要であることが考えられることから対象とした。

2. 研究の目的

本研究の目的は発達障害のある生徒に対する行動問題の指導について、文献研究を行い、これまでの先行研究からの知見を統合し、統合された知見をもとに行動問題に対する事例について効果的指導方法について検討を行うことを目的とした。また、その事例検討の効果について質問紙調査から教師の認識について検討することとした。

3. 研究の方法

研究の方法として文献調査では、インターネットに掲載されている学会誌や研究紀要について、「CiNii」、「Google Scholar」、「J-stage」の論文検索サイトを活用し、「ASD」、「ADHD」、「ABA」のそれぞれの内容について行動問題における有効とされる指導方法や取り組みについて文献を集めた。

さらに、その指導方法や取り組みについての実践研究を実施し、その後の質問紙調査からその有効性について検討を進めた (Fig.3)。この内容について、文献研究法 (レビュー研究) と発達障害に有効とされる支援に関する概論について外部講師 (つくば市立吾妻小学校通級教室担当教諭兼、筑波大学大学院博士後期課程在学) を招聘し、オンラインによる研修会 (別紙資料) をグループ内で実施した。

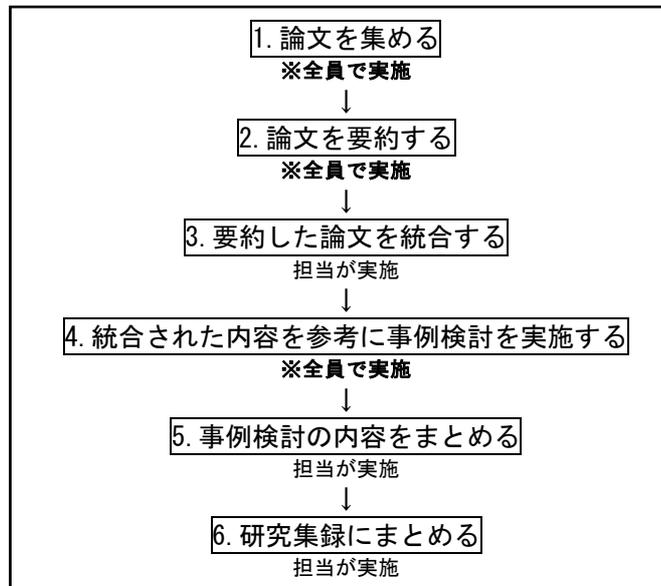


Fig. 3 研究推進のフローチャート

4. 結果

(1) 文献研究

文献は ASD に関する論文が 6 件 (Table.1)、ADHD に関する論文が 2 件 (Table.2)、ABA に関する論文が 8 件 (Table.3) であった。それぞれの項目で重複する論文は 0 件であった。

論文の収集は、グループ担当で分担し収集した。集約する際の項目は、論文のタイトル、目的、方法 (対象、分析方法など)、結果、考察の内容について、論文を 1 人につき 2 本収集した。また、論文を要約する際は、論文を精読する要約と、Artificial Intelligence : 以下 AI を活用し集約をすることも可能として集約作業を進めた。集約では、インターネットに公開されている Open AI 社が提供する Chat GTP を利用した、Chat PDF (<https://www.chatpdf.com>) を利用し AI による要約作業を実施した。

ア ASD の要約の統合結果

6 件の研究の内訳は、18 歳以上を対象としたものが 2 件、小学校から高校生までの年代を対象としたものが 3 件、それ以外が 2 件であった。また、研究方法としては、コホート研究、統計的分析を行った研究、文献研究、実践研究、アンケート結果から指導プログラムを検討する研究であった。

ASD のある人を対象とした指導では、本人と支援者それぞれの立場に求められており、さらに早期発見、早期支援が重要である。本人に求められるものとしては、自己理解を深め支援を受けることの必要性を本人が理解することが前提となる。さらに、自己決定能力を向上させることが必要とされていた。

教師を含む支援者に求められるものとしては、適切な支援を行うための高い専門性が求められると共に、的確なアセスメントが求められており、一番に困っているのは本人であるという認識を持つことが必要であるとされていた。さらに、行動問題においては、機能分析から、適切な行動の設定手続きを検討し、適切な行動を強化する視点が必要である。また、支援者間で共有できるツールを持つことが求められており、そのツールを活用するための支援者自身のトレーニングが重要である。

イ ADHD の要約の統合結果

2 件の研究の内訳は、中学生と大学生を対象としたものであった。また、研究方法としては、実践研究と因子分析による統計的分析が採用されていた。

ADHD のある人に対する支援としては、支援ツール (マニュアル) を活用した指導が行われており、その支援ツールの根拠として、ABA の支援方法であるトークンシステムや機能的アセスメントが採用されていた。また、ソーシャルストーリーや自己評価法も活用されていた。また、これらの手法においては、人的支援の必要性も述べられ、専門性の高い人材を活用することが、的確な支援の遂行や業務の軽減に影響していた。また、ADHD のある人の空間的注意の遂行には特徴があり、認知特性の理解も支援には必要性が示唆されていた。

ウ ABA の要約の統合結果

8 件の研究の内訳は、幼児、小学生、高校生、その他を対象としたものであった。これらの研究方法としては、6 件が文献研究であり、2 件が実践研究であった。

文献研究のうち 6 件では、ABA の有効性について述べられていた。具体的な効果としては、発達障害のある人に対して問題行動の減少や適応的な行動の増加に効果的であり、生徒の精神的健康状態を良好に維持することが示唆されている。さらに、障害者の実質的な権利保障にもつながることが示唆されている。また、教師を含む支援者のストレス軽減に影響していた。これらの効果について、特別支援教育だけではなく、通常教育にも導入の必要性についても述べられていた。

また、ABA の視点を学校規模で行うこと（School Wide Positive Behavior Support:以下 SWPBS）の有効性についても述べられている。海外では、26,000 校以上で実践されており、日本でも取り組みが始まりつつある。このことについて効果的な導入法や評価方法についての研究が必要であるとされていた。

これらの取り組みについて、ABA は発達障害のある人に対してエビデンスに基づく支援方法として有効な支援方法であることが明らかとなっているが、コンサルテーションによる支援者に対する継続的なトレーニングや、障害に関する深い理解も必要不可欠であった。

(2) 事例検討

今回の標的とされる問題行動は、教科指導（指導法）ではなく、授業以外も含む行動を対象としている。そのため、本グループでは、授業研究ではなく事例検討を実施することが適当であると考え行動問題における事例についてABAの視点から問題の改善に向けた検討を実施した。また、これまでに述べた文献研究の結果にも、適切な行動を強化するための分析的な視点の有効性が明らかとなっている。

これらのことから、グループ内から普段の行動問題における指導に関する困り感について事例を募り事例検討を実施した。検討の実施後にアンケートを行い、その内容からABAを視点に取り入れた事例検討の有効性について検討した。検討された事例は以下の内容である。

〈事例〉

生徒の状況

衝動的な行動、思いついたことを口にし、結果的にトラブルを引き起こしたり、他の人を巻き込んだりする傾向がある。気分に応じて態度が変動し、陽気に騒ぎながら過ごすこともあるが、時には静かに過ごすこともある。感情の制御が難しい場面もあり、指摘や注意を受けると受け入れがたく、感情が高ぶってしまうことがある。物の整理整頓も難しいようで、使ったものを乱雑にカバンやロッカーに詰め込む。忘れ物や物をなくすことも頻繁にある。

日常的に忘れ物が多い上、手を洗い忘れて、給食エプロンを忘れてすることもある。本人に指摘しても改善の兆候は見られない。エプロンを忘れても悪びれる様子はなく、友達と会話を楽しみ配膳に協力しなかったりする様子も見受けられる。また、エプロンを持ってきても同様の態度を示し、指摘すると「トイレに行きます」と言って逃げ出すことがある。配膳の際に指定されたエプロンや三角巾を正しく着用し、最後まで役割を果たすことができない。

事例検討の実施方法

令和5年10月20日に設定された研究日を活用し、研究グループのメンバー2～3名を人グループとし、3グループに分かれ生徒の状況を確認後、生徒の状況の中から標的となる行動を3つに絞りその検討内容についてそれぞれグループ間で検討を実施した。

検討事例とその結果については、次項に示す。

検討事例

- エプロンを忘れないで配膳を最後まで行うことができる (Fig. 4)。

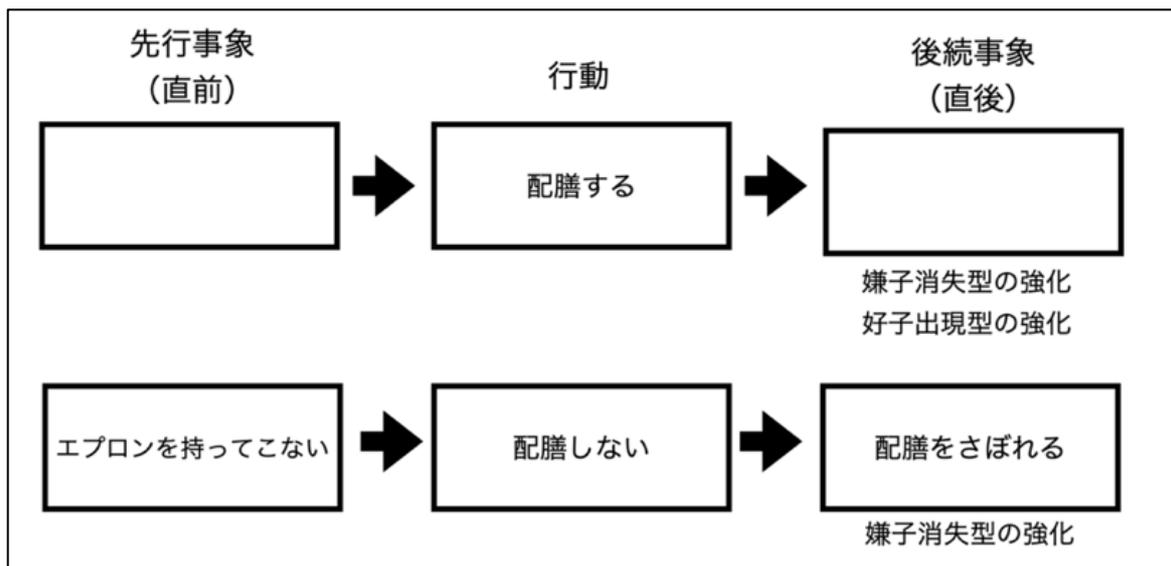


Fig. 4 検討する内容①

先行事象として、「エプロンをつける」として、後続事象として「褒められる」、「給食を食べられる」「配膳が終わる」等の意見が挙げられていた。

Table.1 ASDの文献一覧

No.	著者名	タイトル	目的	方法	結果	考察	雑誌名	出版年	査読
1	木谷 秀勝	青年期の高機能ASDへの支援	「自己理解」の重要性に焦点を当てた高機能ASDの青年期への支援について検討	10年間の追跡調査から、児童期からの支援群と青年期からの支援群の比較を行い、青年期の高機能ASDへの支援について考察する	10年間の追跡調査から、児童期からの支援群と青年期からの支援群の比較を行い、青年期の高機能ASDへの支援について考察しています。また、青年期群と児童期群のIQの比較に関する結果が記載されており、児童期群で「動作性IQ」と「検査IQ」が有意に高かったことが示されています。	具体的には、自己理解の重要性に焦点を当て、自己理解を深めることと並行して他者との新たなコミュニケーションが広がることが示唆されています。また、新たなコミュニケーションが広がるためには、新たな大人モデル（同年齢の定型発達、あるいは同じ年齢の高機能ASD）の存在が必要であることが示唆されています。さらに、このPDFファイルは、各自治機関で取り組む際の参考となるように、対応や取り組み、その成果や評価方法などを整理しています。	児童青年精神医学とその近接領域57 (4), 523-527.	2016	なし
2	安達 潤	16歳以降にASDが把握された高機能群のPARS (PARS-TR) の特徴	ASDの早期発見と適切な支援について調査し、遅延診断群と早期診断群の発達経過における特徴差を検出すること	この調査では、ASDの早期発見と適切な支援について調査するために、遅延診断群と早期診断群のデータを比較し、評価尺度であるPARSを使用して評定対象児者のASDの可能性と適応困難性を評価しました。また、倫理面への配慮として、データは連結可能匿名化され、個人が特定されることはなく、研究協力者には研究内容の説明を書面で十分にを行い、研究協力の同意書への署名を依頼しました。	早期診断群と遅延診断群の間には、ASDの診断時期による発達経過の特徴差が見られました。また、PARSの評価結果から、早期診断群の方が適応困難性が低く、日常生活適応が良好であることが示唆されました。	ASDの早期発見と適切な支援が重要であることが示唆されました。また、ASDIに特化した尺度ではないが、没入尺度がASDの行動特徴と重なっていることが示されたため、ASDの早期発見において没入尺度の有用性が考えられます。ただし、この調査は限られたサンプル数で行われたため、今後の研究でより多くのサンプルを用いて検証する必要があります。	児童青年精神医学とその近接領域 57 (1), 98-103.	2016	なし
3	松本 美智子	通常の学級に在籍するASD児の行動問題改善について-早期改善に向けたプログラムの試案の活用と実践-	通常の学級に在籍しているASD児及びASD傾向児の行動問題の調査結果13項目35内容などから、その行動問題の改善に有効な指導内容を探り出し、それに沿って実践の効果を検証すること。	通常の学級に在籍している「ASD児・ASD傾向児」の行動問題13項目35内容から、その行動問題の改善のために必要な主な指導事項を取り出し、それがどのような内容であるかの共通点を取り出し、いくつかの領域としてまとめる。さらに具体的に指導内容を整理し、行動問題の早期改善につながる領域ごとの指導プログラムの作成を試みる。	指導内容のまとまりを8領域（A感情のコントロール・アンガーマネジメント、Bコミュニケーションスキルの基礎・他者理解、Cアサーション・上手な伝え方、D実行機能、E不安や恐れへの対応、F自己理解、G自己肯定感の保持、Hストレスマネジメント・レジリエンス）として設定した。この8領域は互いに関連し、多くのASD児及びASD傾向児に共通して育てたいスキルがある程度網羅している。	対人関係での難しさを多く経験しているASD児・者は日頃から「なぜ自分の関わり方では良くないのか」を強く感じていると推測され、そのスキルを身に付けることの意味や理由、意味を対象者が理解できることが重要である。対象児の疑問などに応えながら、その気持ちや納得感を大事にし、指導に取り組み意義を醸成させて進めることが早期改善には重要である。今回のプログラムでは、自己理解や自己肯定感を位置づけている。学習や生活の中で困り感を抱えていることが多ければ多いほど、試案の実施によって思考方法などを獲得することは、思春期・青年期における「アイデンティティ」の確立にも関わってくる。	山形大学大学院教育実践研究科年報第13号	2022	なし
4	宮田 賢吾 村中 智彦	知的障がい者の行動問題への機能的コミュニケーション訓練に関する文献的考察	重度IDやASD者では、コミュニケーションスキルが制限され適切なコミュニケーション行動を見出しにくい。自傷や自己刺激のように感覚刺激によって自己強化されている行動問題では、すぐに適切なコミュニケーション行動の形成につなげることは困難で、コミュニケーションよりも活動参加や課題従事が優先される。行動問題の代替となる適切なコミュニケーション行動の設定内容や方法、参加者の属性との関係を概観し、研究動向や課題を考察。	2010~2022年の論文を対象にコンピューターによる文献検索を行った。探索キーワードとして機能的コミュニケーション訓練、障害、行動問題を組み合わせて検索。行動問題は、攻撃（叩く、蹴る等）、自傷（頭を叩く、自分をつねる等）、器物破壊（物を投げる、壊す等）、混乱（泣く、叫ぶ）、逃避などの行動全般。FCIの介入場は学校や大学、病院等のクリニックとし、最終的に29編を対象とした。	対象文献29編の参加者、場所、実施者、行動問題の反応型、適切な（コミュニケーション）行動の反応型と選定方法、FCI指導方法、結果を示した。FCIがIDやASDだけでなく、多様な障害種を示す参加者に有益であり、学校や治療室等の多様な臨床場面で応用できることを示した。	2010~2022年に発表された学齢期にあるIDやASD者対象のFCIを実施した29編について、行動問題の代替となる適切なコミュニケーション行動の設定方法や参加者の属性と関連を分析した。FCIの実施にあたって適切なコミュニケーション行動を選定する際の考慮すべき変数として、効率性以外に①強化子の履歴、②行動問題との関連、③選好、④シグナルの4つを挙げている。学校現場において、教師が行動問題の低減と適切なコミュニケーション行動の増加を促すためには、行動問題の機能分析、適切な行動の設定手続き、適切な行動を強化する機会を設けることが必要であるが、専門性の個人差、担当の入れ替え、有効な支援に関する情報を職員間で共有したり、一貫した支援の継続が困難な場合もあるので、今後、応用現場での支援者が支援を実行し、支援者間で共有できるツールやトレーニング方法の開発が必要であろう。	上越大学大学院研究紀要第43巻	2023	なし
5	山下 浩	自閉症者とともに働く上司には、どのようなコンピテンシーが求められるのかを明らかにすることを目的としている。	発達障害のある児童に対する理解と支援方法についての考察が目的	発達障害のある児童の理解と支援方法についての考察。	発達障害のある児童に対する理解と支援方法についての考察が行われ、その結果として、児童の特徴や支援方法について詳しく説明されています。また、児童の難しさに気づくことが大切であると強調されている。	発達障害のある児童は、周りから見れば手がかり本増刊号 56-65, 2017-10	2017	あり	
6	長谷紗希 河間澤勇人	特別支援学校における自閉症スペクトラム障害を抱える女子高校生への援助 一人一人関係・感情の言語化・考え方の変容への援助を通して	特別支援学校における自閉症スペクトラム障害を抱える女子高校生への援助について、実践報告を通じてその有効性を示すこと。具体的には、生徒のコミュニケーション能力や自己決定能力の向上、就職支援における成果、思い込みの修正に向けた援助の効果など。	生徒の状況に合わせたアセスメントや観察に基づく支援、コミュニケーションの改善、自己決定能力の向上、就職支援などが有効であること。具体的には、自己紹介の単元での緊張緩和や対人技能の獲得、思い込みの修正に向けた援助などが行われています。また、援助者は生徒の状況に合わせた個別の支援を行い、生徒の成長に合わせて支援内容を変更していくこと。	生徒のコミュニケーション能力や自己決定能力の向上、就職支援における成果、思い込みの修正に向けた援助の効果などが報告されています。具体的には、生徒が自分で目標を設定し、それに向かって取り組むことで、自己決定能力が向上し、思い込みの修正にもつながった。	個別の状況に合わせたアセスメントや観察に基づく支援、コミュニケーションの改善、自己決定能力の向上、就職支援などが有効であること。	教育カウンセリング研究 Vol. 9, No. 1 2018	2019	あり

Table. 2 ADHD の文献一覧

No.	著者名	タイトル	目的	方法	結果	考察	雑誌名	出版年	査読
1	長澤正樹 福田規子	ADHDのある生徒を対象とした行動支援プログラムによる授業中の問題行動の改善	問題行動に代わる社会的に望ましい行動を伸ばすために多様な介入を採用するとともに日常生活のあらゆる場面で多くのメンバーによる支援による包括的な介入方法を行っていく。	問題行動の機能的アセスメント 問題行動に代わる望ましい行動の設定と 先行条件・結果事象の工夫	授業中の課題従事行動と離席問題行動の変化が見られた。	COMPASマニュアルによる指導の効果が見られた。 担任等が問題行動に代わる望ましい行動ができるような支援、自己肯定感を高める対応、授業ルールを実施した。その結果、行動、学習、情緒面での望ましい行動が数多く見られた。	新潟大学教育学部研究紀要第1巻 第2号	2009	査読あり
2	小菅英恵 山村豊 熊谷恵子	ADHD 傾向者の空間的注意と移動時注意不全の関連	大学生を対象にしたアナログ研究法により、ADHD 傾向および注意切替課題と変化検出課題で測定されるそれぞれの空間的注意力がどのような移動時注意不全と関係するのかを検討すること	「運転時・歩行時の注意不全尺度（小菅・熊谷, 2017b) の下位尺度スコアを従属変数とし、ADHD傾向（高群・低群）×空間的注意力（高群・低群）の被験者間2 要因計画とした	ADHD 傾向者の中で変化検出力が低い者は、移動時に道路から逸脱しやすい傾向が示唆された。またADHD 傾向者は、上の空の状態で移動しやすく、信号や標識表示を見落としやすい傾向が示された	移動時注意不全が特定の空間的注意の遂行成績の程度で異なっており、変化検出力ADHD 傾向の強さ、弱さで異なり、それが移動時の制御不全および移動時の水準低下という特定の移動時注意不全と関連する	応用心理学研究 Vol. 45, No. 3	2020	査読あり

Table.3 ABA の文献一覧

No.	著者名	タイトル	目的	方法	結果	考察	雑誌名	出版年	査読
1	須藤邦彦	わが国の自閉症スペクトラム障害における応用行動分析学をベースとした実践研究の展望	2012年から2017年に発表された研究を対象に、自閉症スペクトラム障害における応用行動分析学をベースとした研究動向明らかにすることを目的としている	2012年から2017年に発表された8つの日本の学術誌に掲載された論文をレビューし、自閉症スペクトラム障害 (ASD) を持つ参加者と介入を含む手順を満たす論文を選択しました。次に、論文は、著者と支援実践者の属性、支援の分野、参加者数と年齢、対象行動、治療と一般化、研究の設計、支援の文脈適合性と社会的妥当性の7つのカテゴリに分類されました。	レビューされた論文の大多数 (42%) は大学教授によって書かれ、次いで現在の教員や介護者 (22%)、施設や研究所のスタッフ (17%)、大学院生/学部生 (18%) が執筆しました。親や医師はそれぞれ1%未満の記事に貢献しました。 - レビューされた論文で最も一般的な対象行動は、社会的コミュニケーションと問題行動でした。これらの行動は、すべての年齢層に関連性がありました。 - レビューされた論文の研究デザインは、単一事例実験デザインと群事前事後テストデザインの2つのカテゴリに分類されました。 - 研究は、特に緊急性の高い問題行動や制約が困難な環境の場合に、エビデンスに基づく研究デザインの基準を満たすことにおける課題も特定しました。	研究は、現実世界の環境での研究の課題や、実践者の継続的な専門的な開発とトレーニングの必要性についても議論しています。著者らは、将来の研究は、特定の対象行動や人口に対する効果的な介入の開発、および技術を活用した介入の可能性の探求に焦点を当てていくべきであると提案しています。全体的に、この研究は、自閉症スペクトラム障害を持つ人々の課題を改善するために、研究者、実践者、家族の協働とエビデンスに基づく実践の重要性を強調しています。	教育心理学年報 57 (0) 178, 2018-03-30	2018	あり
2	鹿山和貴	学校規模ポジティブ行動支援 (SNPBS) とは何か? —教育システムに対する行動分析学のアプローチの適用	SNPBSの構成要素を整理し、日本における今後の研究、普及の課題を考察する。	国における 26,000 校以上の SNPBS の実践を支えているシステムについて検討	日本でも取り組みが始まっており、問題行動の減少や適応的な行動の増加が報告されている。	学校規模ポジティブ行動支援 (SNPBS) は、学校全体で行動支援を行うシステムアプローチであり、米国では26,000校以上で実践されています。本稿では、SNPBSの構成要素を整理し、日本における今後の研究、普及の課題について考察しています。SNPBSの構成要素には、行動の期待、教育的な環境、行動の教育、行動の評価、データの利用が含まれます。これらの要素を組み合わせることで、学校全体で行動支援を行うことができます。日本においては、SNPBSの導入が進んでいますが、実践の評価や研究が不十分であることが課題として挙げられます。今後は、SNPBSの効果的な導入方法や評価方法についての研究が必要とされています。	行動分析学研究 34 巻 2 号 p. 178-197	2020	あり
3	平澤紀子	発達障害者の行動問題に対する支援方法における応用行動分析学の貢献：エビデンスに基づく権利保障を目指す	この研究の目的は、発達障害を持つ人々の行動問題に対する支援を促進するために、エビデンスに基づく支援において応用行動分析学ABAがあるために応用行動分析学がどのように貢献できるのかを考察することです。	日本とアメリカの応用行動分析学の現状を調査し、発達障害を持つ人々が直面する課題に対処するために応用行動分析学がどのように貢献できるかを検討	行動問題の低減が約50%から80%に達し、適応行動の増加が示されました。これらの結果は、応用行動分析学に基づく支援が、発達障害を持つ人々の行動問題に対して効果的であることを示しています	応用行動分析学に基づく支援が、発達障害を持つ人々の行動問題に対して効果的であることが示されました。また、この支援は、教育や福祉の制約を減らし、発達障害者の実質的な権利保障につながることを示唆されました。	行動分析学研究 33 巻 1 号 p. 33-45	2009	あり
4	藤原直子 大野裕史 日土頼司 久保義郎 佐田久真貴 松永美希	「気になる子」を担当する幼稚園教師への集団コンサルテーションプログラムの効果	保育者のストレス軽減や対象児の行動改善など、プログラムの効果を明らかにすること	全6回の集団コンサルテーションプログラムを実施。プログラムでは、行動の見方や対応方法を応用行動分析学に基づいて教示しました。また、フォローアップ回を含めた6回のプログラム。また、対象児の行動チェックリスト、幼稚園教師用ストレス評定尺度、保育者効力感尺度を実施し、Postで満足度アンケートを実施。	プログラムの実施により、対象児の行動改善や保育者のストレス軽減など、有意義な成果が得られました。具体的には、対象児の行動チェックリストの得点が有意に改善し、保育者のストレス評定尺度の得点が有意に低下しました。また、保育者効力感尺度の得点も有意に向上しました。	保育者が対象児の行動をより客観的に見ることができるようになり、適切な対応ができるようになった。また、保育者自身のストレス軽減にもつながり、保育の質の向上につながると考えられる。	行動療法研究 36 (2) 159-173, 2010 (実践研究) 特集「学校への行動コンサルテーション」	2010	あり
5	山本淳一、澁谷尚	エビデンスにもとづいた発達障害支援応用行動分析学の貢献	日本の発達障害者支援法に基づく支援のあり方について、応用行動分析学がどのように貢献できるかを解説すること	発達障害者支援に関する過去の研究や実践事例を収集し、それらを応用行動分析学の視点から分析	研究結果を報告するものではありません	応用行動分析学が発達障害者支援において有効である	行動分析学研究 第23巻第1号	2009	あり
6	道城裕貴 野田航 山玉丸誠	学校場面における発達障害児に対する応用行動分析を用いた介入研究のレビュー：1990-2005	行動分析学による支援が、発達障害を持つ人々の社会的・言語的な発達を促進し、彼らの機能性を向上させることを示すこと	1981年から2000年までの期間に発表された学術雑誌から引用された論文を対象に、5つのカテゴリに分類して検討されました	国内、海外いずれにおいても「小学校」の「特別支援学級」において行われた研究が多かった。また、海外では on-task 行動などの「学業従事行動」を対象としたものが多かった。また、「授業中」に発達障害児に「個別」に介入を行った研究が多かったことが明らか	海外における研究の方が、国内に比べて「通常学級」で行われ、「グループ」もしくは「学級」を対象とした研究が多く、通常学級に対する学級介入の必要性を示唆する	行動分析学研究 第1号	2008	あり
7	野田航	教育心理学と実践活動 応用行動分析学と学習指導	この研究の目的は、応用行動分析学を用いた学業スキルの指導について、日本と米国の研究動向を比較し、応用行動分析学がどのように学業スキルの指導に貢献できるかを明らかにすることです。また、応用行動分析学に基づく学習指導研究を推進するための課題についても述べられています。	テキスト1では、学業スキルのアセスメント方法と学業スキルの指導について、日本と米国の研究動向を比較し、応用行動分析学がどのように学業スキルの指導に貢献できるかを述べられています。また、テキスト2では、一事例研究法について説明されています。	テキスト1では、日本と米国の研究動向について比較され、応用行動分析学が学業スキルの指導に貢献できる可能性があることが示唆されています。また、テキスト3では、日本における応用行動分析学に基づく学習指導研究がまだ少ないことが報告されています。	テキスト1では、学習指導に対する応用行動分析学によるアプローチについて概説され、学業スキルのアセスメント方法や応用行動分析学が重視する観点について述べられています。また、テキスト3では、他分野との連携や共同研究が促されると考えられると述べられています。テキスト1では、日本と米国の研究動向について比較され、刺戟等価値に基づく読み書き指導等が日本で行われていることが述べられています。また、テキスト2では、NiesとBelfioreによる「coover-copy-compare」学習法が紹介されています。テキスト3では、尾之上らによる研究が応用行動分析学の知見に基づく学習指導の研究に含まれると見られるものと述べられています。	教育心理学年報 191 p. 179-191	2018	あり
8	酒井真由 澤酒一郎 野雄二	金坂高等学校教師の自閉症スペクトラム障害理解度とASD傾向の生徒における精神的健康状態の関連	この研究の目的は、「教師のASD理解度とASD傾向の生徒における精神的健康状態の関連を検討すること」です。また、ASDに焦点を当て、応用行動分析を用いた対処方法についても検討されています。	ASDに焦点を当て、教師のASD理解度とASD傾向の生徒における精神的健康状態の関連を調査することが目的であることが記載されています。また、ABA理解度が高い教師は、ASD傾向のある生徒への指導や支援が適切に行われ、生徒の精神的健康状態を良好に維持していることが示唆されています。	ABA理解度が高い教師は、ASD傾向のある生徒への指導や支援が適切に行われ、生徒の精神的健康状態を良好に維持していることが示唆されています。また、ASDに対する理解は、広義で曖昧な概念として扱われており、周囲の者の理解が、発達障害児・者にとどのように関連しているかについては、実証的に検討されていないことが記載されています。	「特別支援PD-078 教心 第54 回総会 (2012)」	2012	なし	

■手を洗うことを忘れないで準備することができる (Fig. 5)。

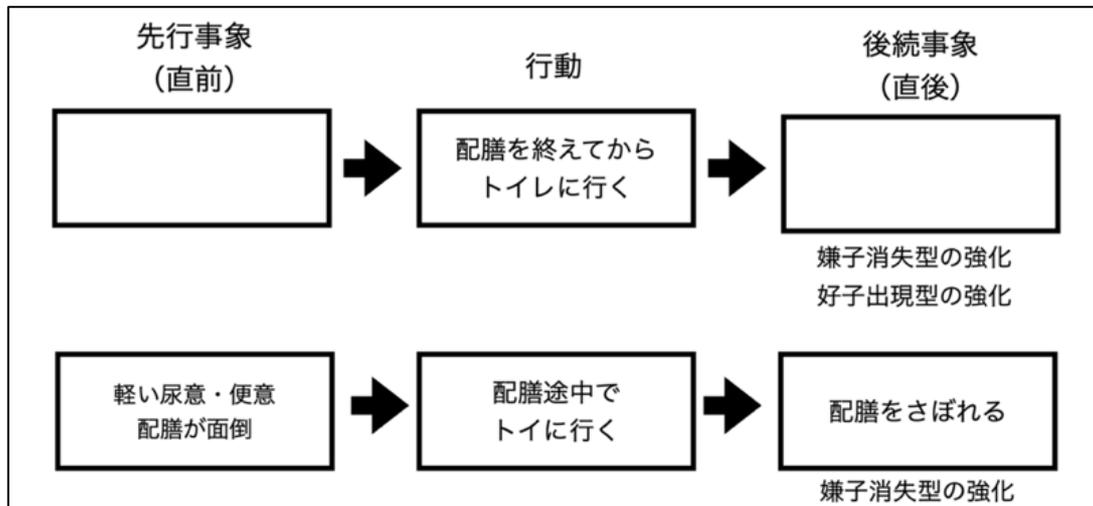


Fig. 5 検討する内容②

先行事象として、「手を洗わないと食堂に向かえない」、「手の汚染状況を知る」等の意見が挙げられていた。事後事象として「褒められる」等の意見が挙げられていた。

■配膳が終わってからトイレに行くことができる (Fig. 6)。

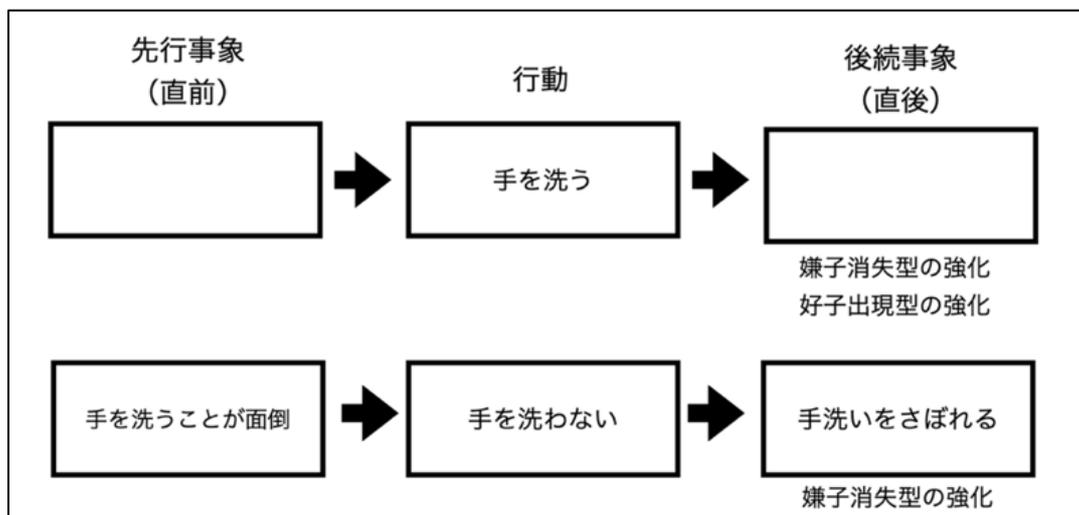


Fig. 6 検討する内容③

先行事象として「配膳表を持っていく役割を与える」、「事前にトイレで手を洗う」の意見が挙げられた。後続事象「褒められる」、「自由時間を獲得」の意見が挙げられていた。

アンケート結果

事例検討を実施した後に、今回の ABA を用いた事例検討について質問紙調査を実施し、その効果について検証した。質問紙調査の結果を Table. 4 に示す通りである。また、質問項目は、以下の通りである。

〈アンケートの質問項目〉

- 1 ABA を実施した後、ABA についてどの程度理解できたと感じるか。
- 2 行動問題に対応する上で ABA は有効だと感じるか。
- 3 行動問題にアプローチする場合、指導方法を検討する際に ABA を実施することで負担感についてどのように考えるか。
- 4 意見の共有は活発に行えたか。

〈自由記述〉

- ・ 論文の検索方法や要約サイトの紹介などをしていただき、研鑽の幅が広がりました。
- ・ 先日の意見交換の場では、小グループだったので意見もだしやすく、良かったと思います。
- ・ 研修を効果的にするためのアイデアの前提として、時間の確保が必須である。しかしながら、学校全体の業務がビルドビルドで増える昨今の現状下において、十分な時間を確保しながら、有効な研修を推進していくには、困難さを感じる。
- ・ 教育課程における時間時間の削減（下校時間を早める対応）による放課後の時間の確保が必要なのではないだろうか？
- ・ 反抗挑戦性障害などの資質を有する生徒が増える傾向にある中で、ABA などのように、参加者で短時間に「独特の障害特性に対する多角的な指導方を協議すること」の有効性は高いと感じる。
- ・ 今回のように、実践そして意見交換の交流ができる機会が更にあると良いと思いました。なかなか実際の事例でやってみないと理解が不十分（ABA に関して）だと自分自身が思ったので…
- ・ 今回のようなミニ事例検討会みたいなものは意見交換の場にもなって有効だと感じています。定期的にやりたいですね。

考察

（１）文献研究について

ア ASD の指導について

文献の内容からは、自己理解と自己決定能力を向上させる指導の必要性が明らかとなった。Georgia・Maria(2017)によれば、学習者がメタ認知、動機づけ、行動において自分自身の学習課程に能動的に関与する自己調整学習者（Self-regulated learners）を目指すことが指摘された。

自己理解は、個人が自分自身や自分の能力、特性、価値観などについて理解し、認識することであり、個人の行動や意思決定に影響を与える重要な要素である。意思決定が自己決定能力に必要であり、それによって自己調整学習を進めるものとされている。

自己調整学習者に向けた段階として、齊藤（2018）では、①書く（模写）、読む、計算、②一人称を中心とした言語技術教育（構文）、③三人称を中心にしたリテラシー（論理）トレーニング、④自ら表現して相手の感じ方にも耳を傾ける「アサーショングループワーク」の段階を経ることの必要性を述べている。

さらに、文献の統合された内容からは、適切な行動を強化する視点を共有する視点の有効性が述べられ、ABAの有効性についても示唆されている。

渡部（2017）によれば、ABA で用いられる機能的アセスメントは、行動問題の減少と望ましい行動の増加を目指すため、予防的な環境整備と、建設的で望ましい行動を計画する一連のプロセスが行動問題の軽減と生活の質の向上を図る指標的な手法である。これらの事柄は、教師（支援者）間での共通した的確なアセスメントが重要であり、アセスメントの運用と、教師（支援者）のトレーニングを含む、高い専門性が求められている。

イ ADHD の指導について

結果においては、ABA の視点を取り入れた支援ツールの活用と、ADHD の特性に応じた支援に焦点を当てた研究が行われていた。また、外部の専門家を活用することの有効性についても述べられていた。岡崎(2017)では、ABA の手法であるトークンエコノミー法を具体的な支援や配慮として言及し、見通しを促す手がかりを用い、学校で一貫性のある指導が必要であると述べていた。また、ユニバーサルデザイン化された指導が ADHD のある生徒にとっても重要であるとしていた。さらに、日本 LD 学会（2018）においても、ADHD の指導に関して ABA の視点はよく使われているとし、一定の数が集まれば報酬と交換できるトークンエコノミーや、保護者を対象としたペアトレーニングの有効性を述べており、褒めることで適応行動を増やし、不適切な行動を減らしていくことが必要であるとしていた。

ADHD の特性に応じた支援について、安藤・武田・熊谷（2018）ではコーチングの有効性について述べていた。ADHD の行動特性として、やみくもに行動する、脇道に逸れる、目先のことに流されるといった行動を示すことから、本人の目標や行動計画を本人と一緒に策定するアプローチであり、計画性や振り返りの弱さのある ADHD に有効な支援方法の一つであると述べていた。更に、加藤・松島（2021）では、脳内ネットワークに関して意思決定・報酬系にも関与する背側前帯状皮質の活動が低くなっていることを指摘していた。これにより、報酬の遅延に耐えられずに衝動的に代替の報酬を選択する（衝動性）、報酬を得るまでの主観的な時間を短縮させるために他に注意を逸らし、気を紛らわすし代償行動を行う（多動・不注意）といった状態になることを指摘していた。これには、ミチルフェニテード塩酸塩性剤（コンサータ）が側坐核のドーパミントランスポーターへ作用し改善させる事例が知られている。指導場面において、外山(2011)では、ADHD の支援を考える上で、より報酬系の持続活動を促すことが重要であるとしていた。具体的には、自ら環境に働きかけて探索した「操作（活動性）動機づけ」や、認知的な活動を楽しむ「認知動機づけ」が高まる活動を提供することが重要であるとしていた。

Table. 4 質問紙調査の結果

1 ABAの理解度について			
全く理解できない	理解が不十分	一般的に理解	完全に理解
0%	0%	100%	0%
2 ABAの有効性について			
全く有効ではない	有効性は不十分	有効	大いに有効
0%	0%	67%	33%
3 ABAを実施することの負担感			
負担軽減	やや負担軽減	やや負担増加	負担増加
50%	50%	0%	0%
4 ABAをグループで取り組んで意見を活発に交換を行えた			
全く行えない	行えない	活発にできた	とても行えた
0	0	83%	17%

ウ ABAを用いた指導について

これまでに指導について述べたが、ABAの有効性に関連する内容も見受けられる。ABAの有効性について松下（2017）では、北米での導入について紹介している。米国では、発達障害の指導において科学的に根拠のある手法として、保険適用の対象となっている。また、カナダでは早期療育で必ず導入され、ABAの有効性は国際的に認められている。

これまでの効果について述べた通り、ABAで重要な視点は、適切な行動を増やし、不適切な行動を減らすことであり、これによって問題行動が減少し、適応的な行動が増加する。この視点に特化した支援をPositive Behavioral Support（以下PBS）またはPositive Behavioral Intervention and Support（PBIS、積極的行動支援）と呼び、これを学校規模で行うことがSWPBSである。

この効果について神山（2017）では、米国の研究からのレビューを通じて述べている。また、庭山（2020）では、具体的な効果として、停学処分の減少、行動問題の減少、向社会的行動の増加、いじめ関連行動の減少、学校内の安全感の向上などが報告されている。さらに、結果でも述べたように、支援者の業務の負担感の軽減も期待されている。

結果では、コンサルテーションによる支援者へのサポートも重要であったが、神山（2017）によれば、特別支援教育においても学校と外部専門家の連携が進んでおり、専門家の支援のもとでSWPBSを実施することの有効性が示唆されている。

これらから、ABAの有効性には科学的な根拠がありつつも、実施するには支援者の共通認識や学校規模での工夫が必要である。また、専門家との連携を通じたABAと障害に対する深い理解が不可欠である。

(2) ABAの視点を活用した事例検討について

事例検討後に行った質問紙では、その効果として、参加した全ての教員が有効または大いに有効であることを示しており、ABAの有効性について本校の教師も認識していた。また、実施することに負担を感じたか聞く質問では、全ての教師が負担を感じておらず逆に、行動問題を検討する際に負担が軽減すると認識する教員が多かった。この前提としてABAの理解を図るため外部の人材を活用してABAの概論の研修を実施しているが、これについても一定の効果が認められている。教師の協働の視点についても活発な意見交換が行えたとの認識が明らかとなっていることから、課題解決のための枠組みとして、ABAの視点を取り入れた検討は一定の有効性を示せたのではないかと感じる。

しかし、一方では、自由記述の中で課題が散見されており、教師が ABA の理解のための研修機会をどのように設定するのか、さらにその理解のための取り組みをどのように継続していくのか、持続可能な枠組みを検討することの課題を認識する意見もあった。また、働き方改革が叫ばれ、定時退勤を求められる現在、業務が立て込んでいく中でどのように話し合いの時間を設定するのかを課題としていた。

今後は、行動問題に対するアプローチの有効性を検証するとともに、これまでの研究や他校での実践を参考に、現在の枠組みに置き換えながら現場の教員の負担が少ない中で導入するための工夫が求められている。

5. 次年度に向けて本研究の限界と課題

本研究では、IA による分析など、これまでに検証されていない方法論を用いたパイロット的な研究となった。また、条件の統制や恣意性の検討は実施されていない。研究の妥当性においては、結果の一般化には課題がある。

今後の展望としては、方法論の確立や限定的な論文収集の範囲設定、質問紙の妥当性などを検討し、より一般的に適用できるような研究に進展させる必要がある。

また、昨年度までの研究の引き継ぎでは、普段の指導場面で生かされないことが指摘されている。今年度研究を行う中で、集められた知見を学校経営に吸い上げ、改善を図る仕組みが明確になっていないことが課題であることも明らかとなった。PDCA サイクルを意識し指導法に関する情報のアップデートをどのように仕組みとして行うか、次年度に向けて検討する仕組みづくりが求められている。

6. 文献

一般財団法人特別支援教育士認定協会（2018）S.E.N.S 養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 II-指導、金剛出版。

独立行政法人国立特別支援総合研究所（2020）特別支援教育の基礎・基本 2020 新学習指導要領対応、シアース教育新社。

加藤寿宏・松島佳苗（2021）エビデンスでひもとく発達障害作業療法 神経発達症の理解と支援,89-111,株式会社シービーアール。

神山努（2017）スクールワイド PBIS の研究に関する現状と課題,障害科学研究所（41）,45-57。

松下浩之（2017）ABA（応用行動分析）による指導, 柘植雅義&「インクルーシブ教育の未来研究会」編特別支援教育の到達点と可能性 2001～2016 年：学術研究からの論考,58-61,金剛出版。

文部科学省（2007）共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）概要,<https://www.mext.go.jp/>

[b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm)(2023 年 12 月 26 日閲覧)

日本 LD 学会編（2016）発達障害事典,丸善出版。

庭山和貴（2020）学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）とはなにか？-教育システムに対する行動分析学的アプローチの適用-,行動分析学会(34),187-197。

岡崎慎治（2017）ADHD（注意欠如多動性障害）の研究動向と特別支援教育への貢献,柘植雅義&「インクルーシブ教育の未来研究会」編特別支援教育の到達点と可能性 2001～2016 年：学術研究からの論考,106-109,金剛出版。

齊藤宇開（2018）たすくの療育 J☆skeps アプローチ,28-29,たすく株式会社。

Schunk, D. H., & Zimmerman, B. J. (2006). Competence and Control Beliefs: Distinguishing the Means and Ends. In P. A. Alexander, & P. H. Winne (Eds.), Handbook of Educational Psychology (2nd ed., pp. 349-367). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

外山美樹（2011）行動を起こし、持続する力 モチベーション心理学,新曜社。

柘植雅義（2013）特別支援教育-多様なニーズへの挑戦-,中公新書。

渡部匡隆(2017)自閉症教育の到達点,柘植雅義&「インクルーシブ教育の未来研究会」編特別支援教育の到達点と可能性 2001～2016 年：学術研究からの論考,110-113,金剛出版。

7. 資料

本研究の説明した動画の URL

<https://www.youtube.com/watch?v=HwODEyloRaU>



各教科の題材の評価規準の具体化（令和5年度1学年社会後期評価）

教科名 学年	社会 1学年		
題材名	「公共施設と役割」 ※公民的分野		
学習指導要領に示された関連する内容	中学校 社会 公共施設と制度【1段階】 ア：身近な公共施設や公共物の役割が分かること。 イ：公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。		
題材の指導目標	知識及び技能	思考力、表現力、判断力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質・能力の三本柱で	○身近な公共施設の場所を知る。 ○公共施設の役割を理解する。	○身近な公共施設の役割について調べたことやどんな役割があるのかを発表することができる。	○公共施設について iPad を使って主体的に進んで調べることができる。
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
※規準（のりじゅん）到達目標 ※例「逆上がりができるようになる」	○身近な公共施設の場所を理解する。 ○公共施設の役割を理解する。	○身近な公共施設の役割について調べたことやどんな役割があるのかを自信をもって発表することができる。	○公共施設について iPad を使って主体的に進んで調べることができる。
題材の評価規準の具体化（細分化）	I	○自分の住んでいる地域の公共施設の場所を理解し、そこまで行く方法を答えることができる。	○身近な公共施設の役割について調べたことやどんな役割があるのかを自信をもって発表することができる。
※到達目標に対してどの程度到達できたかを判断する指標 ※例 I「補助板がなくても逆上がりできた」 II「補助板を使って逆上がりできた」 III「教師が足を持って補助することできた」	II	○自分の住んでいる地域の公共施設の場所を理解することができる。	○身近な公共施設の役割について調べたことを発表原稿のポイントごとに発表することができる。
	III	○教師の言葉掛けを受けながら自分の住んでいる地域の公共施設の場所を確認することができる。	○身近な公共施設の役割について調べ、発表原稿を見ながら発表することができる。
評価場面 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの活用 インターネットを利用した位置の確認 適切なワードの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 指示を受けた内容について適切に調べられているか 発表の様子（動画撮影し、後ほど評価） 	<ul style="list-style-type: none"> グループでの学習の様子 iPad を使って調べている姿

各教科の題材の評価規準の具体化（令和5年度1学年家庭後期評価）

教科名 学年	家庭 1学年			
題材名	被服実習「マルチハンカチ」			
学習指導要領に示された関連する内容	B 衣食住の生活 工 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 目的に応じた縫い方及び用具の安全な取り扱いについて理解し、適切にできること。(知識・技能・主体的) (イ) 目的に応じた縫い方について考え、工夫すること。(思考力・技能)			
題材の指導目標	知識及び技能	思考力、表現力、判断力等	学びに向かう力、人間性等	
育成を目指す資質・能力の三本柱で	○被服の修繕のための基礎的技術を理解する。 ○アイロンやミシンなどの道具の操作について理解する。 ○マルチハンカチを製作する工程について理解する。	○目的に応じた縫い方について考え、工夫する。 ○安全に作業を進められるように、工程や道具の使い方を工夫する。	○主体的、意欲的に取り組む。 ○製作活動について評価をし、学んだことを家庭生活の中で実践しようとする。	
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
※規準（のりじゅん）到達目標 ※例「逆上がりができるようになる」	○被服の修繕のための基礎的技術を理解している。 ○アイロンやミシンなどの道具の操作や安全な取り扱いについて理解している。 ○マルチハンカチを製作する工程について理解している	○目的に応じた縫い方について考え、工夫している。 ○安全に作業を進められるように、工程や道具の使い方を工夫している。	○主体的、意欲的に取り組んでいる。 ○製作活動で学んだことを家庭生活の中で実践しようとしている。	
題材の評価規準の具体化（細分化）	I	○マルチハンカチを製作する工程について正しく理解することができる。 ○各種の道具について、安全で正しい使用方法を理解することができる。	○縫い目が均等になるよう、考え、工夫しながら取り組むことができる。 ○使用する道具を安全かつ丁寧に扱い、正しく使って進めることができる。	○学習課題に興味をもち、持続して取り組むことができる。 ○完成した製品を見て振り返り、今後の家庭生活に生かすことができる。
※到達目標に対してどの程度到達できたかを判断する指標 ※例 I「補助板がなくても逆上がりできた」 II「補助板を使って逆上がりできた」 III「教師が足を持って補助することできた」	II	○マルチハンカチを製作する工程についてある程度理解できる。 ○各種の道具について、安全で正しい使用方法をある程度理解することができる。	○縫い目が均等になるよう、考えて取り組むことができる。 ○使用する道具を安全に扱い、正しく使って進めることができる。	○学習課題に集中し、持続して取り組むことができる。 ○完成した製品を見て振り返り、自分の課題を見つけることができる。
	III	○マルチハンカチを製作する工程について、教師に確認しながら進めることができる。 ○各種の道具の使い方を教師に確認しながら進めることができる。	○教師の言葉掛けを受けながら、工程通りに縫えるように考え、進めることができる。 ○教師の言葉掛けを受けながら、使用する道具を正しく使って進めることができる。	○学習課題に集中し、持続して取り組もうと努力できる。 ○完成した製品を見て振り返り、評価することができる。
評価場面 評価方法	・道具の扱い方（用途、安全） ・基礎的技術の理解 ・工程表の理解	・工程表の確認 ・道具に関する質問、応答 ・製品の完成度（工夫点含む）	・振り返りシートの提出（生活の中で活かす発想）	

各教科の題材の評価規準の具体化（令和5年度3学年社会後期評価）

教科名 学年	社会 3学年			
題材名	「私たちの暮らしと経済」 ※公民的分野			
学習指導要領に示された関連する内容				
題材の指導目標	知識及び技能	思考力、表現力、判断力等	学びに向かう力、人間性等	
育成を目指す資質・能力の三本柱で	○貨幣について知識を増やす。 ○産業について知識を増やす。 ○金融機関について知識を増やす。	○社会人になったときにお金をどのように使うか考える。	○iPad を使って主体的に海外の国の産業別割合人口を調べる。	
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
※規準（のりじゅん）到達目標 ※例「逆上がりができるようになる」	○貨幣について理解を深める。 ○産業について理解を深める。 ○金融機関について理解を深める。	○社会人になったときの給料のお金の使い方を発表する。	○iPad を使って海外の国の産業別割合人口を調べ、発表する。	
題材の評価規準の具体化（細分化） ※到達目標に対してどの程度到達できたかを判断する指標 ※例 Ⅰ「補助板がなくても逆上がりできた」 Ⅱ「補助板を使って逆上がりできた」 Ⅲ「教師が足を持って補助することできた」	I	○ワークシートの確認問題に正しく答える。	○何かあったときのために、貯金するという考えを発表する。	○一人で海外の国を決め、iPad を使って調べる。
	II	○ヒントの提示でワークシートの確認問題に正しく答える。	○使い方を考えて発表する。	○iPad で調べるとき、教師のサポートが部分的に必要。
	III	○答えを見て、ワークシートの確認問題に答えを書き写す。	○教師のサポートを受け、考える。	○iPad で調べるとき、教師のサポートが大部分、必要。
評価場面	・ワークシートの活用	・ワークシートの活用 ・発表の様子	・ワークシートの活用 ・iPad での調べ方	
評価方法				

各教科の題材の評価規準の具体化（令和5年度3学年作業学習後期評価）

教科名 学年	作業学習 3学年 環境・流通サポート科		
題材名	作業学習 「ポリッシャー検定練習」		
学習指導要領に示された関連する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎の徹底、発展的な技術力の向上。応用的な技術を身に付ける。（知識・技能） ・安全に操作する方法を考え取り組む。 （思考力、表現力、判断力） ・課題点を見つけ理解し作業に取り組み、仲間と教え合いながら解決に向けて取り組む。 （学びに向かう力、人間等） 		
題材の指導目標	知識及び技能	思考力、表現力、判断力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質・能力の三本柱で	○ポリッシャー機の基礎的な技術を身に付ける。 ○検定手順を理解し、安全に操作する。	○安全に扱える方法を考え工夫する。	○課題を克服しようとする姿が見られる。 ○学んだ知識や技能を他の生徒に伝えたり、教えたりする。
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
※規準（のりじゅん）到達目標	○ポリッシャー機の基礎的な技術を身に付ける。 ○安全に扱うことができる。 ○検定手順について理解する。	○安全に扱える方法を考え、工夫している。	○課題点を見つけ克服しようとして取り組んでいる。 ○技能やコツについて、他の生徒に伝えたり、教えたりしようとしている。
※例「逆上がりができるようになる」			
題材の評価規準の具体化（細分化）	I	○ポリッシャー機の使い方について正しく理解することができる。 ○検定手順を理解し、安全に操作することができる。	○課題点を見つけ、克服しようとして持続して取り組むことができる。 ○他生徒の操作を見ながら、良い点をアドバイスすることができる。
※到達目標に対してどの程度到達できたかを判断する指標	II	○ポリッシャー機の使い方についてある程度正しく理解できる。 ○検定手順をある程度理解し、安全に操作することができる。	○手本となる教師の操作方法と本人の操作方法を見比べながら、課題を見つけることができる。 ○検定手順を確認し、自分の良い点と悪い点を振り返ることができる。
※例 I「補助板がなくても逆上がりできた」 II「補助板を使って逆上がりできた」 III「教師が足を持って補助することできた」	III	○ポリッシャー機の使い方について教師が補助することで正しく使うことができる。 ○検定手順を教師と確認しながら取り組むことで理解し、安全に操作することができる。	○課題点を教師と確認しながら理解することができる。 ○検定手順と操作方法を教師と振り返ることで、良い点と悪い点を見つけることができる。
評価場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリッシャー機の扱い方 ・基礎的技術の理解 ・検定手順の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・操作方法の確認 ・扱い方に関する質問への応答 	<ul style="list-style-type: none"> ・Ipad で自分の操作についてや検定手順について確認し振り返る。 ・生徒同士での質疑応答
評価方法			

LCP 作成と活用の流れ【1学年】

月	関連する単元、行事	内容	使用様式、教材	寄宿舍との連携
4	入学式 職員研修 進路学習「自分のことについて考えよう①」	<input type="checkbox"/> 保護者に事前送付、回収 <input type="checkbox"/> 新入生保護者等への説明 (CO.) ・OKSLCP について <input type="checkbox"/> 実態把握 (職員) <input type="checkbox"/> オリエンテーション <input type="checkbox"/> 自己理解 (生徒) <input type="checkbox"/> 本人の願いを記入 (生徒) <input type="checkbox"/> キャリアカウンセリング ・課題の確認 ・1 学年の目標設定 ・目標の掲示	様式 1 「フェイスシート」様式 3 「保護者の希望」 様式 4 「キャリア発達を支援するチェックリスト」作成 教員用資料「進路学習におけるキャリアカウンセリングについて」 「自己チェックシート」 様式 2 「本人の希望把握シート」 様式 2 「本人の希望補助シート (イラスト入り)」 「キャリアカウンセリングシート」 「学校生活の目標設定シート」 (補助教材) 「私の目標」	
5	LCP の作成	<input type="checkbox"/> 目標の入力 (職員) <input type="checkbox"/> 様式 1 (フェイスシート) の入力完了	様式 5 「個別の教育支援計画」学校、寄宿舍、家庭の支援目標 (家庭は通学生のみ) 様式 6、7 「個別の指導計画」 様式 1 (フェイスシート)	<input type="checkbox"/> 舎「個別の指導計画」検討 <input type="checkbox"/> 「様式 5」寄宿舍の支援目標 <input type="checkbox"/> 学舎懇談 生徒実態、目標を共通理解
6	保護者等懇談 生徒面談週間	<input type="checkbox"/> 様式 5, 6, 7 の目標を提示、確認 <input type="checkbox"/> 個別の指導計画の目標を確認する		
7	家庭訪問			
8	進路学習「自分のことについて考えよう②」	<input type="checkbox"/> 自己の振り返り <input type="checkbox"/> キャリアカウンセリング中間反省 ・前期の課題と成果の確認	「自己チェックシート」 「キャリアカウンセリングシート」	<input type="checkbox"/> 舎「個別の指導計画」前期評価 <input type="checkbox"/> 学舎懇談

9	LCP の作成	<input type="checkbox"/> 前期評価と後期の目標設定（職員）	様式6、7「個別の指導計画」	→前期達成状況と後期の目標を共通理解
10	保護者等懇談 生徒面談週間	<input type="checkbox"/> 前期評価説明、今後の方向性を共通理解 <input type="checkbox"/> 家庭の支援目標の取り組み状況を確認（通学生） <input type="checkbox"/> 前期評価説明、今後の目標を確認 <input type="checkbox"/> 家庭生活の目標の振り返り（通学生）	様式6、7「個別の指導計画」 様式5「個別の教育支援計画」 様式6、7「個別の指導計画」 「私の目標」 「キャリアカウンセリングシート」	
11				
12		<input type="checkbox"/> 達成状況の確認、次年度の支援目標の設定に向けて（職員）	様式4「キャリア発達を支援するチェックリスト」	
1	進路学習「自分のことについて考えよう③」	<input type="checkbox"/> キャリアカウンセリング ・自己評価からの振り返りと今後の課題確認	「自己チェックシート」 「キャリアカウンセリングシート」	
2	LCP の作成 保護者等懇談	<input type="checkbox"/> 後期評価の入力（職員） <input type="checkbox"/> 後期評価確認（様式5、6、7） <input type="checkbox"/> 様式5「個別の教育支援計画」家庭の支援目標の評価を聞き取り、入力（通学生） <input type="checkbox"/> 様式8「相談・支援の記録」入力	様式6、7「個別の指導計画」 様式5「個別の教育支援計画」（学校の支援目標） 様式8「相談・支援の記録」	<input type="checkbox"/> 舎「個別の指導計画」後期評価
3	生徒面談 修了式	<input type="checkbox"/> 後期評価説明、今後の目標を確認 <input type="checkbox"/> LCP印刷、ファイルの整理		<input type="checkbox"/> 様式5「個別の教育支援計画」寄宿舍の支援目標の評価記入

LCP 作成と活用の流れ【2学年】

月	関連する単元、行事	内容	使用様式、教材	寄宿舍との連携
4	職員研修 進路学習「自分のことについて考えよう①」	<input type="checkbox"/> 実態把握（職員） <input type="checkbox"/> オリエンテーション <input type="checkbox"/> 自己理解（生徒） <input type="checkbox"/> 本人の願いを記入（生徒） <input type="checkbox"/> キャリアカウンセリング <ul style="list-style-type: none"> ・課題の確認 ・1学年の目標設定 ・目標の掲示 	様式4「キャリア発達を支援するチェックリスト」作成 教員用資料「進路学習におけるキャリアカウンセリングについて」 「自己チェックシート」 様式2「本人の希望把握シート」 様式2「本人の希望補助シート(イラスト入り)」 「キャリアカウンセリングシート」 「学校生活の目標設定シート」(補助教材) 「私の目標」	<input type="checkbox"/> 学舎懇談 生徒実態、目標を共通理解
5	LCP の作成 保護者等懇談	<input type="checkbox"/> 目標の入力（職員） <input type="checkbox"/> 様式5, 6, 7の目標を提示、確認 ※様式1（フェイスシートの変更点があれば担任が加筆、修正する）	様式5「個別の教育支援計画」学校、寄宿舍、家庭の支援目標(家庭は通学生のみ) 様式6、7「個別の指導計画」 様式1（フェイスシート）	<input type="checkbox"/> 舎「個別の指導計画」検討 <input type="checkbox"/> 「様式5」寄宿舍の支援目標
6	生徒面談週間	<input type="checkbox"/> 個別の指導計画の目標を確認する		
7	家庭訪問			
8	進路学習「自分のことについて考えよう②」	<input type="checkbox"/> 自己の振り返り <input type="checkbox"/> キャリアカウンセリング中間反省 <ul style="list-style-type: none"> ・前期の課題と成果の確認 	「自己チェックシート」 「キャリアカウンセリングシート」	<input type="checkbox"/> 舎「個別の指導計画」前期評価 <input type="checkbox"/> 学舎懇談
9	LCP の作成	<input type="checkbox"/> 前期評価と後期の目標設定（職員）	様式6、7「個別の指導計画」	→前期達成状況と後期の目標を共通理解
10	保護者等懇談	<input type="checkbox"/> 前期評価説明、今後の方向性を共通理解 <input type="checkbox"/> 家庭の支援目標の取り組み状況を確認（通学生）	様式6、7「個別の指導計画」 様式5「個別の教育支援計画」	

	生徒面談週間	<input type="checkbox"/> 前期評価説明、今後の目標を確認 <input type="checkbox"/> 家庭生活の目標の振り返り（通学生）	様式6、7「個別の指導計画」 「私の目標」 「キャリアカウンセリングシート」	
11				
12		<input type="checkbox"/> 達成状況の確認、次年度の支援目標の設定に向けて（職員）	様式4「キャリア発達を支援するチェックリスト」	
1	進路学習「自分のことについて考えよう③」	<input type="checkbox"/> キャリアカウンセリング ・自己評価からの振り返りと今後の課題確認	「自己チェックシート」 「キャリアカウンセリングシート」	
2	LCPの作成 保護者等懇談	<input type="checkbox"/> 後期評価の入力（職員） <input type="checkbox"/> 後期評価確認（様式5、6、7） <input type="checkbox"/> 様式5「個別の教育支援計画」家庭の支援目標の評価を聞き取り、入力（通学生） <input type="checkbox"/> 様式8「相談・支援の記録」入力	様式6、7「個別の指導計画」 様式5「個別の教育支援計画」（学校の支援目標） 様式8「相談・支援の記録」	<input type="checkbox"/> 舎「個別の指導計画」後期評価
3	生徒面談 修了式	<input type="checkbox"/> 後期評価説明、今後の目標を確認 <input type="checkbox"/> LCP印刷、ファイルの整理		<input type="checkbox"/> 様式5「個別の教育支援計画」寄宿舍の支援目標の評価記入

LCP 作成と活用の流れ【3学年】

月	関連する単元、行事	内容	使用様式、教材	寄宿舍との連携
4	職員研修 進路学習「自分のことについて考えよう①」	<input type="checkbox"/> 実態把握（職員） <input type="checkbox"/> オリエンテーション ・2学年の振り返りと3学年に向けて <input type="checkbox"/> 自己理解（生徒） <input type="checkbox"/> 本人の願いを記入（生徒） <input type="checkbox"/> キャリアカウンセリング ・2学年の成果と課題の確認 ・3学年の目標設定 ・目標の掲示	様式4「キャリア発達を支援するチェックリスト」作成 教員用資料「進路学習におけるキャリアカウンセリングについて」 「自己チェックシート」 様式2「本人の希望把握シート」 様式2「本人の希望補助シート(イラスト入り)」 「キャリアカウンセリングシート」 「学校生活の目標設定シート」(補助教材) 「私の目標」	<input type="checkbox"/> 学舎懇談 生徒実態、目標を共通理解
5	LCP の作成 保護者等懇談	<input type="checkbox"/> 目標の入力（職員） <input type="checkbox"/> 様式5, 6, 7の目標を提示、確認 ※様式1（フェイスシートの変更点があれば担任が加筆、修正する	様式5「個別の教育支援計画」学校、寄宿舍、家庭の支援目標(家庭は通学生のみ) 様式6, 7「個別の指導計画」	<input type="checkbox"/> 舎「個別の指導計画」検討 <input type="checkbox"/> 「様式5」寄宿舍の支援目標
6	生徒面談週間	<input type="checkbox"/> 個別の指導計画の目標を確認する		
7				
8	進路学習「自分のことについて考えよう②」	<input type="checkbox"/> 自己の振り返り <input type="checkbox"/> キャリアカウンセリング中間反省 ・前期の課題と成果の確認	「自己チェックシート」 「キャリアカウンセリングシート」	<input type="checkbox"/> 舎「個別の指導計画」前期評価 <input type="checkbox"/> 学舎懇談
9	LCP の作成	<input type="checkbox"/> 前期評価と後期の目標設定（職員）	様式6, 7「個別の指導計画」	→前期達成状況と後期の目標を共通理解
10	保護者等懇談	<input type="checkbox"/> 前期評価説明、今後の方向性を共通理解 <input type="checkbox"/> 家庭の支援目標の取り組み状況を確認（通学生）	様式6, 7「個別の指導計画」 様式5「個別の教育支援計画」	

	生徒面談週間 進路懇談会(1.3 年)	<input type="checkbox"/> 前期評価説明、今後の目標を確認 <input type="checkbox"/> 家庭生活の目標の振り返り(通学生)	様式6,7「個別の指導計画」 「私の目標」 「キャリアカウンセリングシート」	
11				
12	進路学習「自分のことについて考えよう③」	<input type="checkbox"/> 達成状況の確認(職員) <input type="checkbox"/> キャリアカウンセリング ・自己評価からの振り返りと今後の課題確認 <input type="checkbox"/> 3年間のまとめ <input type="checkbox"/> 個別移行支援計画の確認	様式4「キャリア発達を支援するチェックリスト」 「自己チェックシート」 「キャリアカウンセリングシート」	
1 2	LCPの作成 保護者等懇談	<input type="checkbox"/> 後期評価の入力(職員) <input type="checkbox"/> 後期評価確認(様式5, 6, 7) <input type="checkbox"/> 様式5 「個別の教育支援計画」家庭の支援目標の評価を聞き取り、入力(通学生) <input type="checkbox"/> 様式1「フェイスシート」の確認 →卒業後に郵送することを伝える	様式6,7「個別の指導計画」 様式5「個別の教育支援計画」(学校の支援目標)	<input type="checkbox"/> 舎「個別の指導計画」前期評価 <input type="checkbox"/> 様式5「個別の教育支援計画」寄宿舍の支援目標の評価記入
3		<input type="checkbox"/> LCP入力完了、印刷 <input type="checkbox"/> 決済(Co.) <input type="checkbox"/> LCPをレターパックで郵送 <input type="checkbox"/> ファイルの整理		

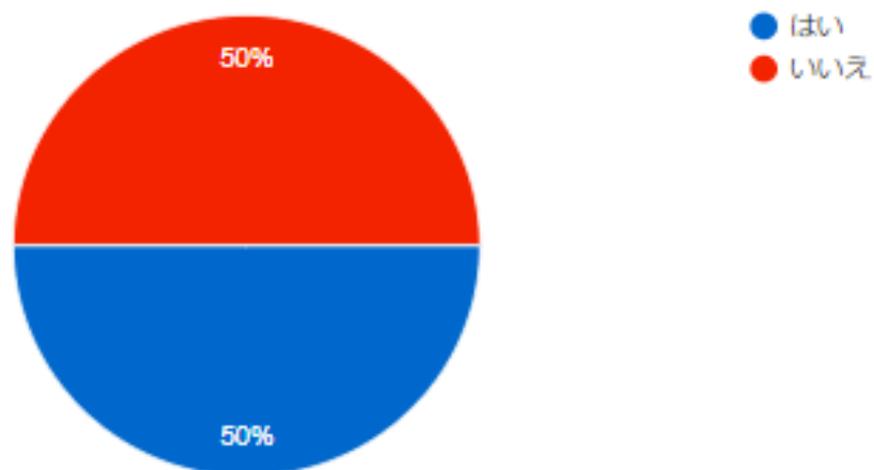
R5

**キャリアカウンセリングに関するアンケート
集計結果**

Q 1

キャリアカウンセリングのねらいや実施方法は校内で共通理解されていると感じますか。

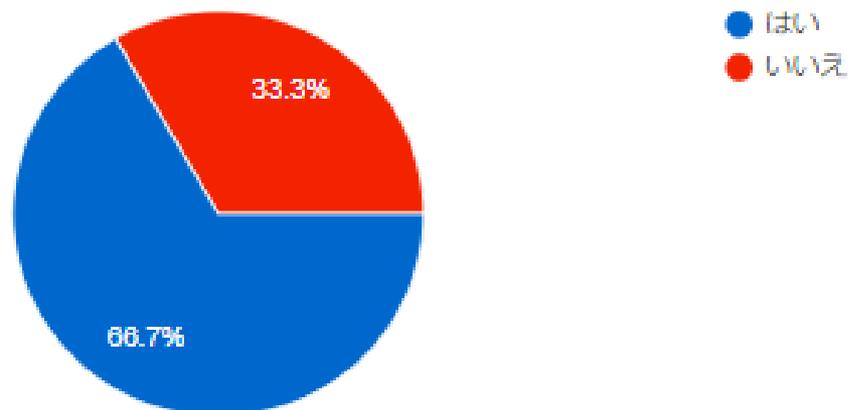
12 件の回答



Q2

キャリアカウンセリングを日々の指導・支援に活かすことができていると感じますか。

12件の回答

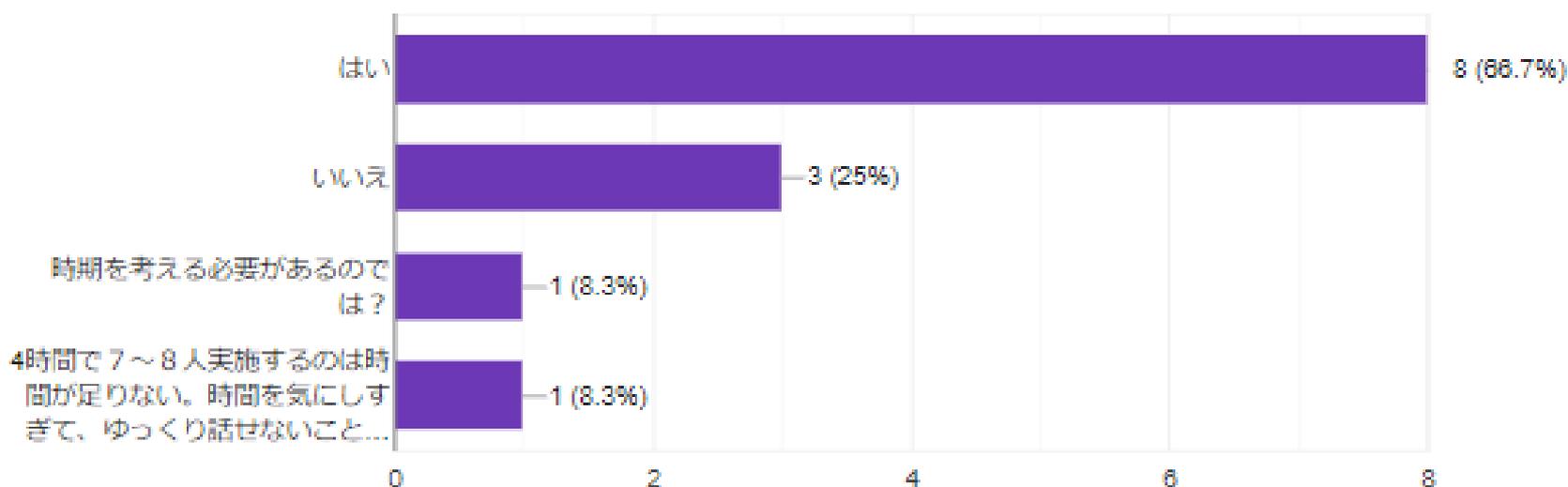


Q3

年間の設定回数や時数は適切ですか。
改善が必要な点があれば、「その他」に記入して下さい。



12件の回答

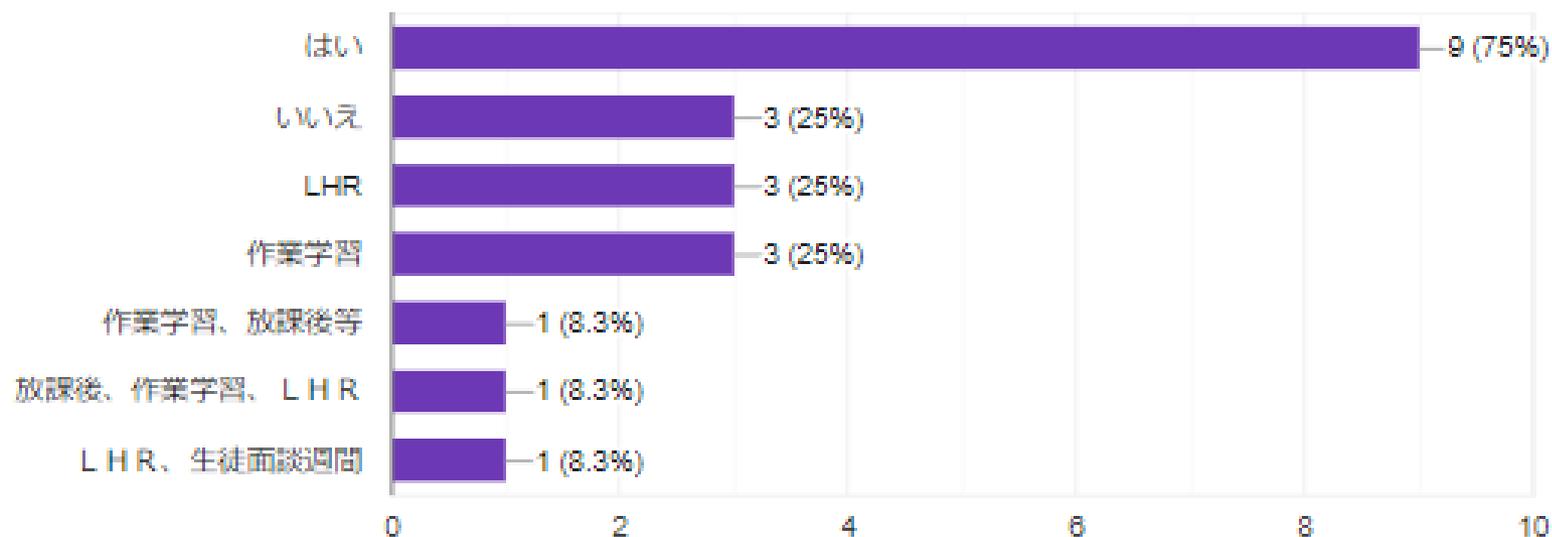


- 時期を考える必要があるのでは？
- 4時間で7～8人を実施するのは時間が足りない。
時間を気にしすぎて、ゆっくり話せないことが多い。

Q 4

進路学習で設定された時間以外でキャリアカウンセリングを行うことはありますか。「はい」と答えた方は、「その他」に実施している場面（授業名）を記入してください。

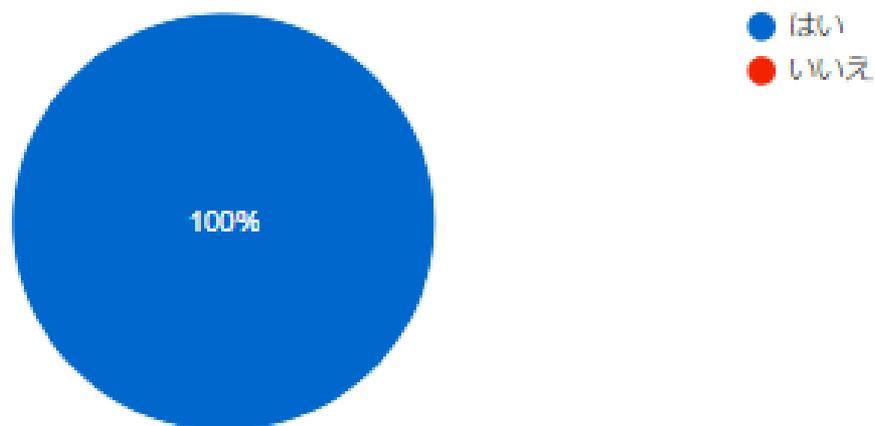
12件の回答



Q5

個別の指導計画の目標は、キャリアカウンセリングとのつながりを意識して設定していますか。

12件の回答

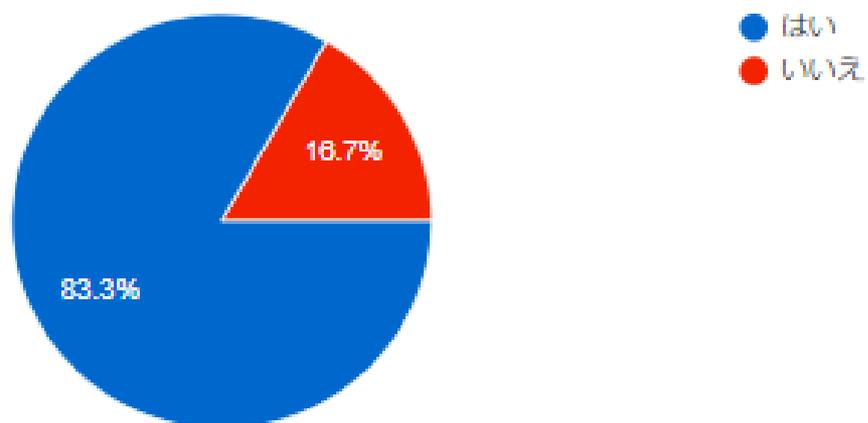


Q 6

キャリアカウンセリングに「キャリアカウンセリングシート」を活用していますか。

 コピー

12 件の回答



Q7

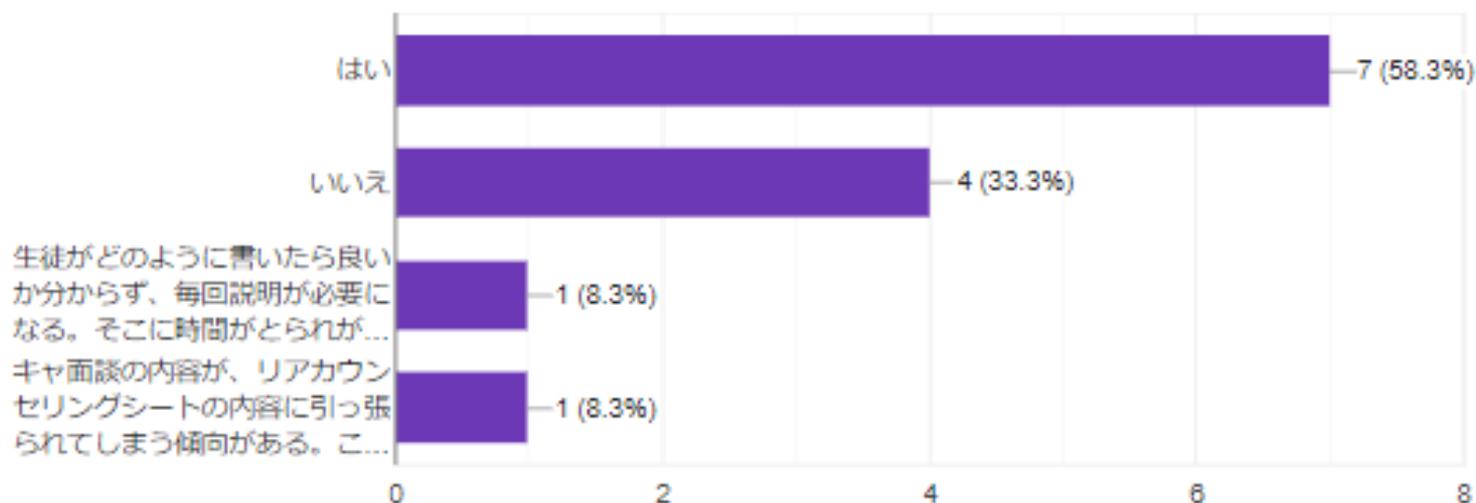
「キャリアカウンセリングシート」の書式は生徒との面談に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

コ

ピ

—

12件の回答

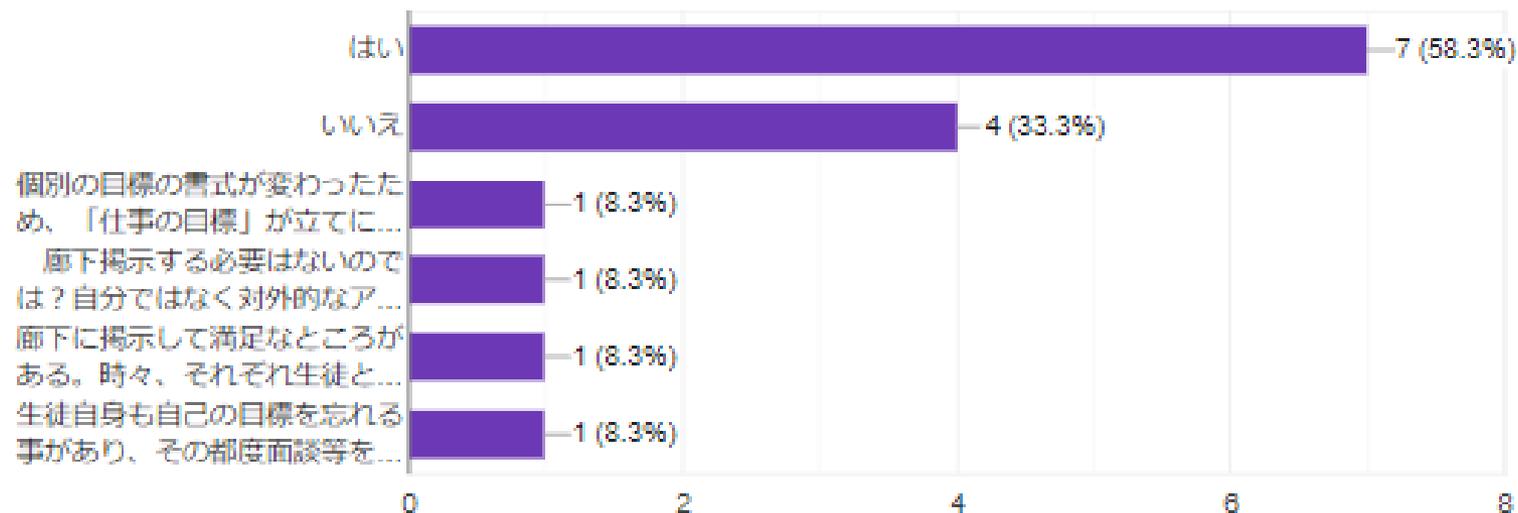


- ・生徒がどのように書いたらよいか分からず、毎回説明が必要になる。そこに時間がとられがち。
- ・面談の内容がキャリアカウンセリングシートの内容に引っ張られてしまう傾向がある。これは良い影響がある場合と、その内容に固執してしまい課題が埋もれてしまうことがある。

Q8

廊下に掲示した「私の目標」を日々の指導・支援に生かすことができていると感じますか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

12件の回答



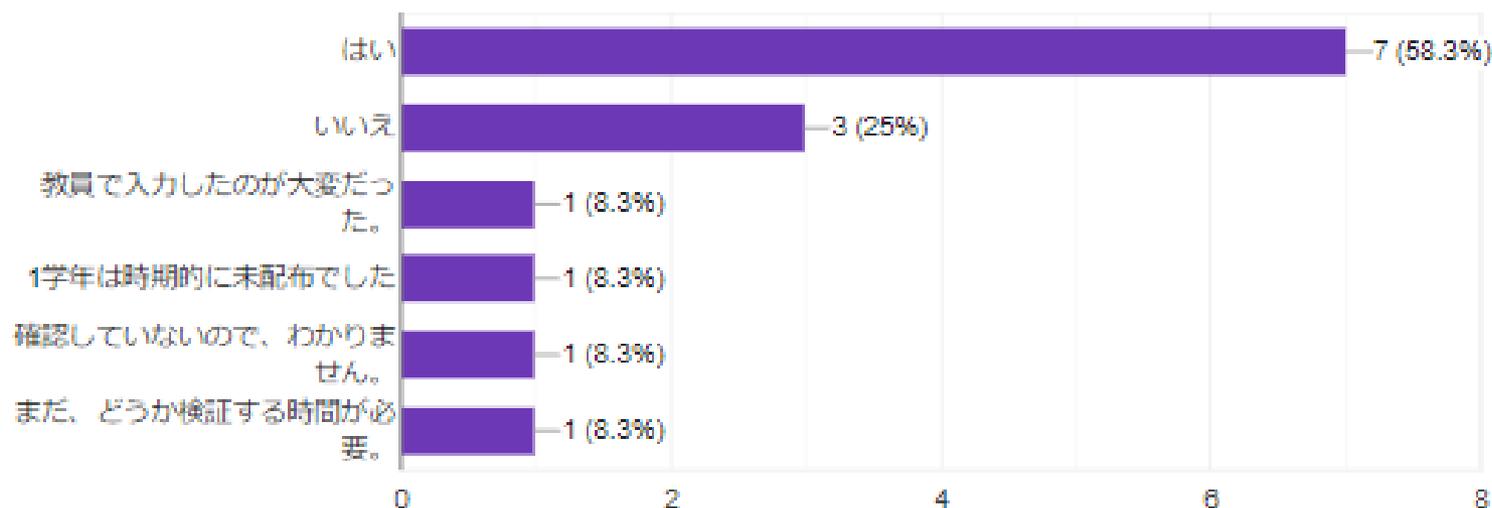
Q8

- ・ 個別の目標の書式が変わったため「仕事の目標」が立てにくくなった。
- ・ 廊下掲示する必要はないのでは？自分ではなく対外的なアピールであってなくとも良い。
- ・ 廊下に掲示して満足なところがある。時々、それぞれ生徒と目標を確認して、取り組み方や現状を振り返ることで、もっと日々の指導・支援に生かせると思う。
- ・ 生徒自身も自己の目標を忘れることがあり、その都度面談等を通じて確認する必要がある。

Q9

今年から自己チェックシートはipadでの入力になりましたが、利用しやすかったですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

12件の回答

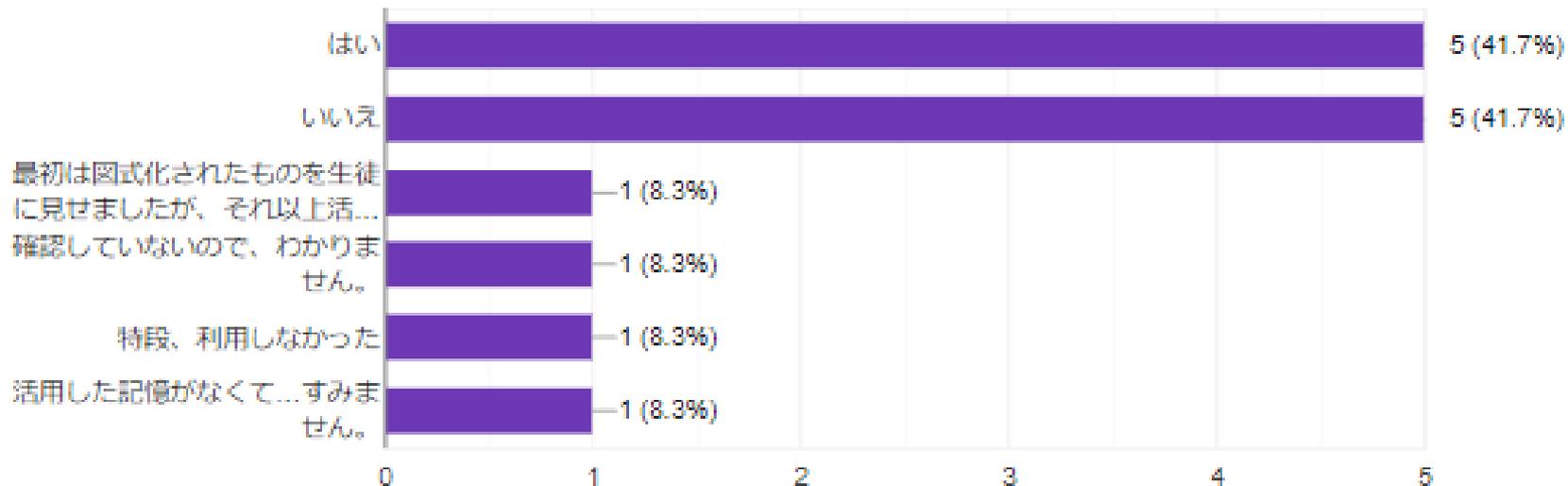


- ・ 教員で入力したのが大変だった。
- ・ 1学年は時期的に未配布でした。
- ・ 確認していないので、わかりません。
- ・ まだ、どうか検証する時間が必要。

Q10

自己チェックシートのレーダーチャートは活用しやすかったですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

12件の回答

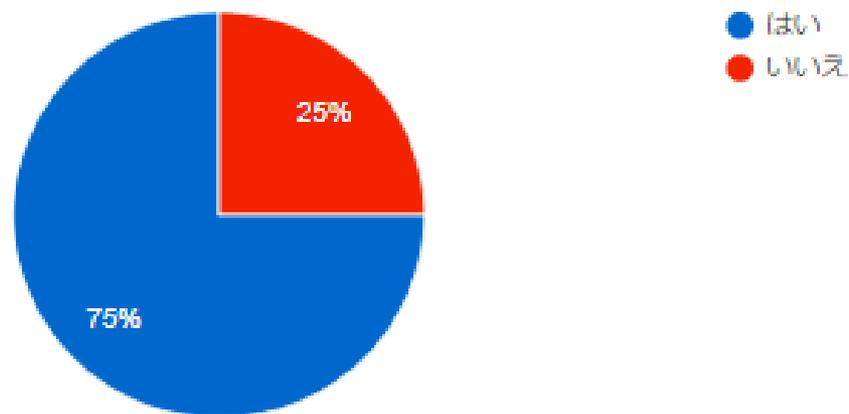


Q 1 1

キャリアカウンセリングに「自己チェックシート」を活用していますか。

 コピー

12 件の回答

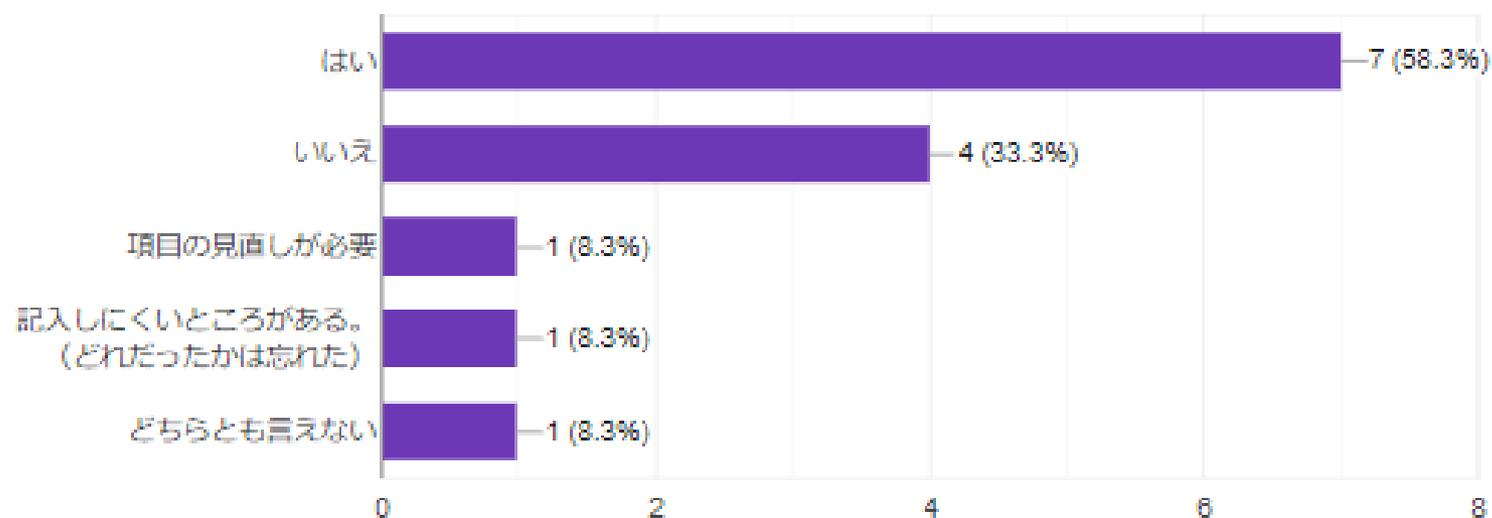


Q 1 2

「自己チェックシート」の書式は、生徒との課題や評価の共有に活用しやすいですか。

改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

12件の回答



コピー

Q 1 3

キャリアカウンセリングの実施に関して、要望や困っていることがあればお書きください。
(実施方法、設定回数、使用教材についてなど、御意見ください)

2件の回答

自己チェックシートの内容が、生徒の様子にそぐわない

じっくり取り組むには時間が足りない。

Q 1 4

キャリアカウンセリングを実施する際にポイントとしていること、心掛けていることがあればお書きください。

5件の回答

生徒が具体的に取り組むことを目標にすることと、評価できるかどうかを心掛けています。

なるべく指導計画の一致するように記入している

自己理解を深められるように。前向きに将来を考えられるように。

目標ごとに振り返りを行い、現状どうなのか次からどうするのかを確認する。

生徒の長所を引き出すことを意識した問いかけ

キャリアカウンセリングの進め方

※生徒の考えを十分に受け止めながら、他者評価(教師の助言等)も伝え、生徒が主体的に考え(自己理解)を深められるよう実施する。

※生徒と教師が年間をとおして目標に価値をもち、生徒が目標達成に向けて主体的かつ前向きに学校生活を送ることを目指す。

4月	【教師】「チェックリスト」記入日	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との関わりや引き継ぎ情報をもとに実態把握を進め、学級関係者で情報共有を行い、チェックリストを記入する。 *チェックリスト記入結果は生徒の目標設定に活用する。
	【1年生】進路学習・LHR ○「本人の希望」記入 ○「自己チェックシート」記入 ○「キャリアカウンセリングシート」P1 情報記入(入力)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の希望と、その実現に向けて高校生活で頑張りたいことを考える。 ・1年時はiPadの配付前であるため、紙面に記入する。 記入したものを教員がデータ入力することで、レーダーチャートが作成される。 ・「本人の希望」や「自己チェックシート」をもとに、目標設定の材料となる情報を整理し、記入する。
	【2年生・3年生】LHR ○「本人の希望」見直し、記入 ○「自己チェックシート」入力 ○「キャリアカウンセリングシート」P1 情報記入(入力)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の希望と、その実現に向けて高校生活で頑張りたいことについて振り返り、現状を記入する。 ・キャリアカウンセリング実施前のLHRを用いて、自己チェックシートの入力を行う。 ・「本人の希望」や「自己チェックシート」、前年度評価、現場実習学習帳等をもとに、目標設定の材料となる情報を整理し、記入する。
4月末 5月	【全学年】進路学習 ○前期 キャリアカウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> ・自己チェックシートやキャリアカウンセリングシートP1をもとに、キャリアカウンセリング面談を実施。教師は、生徒の考えを十分に聞きながら、実態把握をもとにした助言を行い、生徒の自己理解を深め、課題の確認と目標設定を行う。 <p>＜キャリアカウンセリングシート記入の進め方＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①【生徒】「自己チェックシート」や「キャリアカウンセリングシート」P1をもとに生徒の考えを記入する。 ②【生徒・教師】個別に面談を行い、前期の目標を設定する。目標達成に向けてに記入する具体的な行動等についても話し合う。 【教師】先生からのアドバイスは、その場で教師を記入するか、付箋などでポイントを示し、面談後に生徒が記入する。 ③【生徒】面談中もしくは面談後、目標達成に向けてに、具体的な行動等を記入する。
8月	【全学年】進路学習 ○中間 キャリアカウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が前期の振り返りを記入した後、教師と面談を行う。後期の目標もこの時間に設定する。 ・面談中もしくは面談後、生徒は、先生からのアドバイス、目標達成に向けてを記入する。
12月	【教師】「チェックリスト」記入日	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間を振り返り、指導の状況や実態把握の内容について学級関係者で情報共有を行い、チェックリストを記入する。 *チェックリスト記入結果は生徒の目標設定に活用する。
1月	【全学年】進路学習 ○後期 キャリアカウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が後期の振り返りを記入した後、教師と面談を行う。次年度の重点課題もこの時間に設定する。 ・面談後、生徒は、先生からのアドバイスを記入する。

「家庭生活の目標」（家庭・地域における活動）	
【前期】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【自分の考え】 ※学校生活（前期）で、頑張りたいこと・身に付けたいことを具体的に記入	
【先生からのアドバイス】	
【前期の目標】	
【目標達成に向けて】	

【中間】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【振り返り】 ※目標がどれくらい達成できたかを記入	
【先生からのアドバイス】	

【 後期の目標 】 ※中間カウンセリングで設定
【目標達成に向けて】

【年度末】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【 振り返り 】 ※目標がどれくらい達成できたかを記入	
【先生からのアドバイス】	
【次年度の課題（頑張りたいこと、身に付けたいこと）】 ※次年度前期の目標に反映	

【メモ】

令和5年度キャリア・パスポートグループ

1 これまでの経緯

(1) キャリア・パスポートの例示資料案等と本校の学習活動の関連

- ・年度初めの目標や学期末の振り返り、一年間の振り返り～学級活動
- ・就業体験、インターンシップ～職業、進路学習（現場実習事前・事後）、作業学習
- ・学校行事等について～学校祭、宿泊研修、見学旅行など
- ・総合的な学習の時間～進路学習

(2) キャリア・パスポートの例示を参考に本校の内容を検討

- ・年度初めの目標、学期・年度末の振り返り
→進路学習 キャリアカウンセリングシート
- ・現場実習事前・事後
→職業 現場実習学習帳の一部
- ・学校祭
→LHR 新規シートの作成
- ・宿泊研修・見学旅行
→LHR 宿泊研修のしおり・見学旅行のしおり
- ・ボランティア等の地域活動、家庭内での取組、習い事などの活動
→進路学習 本人の希望シート（一部修正）

(3) 本校の様式

様式の例示には、基礎的・汎用的能力（「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」）の記入欄があるが、本校ではこれらの能力は「キャリア発達を支援する5つの重点」となっているので置き換えることとする。

2 今年度検討すること

(1) 内容と様式

(2) 基礎的・汎用的能力を本校の「キャリア発達を支援する5つの重点」に置き換える。

(3) 取り扱う時期や時間割

(4) 管理方法（将来的にはデータ保存か）

3 今年度検討した内容

(1) 内容と様式

- ・ 1枚目は「表紙」とし、3年間使用する。そのため学年ではなく、〇期生とする。
- ・ 2枚目は様式例示を参考にし、「小樽高等支援学校の皆さんへ」ということで「高校生活でさらに伸ばしてほしい能力（キャリア発達を支援する5つの重点）」をまとめている。
- ・ 3枚目も様式例示を参考にし、「具体的に卒業までに身に付けてほしい力」「キャリア・パスポートを作成するねらいや期待すること」「生徒へのメッセージ」をまとめている。
- ・ 4枚目以降は本校独自の「キャリアカウンセリングシート」を活用する。
- ・ 本校の「キャリアカウンセリング」では、入学前までの生活（過去）、高校生活（現在）、卒業後の生活（将来）を考え、自分が社会ではたす役割（仕事）や生き方（生活・余暇）を実現する（キャリア）ために行う進路相談（カウンセリング）を行ってきた。
- ・ 「キャリアカウンセリングシート」を活用し、一人一人の「将来の夢」「本人の希望」をもとに、「学校生活」「家庭・寄宿舎生活」「コミュニケーション」「仕事」についての個別目標の設定と評価について話し合い、OKSライフキャリアプランの作成に生かしてきた。
- ・ このように、従来から「進路学習（総合的な探究の時間）」では、生徒と指導者の「対話」を大切に、「目標設定から評価まで」を丁寧に扱ってきた。生徒・職員共に慣れ親しんできた「本校独自の様式を有効活用」することで、負担が少なく進められると考える。
- ・ 4枚目以降は、「寄宿舎生」と「通学生」で枚数が変わる。
- ・ 様式例示では、「各行事等の評価」、「現場実習の評価」も示されているが、本校ではこれまでどおり各行事や現場実習のファイルで引き継ぐこととする。

(2) 基礎的・汎用的能力を本校の「キャリア発達を支援する5つの重点」へ

- ・ 2枚目は、様式例示では「〇〇学校の皆さんへ」とし、基礎的・汎用的能力で示している。
- ・ 本校では開校当初から「キャリア発達を支援する5つの重点」を大切にしてきた経緯があり、引き続き大切にしていきたいと考え、置き換えている。

(3) 取り扱う時期や時間割

- ・ 基本的には、これまでどおり進路学習（総合的な探究の時間）で取り扱うが、進度に応じてLHR等を活用することも可能である。
- ※令和6年度入学生より実施。

(4) 管理方法

- ・ 教務部が管理部署とする。
- ・ 紙媒体とし、プラスチックファイルに綴じることとする。入学時に学習費で購入し、3年間使用する。（1学年主任が中心となり、ファイルを注文する。また「キャリア・パスポート」「氏名」をテプラで作成する。※背表紙）
- ・ 将来的には、ICT機器等で入力、データ保管することも視野に入れる。
- ・ 学年間の引継ぎは原則、学級担任で行う。
- ・ 教室の棚に一括保管し、学級担任が責任を持って管理する。
- ・ 進路学習で作成したキャリアカウンセリングシートは、その都度ファイルに綴じること原則として進める。

北海道小樽高等支援学校

キャリア・パスポート

(キャリアカウンセリングシート)

____期生 _____科 氏名 _____

小樽高等支援学校の皆さんへ

人は、他者や社会のとの関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きています。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものです。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもありますが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を積み重ねながら取り組んでいます。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会に関わることになり、その関わり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものです。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見だしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところです。

これからのますます変化の激しい社会の中で、主体的に自らの可能性を発揮し、よりよい社会や世界と幸福な人生の創り手となっていくために、皆さんには、キャリア形成の視点から、次の能力をさらに伸ばしていくことが求められています。

《高校生活でさらに伸ばしてほしい能力》（キャリア発達を支援する5つの重点）

【人間関係づくり】

- 他者の個性を尊重し、事故の個性を発揮しながら、様々な人々と協力してものごとに取り組む。
 - ・自分のよさや課題への気付き
 - ・相手を理解し、思いやりの気持ちをもった言動
 - ・協力して目標を達成することのよさへの気付き
 - ・戸惑いや葛藤に対するよりよい課題解決の方法

【コミュニケーション】

- コミュニケーションの基礎的な力を身に付け、豊かな人間関係を築こうとする。
 - ・挨拶、返事 ・援助依頼 ・報告、伝言 ・敬語の使い方
 - ・質問や相談 ・状況に応じた会話

【働く習慣】

- 職業生活に必要な基礎的な習慣を身に付ける。
 - ・家庭、学校における習慣づくり
 - ・職場における習慣づくり
 - ・時間の意識、安全性、積極性、責任力、集中力、ルールやマナー、丁寧さ、正確性、判断力

【将来設計】

- 進路学習を通じ、働きたいという気持ちを育て、自分で進路を選ぶ力を身に付ける。
 - ・働くことへの興味関心、将来の夢や憧れ
 - ・現場実習の目標設定、振り返りから次へのステップ
 - ・進路希望に向けた取組と進路決定

【生きがい】

- 個性を伸ばし、生きがい、やりがいを見付け、自分らしく生きようとする。
 - ・社会の一員として貢献している喜びを感じ、自己有用感をもった主体的な活動
 - ・自己を生かしたよりよい生き方、余暇活動の楽しさ、やりがい

皆さんには、授業や学校行事、部・同好会・外局活動などでの様々な体験や学びを通して、これらの能力を自ら成長させることを意識してほしいと思います。

そして、この「キャリア・パスポート」で、高校生活を見通したり振り返ったりしながら、学びの履歴を積み重ねていくことが、皆さんの今後の人生をつくっていくための「道しるべ」になることを願っています。

小樽高等支援学校の皆さんへ

小樽高等支援学校で卒業までに身に付けてほしい力とは

- 一人一人の生徒が多くの「感動」「協働」を体験し、「躍動」することを通して、将来の社会自立に向けた「働く生活に必要な力」を養う。
- ・生きて働く知識・技能を習得し、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を身に付け、学びを人生や社会に生かそうとする。
 - ・社会的・職業的自立に向け、自己有用感・自己肯定感をもって、自分らしい生き方を展望し、表現する。

キャリア・パスポートを作成するねらい・期待すること

- ・学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立てる
- ・学んだことを振り返る（様々な活動を「やりっぱなし」で終わらせない）
- ・新たな学習や生活への意欲につなげる
- ・将来の生き方を考える
- ・生徒にとっては自己理解、教員にとっては生徒理解を深める
- ・就職、進学の際に、これまでの自分自身を振り返り、将来を考える

生徒たちへのメッセージ

- ・自分のよさや生きがいを見付け、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育てるとともに、生活する力や働く力を身に付けてください。
- ・高校生活の中でたくさん失敗をしてもいいです。失敗から学ぶこともたくさんあります。

令和 6 年 4 月

北海道小樽高等支援学校長 ○ ○ ○ ○

以下 キャリアカウンセリングシート新書式（資料４）

1 研究の方向性と内容

(1) 教材開発グループ

- ア 15期生の学習時期や内容などを基に、次年度の年間指導計画の検討と作成する。
- イ 「私たちに未来へ」などの教科書の導入に向けた検討する。
- ウ 本校の実態に即した具体的な教材の発掘や内容の充実する。

(2) 年間指導計画グループ

- ア 令和5年度 基底となる学習計画の作成する。
- イ 令和5年度 年間指導計画の作成する。(新書式)

2 研究の課題

(1) 教材発掘グループ

- ア 各学年の年間指導計画にある題材をピックアップし、教材BOXの内容を整理することができた。
- イ 北特研「特別の教科 道徳」講座を通して、副読本「私たちの未来 未来の私たち」を活用に向けて具体的な助言をもらうことができた。
- ウ 次年度の副読本の段階的な導入に向けて、12月に研究授業を1学年で実施することができた。

(2) 年間指導計画グループ

- ア 令和5年度版の基底となる指導計画を検討し、新書式で作成することができた。また、年間指導計画について新書式で全学年分を検討し、作成することができた。

3 今後の課題

(1) 教材発掘グループ

- ア 副読本「私たちの未来 未来の私たち」を試行的に活用し、本校の生徒の実態に適しているかどうか検証する必要がある。
- イ 各学年の特別の教科 道徳を担当する教員を明確にしているが、現状としてあまり機能していない。
- ウ 現在のところ、特別の教科 道徳を作業学習と特定の期間で指導をすることになっているが、現状として作業学習で指導を進めることが難しい。
そのため、道徳として1コマ設定するか教育課程検討委員会と連携し、時間割の検討をする必要がある。

(2) 年間指導計画グループ

- ア 次年度に向けて、副読本「私たちの未来 未来の私たち」を試行的に活用する場合は、時期や題材について年間指導計画に反映させる必要がある。また、各学年の担当者から指導内容などを周知していく必要がある。

4 次年度に向けて

- ア 道徳として1コマ設定するか教育課程検討委員会と連携し、時間割の検討をする。
- イ 副読本の段階的な導入に向けて、題材などの検討をする。

5 作成資料など

- ・道徳指導案(研究授業)【別紙1】
- ・道徳ワークシート(生徒用)【別紙2】
- ・R5年間指導計画(全学年)【別紙3】
- ・基底となる指導計画【別紙4】
- ・研究交流会【別紙5】

6 参考・引用文献等

- ・「私たちの未来 未来の私たち」(道徳)開隆堂

対象	木工科1年 8名 (木工科1年教室)	日時	12月1日(金) 13:25~14:15
担当	佐々木敏光(MT)、副担任(ST)		
単元名	道徳 (学校祭の準備に向けて 仮設定)	教材	道徳「私たちの未来 未来の私たち」(開隆堂)のコピーワークシート(担任配布)
目標	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のよいところを知る。 • 話し合うことで、いろいろな考えに気づく。 • より自分らしい考えを見つけていく。 		
生徒観 教材観 指導観	<ul style="list-style-type: none"> • 考えの違いの差、取り組む早さの差、発言力の差がとても大きい集団 • 北特研で入手した道徳の教材を活用してみでの授業 • 意見を出し合う大切さ、他者の意見に共感する大切さ、自分事として取り入れる大切さ 		
	学 習 内 容	生徒の活動	教師の活動・留意事項
13:25	○挨拶をおこなう。	• 日直のあいさつ。	• 当日の日直を指名。
	○今日の学習内容 ① 道徳の学習とは ② 人との関わりについて	• 説明を聞く	• 道徳の学習を再考させる。 • 教材を活用した授業であることを説明する。
13:30	○教材「文化祭の準備」を丸印刻みで音読する。 ○もう一度MTが読む。	• 出席順番に読む。 • MTの音読を聞く。	• 教材のコピーを配布する。 • 出席番号順に音読させる。 • わかりやすく読む。
13:35	○「寿人さん」と「勇人さん」の会話や行動を振り返る。	• 会話や行動の流れを発言する。 • ワークシートに記入する。	• ワークシートNo.1を配布する。 • 積極的な発言を求める。 • 板書をして記入させる。
13:45	○自分が登場人物だったらどう思うかを考える。	• ワークシートに記入する。 • 記入した気持ちを発表する。 • 他者の気持ちをワークシートに記入する。	• ワークシートNo.2を配布する。 • 順番に発表させ、板書し、他者の気持ちを理解させる。
14:00	○なぜ「寿人さん」は「勇人さん」を怒らなかったか。	• ワークシートに記入する。 • 記入した気持ちを発表する。 • 他者の気持ちをワークシートに記入する。 • 参考になった意見を記入する。	• 「自分だったら」の気持ちを正直に記入させる。 • 順番に発表させ、板書し、他者の気持ちを理解させる。 • 他者の意見で参考になったことを記録しておく。
14:10	○自分がよりよく生きるためよいところを見つけ、自分らしい考えを見つける。	• 話を聞く。	• まとめとして、自分のよりよい言動を見つけ、自分らしい考えに気づく。
14:15	○挨拶をおこなう。	• 日直のあいさつ。	• 当日の日直を指名。

道徳 「文化祭の準備」 を読んで No.1

木工科1年

☆寿人さんと勇人さんの会話や行動を振り返ってみましょう☆

ヒサト
寿人さん



文化祭で使用する背景画を作成

②

④

⑦



⑧

ユウト
勇人さん



野球大会を間近にしている

①

③

⑤



⑥



道徳 「文化祭の準備」 を読んで No.2

木工科1年

☆寿人さんと勇人さんは、どのような気持ちで背景画を作成したのだろうか。話し合ってみよう。☆

1. あなたが寿人さんだったら、バケツを倒した勇人さんをどう思いますか。

①^{ユル}許せる

②^{ユル}許せない

(理由)

.....

.....

.....

.....

【 】さん ①許せる・②許せない
(理由)

2. なぜ寿人さんは、勇人さんを怒らなかったのですか。

.....

.....

.....

↓ 自分以外の人参考になった意見は

別紙3

年間指導計画

(令和5年度「道徳」年間指導計画)

1 学年

目標		□素晴らしいものを素直に受け入れる感性と、コミュニケーションの基礎を身に付け、豊かな人間関係を築こうとする態度を育む。				
月	時数	単元名・題材名	実施時期	主な指導内容	使用教材	実施日
4	1	・集団生活のきまり	・入学式後の学年集会 1h	・小樽高等支援学校の生活のきまりを知り、規則がある意味、規則を守る大切さについて考える。 【自主・自律、自由と責任】【礼儀】【遵法精神、公德心】【公正、公平、社会正義】 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【よりよく生きる喜び】【相互理解・寛容】 【真理の探究、創造】	・小樽高等支援学校「高校生の生活」(指導部) ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P38 「礼に始まり、礼に終わる」	4月11日
	1	・本校生としての自覚 ・学校生活の目標	・入学式当日又は翌日学級指導の1hを道徳でカウント	・よりよい高校生活を送るために大切にしたい言動について考える。 ・校訓「感動、協働、躍動」の意味を考える。		4月11日
	5	・望ましい生活習慣	・検診に関わるLHR5 ・各検診前後の学級指導(5~8月)を道徳でカウント)	・充実した学校生活、目標を持つ大切さについて考える。 ・望ましい生活習慣の意義、心身の健康、節度節制、よく考えた行動の大切さ 【節度・節制】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P16 「あこがれのスマートフォン」 ・GW中の生活(指導部より)	4月12日、20日 5月10日 6月22日、29日
	1	・環境持続可能な社会のためにできること	・SDG s についての学級指導 1 h(金曜日LHR)を道徳としてカウント	・SDG s やユネスコスクールについて知り、自分たちができることを考える。 ・国際的な視野、自然環境を大切にすることの意義。 【国際理解、国際貢献】【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】 【自然愛護】【感動、畏敬の念】	・ワークシートあり(教務部より) ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P60 「美化委員会の仕事」	5月12日
	1	・仲間との協調、集団行動	・宿泊の事前学習 1 h を(「意義等」に関すること)道徳としてカウント	・学級や学校の一員としての覚をもつこと、自分役割を果たす意義について考える。 ・集団の意義、よりよい集団とは何と考える。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【友情、信頼】【自主、自律、自由と責任】 【相互理解・寛容】 【感動、畏敬の念】 【真理の探究、創造】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P34 「ありがとう」のプレゼント	5月25日
	1	・学校の一員として ・開校記念日	・開校記念日の学級指導 1 h(金曜日LHR)を道徳としてカウント	・学校の歴史を知り、学校の一員としての自覚する。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【相互理解・寛容】 【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】	・ワークシートあり(教務部より) ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P52 「生徒会選挙」	6月5日
	1	・1学期のまとめ、夏休みの過ごし方	・終業式の学年集会 1 h を道徳としてカウント	・1学期の生活を振り返る。 ・夏休みの過ごし方、ルールを知り、望ましい生活習慣について考える。 【自主、自律、自由と責任】【節度・節制】【遵法精神、公德心】 【よりよく生きる喜び】	・夏休みの生活(指導部より)	7月26日
	1	・2学期に向けて	・学年集会及び、二計測後の学級指導 1 h を道徳としてカウント	・学年目標を通して言葉遣い、仲間との接し方や距離感などについて考える ・1学期の反省をもとに2学期の学校生活の在り方、目標を考える。 【礼儀】【遵法精神、公德心】【よりよい学校生活、集団生活】【向上心、個性の伸長】 【希望と勇気、克己と強い意志】【よりよく生きる喜び】【相互理解・寛容】【真理の探究、創造】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P72 「なっとう憲法」	8月21日
	1	・防災への意識	・学級指導1h・避難訓練に 関わる学級指導 1 h を道徳としてカウント	・防災、避難訓練、交通安全、自然災害に備える意義。 ・災害の事実の理解と人間の有限性、いのちの大切さを考える。 【節度・節制】【生命の尊さ】【自然愛護】	・ワークシートあり(指導部より)	8月23日
	2	・自分の大切さを知ろう	・非行防止教室(全体講演) 1 h、非行防止教室後の学級指導 1 h を道徳としてカウント	・いじめやそれにつながる行為、他者や自己を傷つける行為について考え、自分の大切さを実感する。 ・「いじり」や「いじめ」について考え、感じ方は人それぞれ違うことに気付く。 【自主・自律、自由と責任】【遵法精神、公德心】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P56 「一人にている生徒」	
	1	・働くということ	・現場実習の事前学習 1 h を道徳としてカウント	・働くことの意味や大切さについて考える。 ・仲間との協働におけるマナーやその意義を考える。 ・勤労の尊さやその意味について考える。 【社会参画、公共の精神】【勤労】【向上心、個性の伸長】【希望と勇気、克己と強い意志】【礼儀】 【よりよく生きる喜び】【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P24 「勇気を出す」 ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P102、P64 「現場実習での喜び」「通動寮での生活」	8月28日
	1	・仲間とともに	・学校祭に関わる学年での指導内、1 h を道徳としてカウント	・仲間と力を合わせるものの大切さを知る。 ・来客への挨拶、言葉遣い、態度について考え、自分の役割と責任を果たす。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【礼儀】【思いやり、感謝】【友情、信頼】 【相互理解・寛容】【真理の探究、創造】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P29 「マラソン大会に向けて」 ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P46 「文化祭の準備」	10月27日
	1	・持続可能な社会のためにできること	・SDG s についての学級指導 1 h(金曜日LHR)を道徳としてカウント	・SDG s に関して、学級で立てた目標を振り返る。 ・国際的な視野、自然環境を大切にすることの意義。 【国際理解、国際貢献】【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】 【自然愛護】【感動、畏敬の念】	・ワークシートあり(教務部より)	
	1	・自分の大切さを知ろう ・2学期のまとめ、冬休みの過ごし方	・終業式後の学年集会及び学級指導 1 h を道徳でカウント	・2学期の生活を振り返る。 ・冬休みの過ごし方、ルールを知り、望ましい生活習慣について考える。 ・安全と節度のある行動について考える。 【自主、自律、自由と責任】【節度・節制】【遵法精神、公德心】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P20 「マラソン大会に向けて」 ・冬休みの生活(指導部より)	
	1	・3学期に向けて	・始業式後の学年集会及び二計測後の学級指導 1 h を道徳でカウント	・学年目標を通して、積み重ねの大切さ、よりよい学校生活を考える。 ・2学期の反省をもとに3学期の学校生活の在り方、目標を考える。 【礼儀】【遵法精神、公德心】【よりよい学校生活、集団生活の充実】 【向上心、個性の伸長】【希望と勇気、克己と強い意志】【よりよく生きる喜び】 【相互理解・寛容】【真理の探究、創造】		
	2	・卒業生を送る	・卒業式に向けた学級指導の内 2 h を道徳でカウント	・先輩への感謝の気持ちを持ち卒業を祝う。 ・学校生活での自分の成長を振り返り、2 学年に向けての目標を考える。 【思いやり、感謝】【家族愛、家庭生活の充実】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P106 「自分の成長を振り返る」	
全学年共通		*下記の内容を中心に、主に作業学習で年間を通して指導する。 【自主、自律、自由と責任】【節度、節制】【向上心、個性の伸長】【思いやり、感謝】【礼儀】【社会参画、公共の精神】【勤労】【国際理解、国際貢献】【よりよく生きる喜び】 ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P24「勇気を出す」、P64「通動寮での生活」、P102「現場実習での喜び」				
ICT教材(その他)		・「①PP教材、②プロジェクター③PC」は、オリエンテーション時に使用する。 ・「④動画視聴」は、導入、振り返りなどの際に使用する。				

□SDGsの観点

- ①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を ④質の高い教育をみんなに ⑤ジェンダー平等を実現
- ⑥安全な水とトイレを世界中に ⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧働きがいも経済成長も ⑨産業と技術革新の基盤を作ろう
- ⑩人や国の不平等をなくす ⑪住み続けられるまちづくり ⑫つくる責任つかう責任 ⑬気候変動に具体的な対策を ⑭海の豊かさを守ろう

■ICT教材

- ①PP教材 ②iPad ③クラウド型チャットシステム(ZOOM等) ④デジタル教材(学習アプリ等)
- ⑤動画視聴 ⑥プロジェクター ⑦PC ⑧その他

別紙3

年間指導計画

(令和5年度「道徳」年間指導計画)

2学年

目標		□様々な人の思いに共感する感性を身に付け、他者の個性を尊重し、様々な人と協力して物事に取り組もうとする態度を育てる					
月	時数	単元名・題材名	実施時期	主な指導内容	使用教材	実施日	
4	1	・2年生としての自覚	・始業式後の学年集会1h	・学年目標を通して、2年生としての在り方、進路実現に向けた決意をもつ。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【自主・自律、自由と責任】【礼儀】【相互理解・寛容】	・小樽高等支援学校「高校生の生活」(指導部) ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P38 「礼に始まり、礼に終わる」	4月10日	
	1	・後輩を迎える	・始業式「入学式の準備」	・後輩を迎える準備を通して、先輩としての言動を考える。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【自主・自律、自由と責任】【礼儀】【相互理解・寛容】			
	1	・集団生活のきまり ・学級の仲間、友達について	・入学式当日のLHRの内1hを道徳でカウント	・学年目標から、自分達が目指す姿や言動を考える。 ・学級や学校の一員としての自覚、集団の意義と自分の役割、望ましい学級集団とは ・思いやり、協力の意義 ・相手を理解し、自分と異なる意見を大切にすること。 ・長所や短所を知る。今の自分が社会に出てできること。 ・より高い目標を持つ、困難な失敗を乗り越えることの大切さ 【向上心、個性の伸長】【希望と勇気、克己と強い意志】【よりよく生きる喜び】 【真理の探究、創造】			4月11日
	1	・自分を見つめる	・学年集会を受けた学級指導1h	・心身の健康の増進と、生涯にわたる意欲や習慣の大切さ 【節度・節制】			4月11日
3	・生活習慣と将来の生活	・検診に関わる学級指導3			・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P16 「あこがれのスマートフォン」 ・中学生の生活(指導部より)	4月13日、20日 5月10日 6月22日、29日	
	5	1	・環境持続可能な社会のためにできること	・持続可能な社会のために自分たちができることを考える。 ・SDGsの達成目標と、自分たちの生活(教科、作業学習)とのつながりを考える。 【国際理解、国際貢献】【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】 【自然愛護】【感動、畏敬の念】	・ワークシートあり(教務部より) ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P60 「美化委員会の仕事」	6月30日	
	6	1	・勤労の尊さ、希望の実現 等)に関すること)道徳としてカウント	・勤労の意義を理解し、働くことの喜びや生きがい、社会とのつながりを考える。 ・社会の一員としての役割を考える。 ・目標に向けた努力の尊さと希望の実現について考える。 【社会参画、公共の精神】【勤労】【向上心、個性の伸長】【よりよく生きる喜び】 【希望と勇気、克己と強い意志】【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P34 「ありがとう」のプレゼント	5月12日	
1	・よりよい校風を作る ・開校記念日について	・開校記念日に関わる学級指導1h	・協力し合ってよりよい校風をつくることの大切さを考える。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【相互理解・寛容】 【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】	・ワークシートあり(教務部より) ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P52 「生徒会選挙」	6月2日		
7	1	・1学期のまとめ、夏休みの過ごし方	・終業式の学年集会1hを道徳としてカウント	・1学期の生活を振り返る。 ・夏休みの過ごし方、ルール、安全について考える。 ・規則正しい生活の意義や、望ましい生活習慣について考える。 【自主・自律、自由と責任】【節度・節制】【遵法精神、公徳心】 【よりよく生きる喜び】	・夏休みの生活(指導部より)	7月26日	
8	1	・2学期に向けて	・学年集会及び、二計測後の学級指導1hを道徳としてカウント	・学年目標を通してよりよい学校生活について考える。 ・1学期の反省をもとに2学期の学校生活の在り方、目標を考える。 【礼儀】【遵法精神、公徳心】【よりよい学校生活、集団生活】 【向上心、個性の伸長】【希望と勇気、克己と強い意志】【よりよく生きる喜び】 【相互理解・寛容】【真理の探究、創造】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P72 「なっとう憲法」	8月21日	
	1	・防災への意識	・避難訓練関わる学級指導1h	・防災、避難訓練、交通安全、自然災害に備える意義。 ・災害の事実の理解と人間の有限性、いのちの大切さを考える。 ・いじめやそれにつながる行為、他者や自己を傷つける行為について考え、自分の大切さを実感する。 ・誰もが安心して過ごすために大切なことは何か考える。	・ワークシートあり(指導部より)	8月23日	
	2	・自分の大切さを知ろう	・非行防止に関わる学級指導1h		・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P56 「一人である生徒」		
9	1	・勤労の尊さ、希望の実現 等)に関すること)道徳としてカウント	・現場実習の事前学習1hを(「意義等」に関すること)道徳としてカウント	・勤労意義を理解し、将来の生き方について考えを深める。 ・勤労を通して社会に貢献する、好まれる人間像。 ・目標に向けた努力と希望の実現 【社会参画、公共の精神】【勤労】【向上心、個性の伸長】【よりよく生きる喜び】 【希望と勇気、克己と強い意志】【礼儀】【郷土の伝統、文化の尊重】 【我が国の伝統と文化の尊重】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P24 「勇気を出す」 ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P102、P64 「現場実習での喜び」「通動寮での生活」	8月28日	
10	1	・仲間とともに	・学校祭に関わる学年での指導内、1hを道徳としてカウント	・仲間と協力し、集団でやり遂げる意味を理解する。 ・学級や学校の一員として、主体的に責任を果たす。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【礼儀】【思いやり、感謝】【友情、信頼】 【相互理解・寛容】【真理の探究、創造】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P29 「マラソン大会に向けて」 ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P46 「文化祭の準備」	10月27日	
12	1	・持続可能な社会のためにできること	・SDG s についての学級指導1h(金曜日LHR)を道徳としてカウント	・SDG s に関して、学級で立てた目標を振り返る。 ・SDGsの達成目標と、自分たちの生活(教科、作業学習)とのつながりを考える。 【国際理解、国際貢献】【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】 【自然愛護】【感動、畏敬の念】	・ワークシートあり(教務部より)	12月19日	
	2	・自分の大切さを知ろう ・2学期のまとめ、冬休みの過ごし方	・終業式後の学年集会及び学級指導1hを道徳でカウント	・2学期の生活を振り返る。 ・冬休みの過ごし方、ルール、安全について考える。 ・規則正しい生活の意義や、望ましい生活習慣について考える。 ・安全と節度のある行動について考える	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P20 「マラソン大会に向けて」 ・冬休みの生活(指導部より)	12月22日	
1	1	・3学期に向けて	・始業式後の学年集会及び二計測後の学級指導1hを道徳でカウント	・学年目標を通して、積み重ねの大切さ、よりよい学校生活を考える。 ・2学期の反省をもとに3学期の学校生活の在り方、目標を考える。 【礼儀】【遵法精神、公徳心】【よりよい学校生活、集団生活の充実】 【向上心、個性の伸長】【希望と勇気、克己と強い意志】【よりよく生きる喜び】 【相互理解・寛容】【真理の探究、創造】			
3	2	・卒業生を送る	・卒業式に向けた学級指導の内2hを道徳でカウント	・先輩への感謝の気持ちを持ち卒業を祝う。 ・学校生活での自分の成長を振り返り、に向けての目標を考える。 【思いやり、感謝】【家族愛、家庭生活の充実】	・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P106 「自分の成長を振り返る」		
全学年共通		*下記の内容を中心に、主に作業学習で年間を通して指導する。 【自主・自律、自由と責任】【節度・節制】【向上心、個性の伸長】【思いやり、感謝】【礼儀】【社会参画、公共の精神】【勤労】【国際理解、国際貢献】【よりよく生きる喜び】 ・私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) P24「勇気を出す」、P64「通動寮での生活」、P102「現場実習での喜び」					
ICT教材(その他)		・「①PP教材、②プロジェクター③PC」は、オリエンテーション時に使用する。 ・「④動画視聴」は、導入、振り返りなどの際に使用する。					

□SDGsの観点
 ①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を ④質の高い教育をみんなに ⑤ジェンダー平等を実現
 ⑥安全な水とトイレを世界中に ⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧働きがいも経済成長も ⑨産業と技術革新の基盤を作
 る
 ⑩人や国の不平等をなくす ⑪住み続けられるまちづくり ⑫つくる責任つかう責任 ⑬気候変動に具体的な対策を ⑭海の豊かさを守

■ICT教材
 ①PP教材 ②iPad ③クラウド型チャットシステム(ZOOM等) ④デジタル教材(学習アプリ等)
 ⑤動画視聴 ⑥プロジェクター ⑦PC ⑧その他

別紙3

(令和5年度「道徳」年間指導計画)

年間指導計画

3 学年

目標		□様々な人の思いに共感する感性を身に付け、他者の個性を尊重し、様々な人と協力して物事に取り組もうとする態度を育てる				
月	時数	単元名・題材名	実施時期	主な指導内容	使用教材	実施日
4	1	・3年生としての自覚	・始業式後の学年集会	・学年目標を通して、3年生としての在り方、進路実現に向けた決意をもつ。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【自主・自律、自由と責任】【礼儀】【相互理解・寛容】		
	1	・後輩を迎える	・始業式「入学式の準備」	・後輩を迎える準備を通して、先輩としての言動を考える。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【自主・自律、自由と責任】【礼儀】【相互理解・寛容】		
	1	・集団生活のきまり ・学級の仲間、友達について	・入学式当日のLHRの内1hを道徳でカウント	・学年目標から、自分達が目指す姿や言動を考える。 ・学級や学校の一員としての自覚、集団の意義と自分の役割、望ましい学級集団とは ・思いやり、協力の意義。 ・相手を理解し、自分と異なる意見を大切にすること。 【自主・自律、自由と責任】【礼儀】【遵法精神、公德心】【公正、公平、社会正義】【よりよい学校生活、集団生活の充実】		
	1	・自分を見つめる	・入学式当日の学級指導の内、1hを道徳でカウント	【よりよく生きる喜び】【相互理解・寛容】【真理の探究、創造】 ・長所や短所を知る。今の自分から出ていくこと ・より高い目標を持つ。困難な失敗を乗り越えることの大切さ 【向上心、個性の伸長】【希望と勇氣、克己と強い意志】【よりよく生きる喜び】【真理の探究、創造】		
	4	・生活習慣と将来の生活	・検診に関わる学級指導4	・心身の健康の増進と、生涯にわたる意欲や習慣の大切さ。 【節度・節制】		
5	1	・持続可能な社会のためにできること	・SDGsについての学級指導1h(金曜日LHR)を道徳としてカウント	・持続可能な社会のために自分たちができることを考える。 ・国際的な視野をもちSDGsの目標を達成する意義について考える。 【国際理解、国際貢献】【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】【自然愛護】【感動、畏敬の念】		
	1	・仲間との協調、集団行動	・見学旅行の事前学習1hを(「意義等」に関する)道徳としてカウント	・学年の一員としての自覚をもち、集団の意義と自分の役割について考える。 ・自主的な判断と責任について考える。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【友情、信頼】【自主、自律、自由と責任】【よりよく生きる喜び】【相互理解・寛容】 【我が国の伝統と文化の尊重】		
6	1	・勤労の尊さ、希望の実現	・現場実習の事前学習1hを(「意義等」に関する)道徳としてカウント	・勤労の意義や将来の生き方について、考えを深める。 ・勤労を通じた社会貢献について考える。 ・目標に向けた努力の尊さと希望の実現について考える。 【社会参画、公共の精神】【勤労】【向上心、個性の伸長】【よりよく生きる喜び】【希望と勇氣、克己と強い意志】		
	1	・よりよい校風を作る	・開校記念日の学級指導1h(金曜日LHR)を道徳としてカウント	【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】 ・最上級学年として、よりよい校風や集団生活の充実について考えを深める。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【相互理解・寛容】【郷土の伝統、文化の尊重】		
7	1	・1学期のまとめ、夏休みの過ごし方	・終業式の学年集会1hを道徳としてカウント	・1学期の生活を振り返る。 ・夏休みの過ごし方、ルール、安全について考える。 ・将来の生活を見据えた望ましい生活習慣の意義や大切さについて考える。		
8	1	・2学期に向けて	・学年集会及び、二計測後の学級指導1hを道徳としてカウント	・学年目標を通してよりよい学校生活について考える。 ・1学期の反省をもとに2学期の学校生活の在り方、目標を考える。 【礼儀】【遵法精神、公德心】【よりよい学校生活、集団生活】【相互理解・寛容】【向上心、個性の伸長】		
	1	・防災への意識	・避難訓練に関わる学級指導1hを道徳としてカウント	【希望と勇氣、克己と強い意志】【真理の探究、創造】【よりよく生きる喜び】 ・防災、避難訓練、交通安全、自然災害に備える意義。 ・災害の事実の理解と人間の有限性、いのちの大切さを考える。 【節度・節制】【生命の尊さ】【自然愛護】		
	2	・自分の大切さを知ろう	・非行防止教室(全体講演)1h、非行防止教室後の学級指導1hを道徳としてカウント	・いじめやそれにつながる行為、他者や自己を傷つける行為について考え、自分の大切さを実感する。 ・相互理解や寛容、自分と同じように相手を大切にすることについて考える。 【自主・自律、自由と責任】【遵法精神、公德心】		
9	1	・勤労の尊さ、希望の実現	・現場実習の事前学習1hを(「意義等」に関する)道徳としてカウント	・勤労意義を理解し、将来の生き方について考えを深める。 ・勤労を通して社会に貢献する、好まれる人間像。 ・目標に向けた努力、現場実習の成果と自己実現。 【社会参画、公共の精神】【勤労】【向上心、個性の伸長】【希望と勇氣、克己と強い意志】【礼儀】【よりよく生きる喜び】 【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】		
10	1	・仲間とともに	・学校祭に関わる学年での指導内、1hを道徳としてカウント	・仲間と協力し、集団でやり遂げる意味を理解する。 ・学年や学校の一員として、主体的に責任を果たす。 【よりよい学校生活、集団生活の充実】【礼儀】【思いやり、感謝】【友情、信頼】【相互理解・寛容】【真理の探究、創造】		
12	1	・持続可能な社会のためにできること	・SDGsについての学級指導1h(金曜日LHR)を道徳としてカウント	・SDGsに関して、学級で立てた目標を振り返る。 ・国際的な視野をもちSDGsの目標を達成する意義について考える。 【国際理解、国際貢献】【郷土の伝統、文化の尊重】【我が国の伝統と文化の尊重】【自然愛護】【感動、畏敬の念】		
	1	・2学期のまとめ、冬休みの過ごし方	・終業式後の学年集会及び学級指導1hを道徳でカウント	・2学期の生活を振り返る。 ・冬休みの過ごし方、ルール、安全について考える。 ・将来の生活を見据えた望ましい生活習慣の意義や大切さについて考える。 ・安全と節度のある行動について考える 【自主、自律、自由と責任】【節度・節制】【遵法精神、公德心】		
1	1	・卒業に向けて	・始業式後の学年集会及び二計測後の学級指導1hを道徳でカウント	・学年目標を通して、残りの学校生活を有意義な過ごし方について考える。 ・卒業に向けて、学校の一員として、自分たちができることは何かを考える。 【礼儀】【遵法精神、公德心】【よりよい学校生活、集団生活の充実】【向上心、個性の伸長】【希望と勇氣、克己と強い意志】 【よりよく生きる喜び】【相互理解・寛容】【真理の探究、創造】		
	2	・卒業式に向けて	・卒業式に向けた学級指導の内2hを道徳でカウント	・周囲への感謝の気持ちを持ち、式に臨む。 ・学校生活での自分の成長を振り返る。 ・周囲や家族への感謝の気持ちで式に望む。 【思いやり、感謝】【家族愛、家庭生活の充実】		
全学年共通				*下記の内容を中心に、主に作業学習で年間を通して指導する。 【自主、自律、自由と責任】【節度・節制】【向上心、個性の伸長】【思いやり、感謝】【礼儀】【社会参画、公共の精神】【勤労】【国際理解、国際貢献】【よりよく生きる喜び】		
ICT教材(その他)				・①PP教材、②プロジェクター③PCは、オリエンテーション時に使用する。 ・④動画視聴は、導入、振り返りなどの際に使用する。		

□SDGsの観点

- ①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を ④質の高い教育をみんなに ⑤ジェンダー平等を実現
- ⑥安全な水とトイレを世界中に ⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧働きがいも経済成長も ⑨産業と技術革新の基盤を作ろう
- ⑩人や国の不平等をなくす ⑪住み続けられるまちづくり ⑫つくる責任つかう責任 ⑬気候変動に具体的な対策を ⑭海の豊かさを守ろう
- ⑮陸の豊かさを守ろう ⑯平和と公正をすべての人に ⑰パートナーシップで目標を達成しよう

■ICT教材

- ①PP教材 ②iPad ③クラウド型チャットシステム(ZOOM等) ④デジタル教材(学習アプリ等)
- ⑤動画視聴 ⑥プロジェクター ⑦PC ⑧その他

基底となる指導計画（特別の教科 道徳科）

教科等	道徳		
対象学科	全学科		
教科の目標	・人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間としての他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 ※本校における資質・能力と「将来の生活に向けて授業で身に付ける力」との関連		
	(1) 知識・技能「学習に意欲的に取り組み社会生活に必要な勤労観や礼儀作法などの確かな知識や技術などを身に付ける」	・集団活動を通して集団の一因としての自覚を育成する。	
	(2) 思考力、表現力、判断力等「自ら課題を見つけ、主体的に判断し、個性を發揮して、思いや考えを対話等で表現する」	・コミュニケーションの基本的能力向上を目指し、人間関係の構築を図る。	
	(3) 学びに向かう力、人間性等「様々な学習を意欲的・主体的に行い、自分の生きがいを見つけ、役割を自覚し、協力し合いながら社会に貢献する」	・課題解決のために、主体的に学ぼうとする意欲を養う。	
教科を学ぶ意味や価値	○見方・考え方 ・感謝と思いやりのある豊かな心 ・他律から自律へ ・自発性や主体性を身に付ける ・生命の尊さを知り、自他の生命力や考える心を育てる		
	○学ぶ意義 ・望ましい生活習慣を身に付け、自主的に考えて行動する態度を養う。 ・周りの人に対して思いやりの心を持ち、相手の人格を尊重する態度を養う。 ・集団でのルールやマナーを理解し社会生活を営む態度を養う。		
	評価の観点 （代表的な評価の観点）		
	知識・技能	・内容の理解、ワークシートの記入（感想、内容）	
	思考・判断・表現	・ワークシートの設問に対する回答内容	
	主体的に学習に取り組む態度	・授業中の発言、挙手、話し合いへの参加など	
評価場面 評価方法	○ワークシートの記入（知・技） ○ワークシートの回答内容（思、表、判） ○授業中の取り組み、話し合い活動（主体）		
学習上の留意点	・学級単位を基本とし、グループワークや対話、ケーススタディ（その場を演じる）などを動きのある授業を目指す。		
各学年の目標 ※研究集録第14号より	1学年	2学年	3学年
	○素晴らしいものを素直に受け入れる感性と、コミュニケーションの基礎を身に付け、豊かな人間関係を築こうとする態度を育む。	○様々な人の思いに共感する感性を身に付け、他者の個性を尊重し、様々な人と協力して物事に取り組もうとする態度を育てる。	○思いやりの心を実践するとともに、生きがい、やりがいを見つけて自分らしい生き方を模索し、集団や社会の一員として進んで社会に貢献しようとする態度を育む。

学期	主な学習内容			
	1学年	2学年	3学年	
1	<input type="checkbox"/> 集団生活のきまり（学年集会） <input type="checkbox"/> 本校生としての自覚（学級指導） <input type="checkbox"/> 学校生活の目標（学級指導） <input type="checkbox"/> 望ましい生活習慣（検診時 5h） <input type="checkbox"/> 環境持続可能な社会のためにできること（学級指導） <input type="checkbox"/> 仲間との協調、集団行動 <input type="checkbox"/> 学校の一員として（学級指導） <input type="checkbox"/> 1学期のまとめ、夏休みの過ごし方（学年集会）	<input type="checkbox"/> 2年生としての自覚（学年集会 1h） <input type="checkbox"/> 後輩を迎える（入学式準備） <input type="checkbox"/> 集団生活のきまり <input type="checkbox"/> 学級の仲間、友達について（学級指導 1h） <input type="checkbox"/> 自分を見つめる（学級指導 1h） <input type="checkbox"/> 生活習慣と将来の生活（検診時） <input type="checkbox"/> 環境持続可能な社会のためにできること（学級指導 1h） <input type="checkbox"/> 勤労の尊さ、希望の実現	<input type="checkbox"/> 3年生としての自覚（学年集会） <input type="checkbox"/> 後輩を迎える（入学式準備） <input type="checkbox"/> 集団生活のきまり <input type="checkbox"/> 学級の仲間、友達について（学級指導） <input type="checkbox"/> 自分を見つめる（学級指導） <input type="checkbox"/> 生活習慣と将来の生活（検診時 4h） <input type="checkbox"/> 持続可能な社会のためにできること（学級指導）	

		(現場実習の事前学習 1h) □よりよい校風を作る (開校記念日に関わる学級指導 1h) □1学期のまとめ、夏休みの過ごし方(学年集会 1h)	□仲間との協調、集団行動 (見学旅行事前学習) □勤労の尊さ、希望の実現 (現場実習事前学習) □よりよい校風を作る (開校記念日の学級指導) □1学期のまとめ、夏休みの過ごし方(学年集会)
2	□2学期に向けて(学年集会) □防災への意識(学級指導) □自分の大切さを知ろう (非行防止教室 2h) □働くということ (現場実習事前学習) □仲間とともに (学校祭に関わる学年指導) □持続可能な社会のためにできること (SDGs についての学級指導) □2学期のまとめ、冬休みの過ごし方(学年集会)	□2学期に向けて(学年集会 1h) □防災への意識(避難訓練に関わる学級指導 1h) □自分の大切さを知ろう (非行防止に関わる学級指導 1h) □勤労の尊さ、希望の実現 (現場実習の事前学習 1h) □仲間とともに (学校祭に関わる学年指導の内 1h) □持続可能な社会のためにできること (SDGs についての学級指導 1h) □2学期のまとめ、冬休みの過ごし方(学年集会 1h)	□2学期に向けて(学年集会) □防災への意識 (避難訓練の学級指導) □自分の大切さを知ろう (非行防止教室 2h) □勤労の尊さ、希望の実現 (現場実習事前学習) □仲間とともに (学校祭に関わる学年指導) □持続可能な社会のためにできること (SDGs についての学級指導) □2学期のまとめ、冬休みの過ごし方(学年集会)
3	□3学期に向けて(学年集会) □卒業生を送る(学級指導 2h)	□3学期に向けて(学年集会 1h) □卒業生を送る (卒業生に向けた学級指導の内 1h)	□卒業に向けて(学年集会) □卒業式に向けて(学級指導 2h)
時数	22時間	22時間	24時間
備考	・次の内容を中心に、主に作業学習で年間を通して指導する。(17.5時間) 【自主、自律、自由と責任】 【節度、節制】 【向上心、個性の伸長】 【思いやり、感謝】 【礼儀】 【社会参画、公共の精神】 【勤労】 【国際理解、国際貢献】 【よりよく生きる喜び】		

¥d-bank4¥share¥OKS_2023¥E0_分掌組織¥B10_研究推進係¥10_校内研究★¥3 グループ研究¥①「グループ研究(研究日)」
 関係¥⑤「道徳」G¥「道徳」年間指導計画G¥基底となる指導計画「研究G道徳」.jtdc

1 研究内容について

(1) 本グループ研究の期待される成果

- ・「主体的で対話的な深い学び」の視点を取り入れた授業の充実
- ・新しい授業フォームの検討(略案、指導案、単元・題材別指導計画等)

(2) 研究での取組

- ・本校における授業づくりに関する研究成果の確認
- ・「主体的で対話的な深い学び」の実践事例の発掘、活用
- ・授業研究

目的として、略案、単元計画にピクトグラムを表記することは有用であるかの検証と「主体的で対話的な深い学び」を教員が再認識し、その視点から日々の授業改善へ繋げるために実施した。

- ・OKS 授業フォーム(様式)の検討、作成

2 研究の成果

(1) 「主体的で対話的な深い学び」の授業改善(北特研)

授業改善へと繋げるためには、生徒に身に付けさせたい力を明確にした評価基準(～できる)、単元づくり(学習内容の充実)を行うこと。生徒が分かる授業づくりは将来のために何を学んでいるかの学習活動への意味付けが重要である。目的意識や学びの必然性が「確かな学び」へと繋がることを確認した。

(2) 授業研究の実践、ピクトグラムの活用と指導略案、単元計画の作成

グループメンバーで略案と単元計画の試案作成し、ピクトグラムの表記方法や要点について模索し、話し合った。略案、単元計画にピクトグラムを活用することで日々の授業を見直すきっかけとなり、授業改善に繋がった。ねらいを視覚化し、授業での重点すべきことを明確にすることができた。チームティーチングにおいて、教員同士でねらいの共通理解を図りやすいツールとして活用することができた。

3 今後の課題

(1) 授業研究の実践のまとめ、反省から

略案にピクトグラムを多く記すことで見えづらくなることや授業のねらいや重点がどこにあるのか分かりづらくなってしまふことから、略案でのピクトグラムの活用よりも単元計画での活用が有用であるということを確認した。単元計画に「主体的」「対話的」「深い学び」の三観点をどう分かりやすく表記することができるのかを検討する必要がある。

(2) OKS 授業フォームの提案

OKS 授業フォームの検討、作成までには至らなかったが、授業研究の実践を通して、略案よりも単元計画でのピクトグラムの活用の方が有用であることをグループで確認し、今後の課題とした。

(3) 単元計画でのピクトグラムの活用

略案での活用ではなく、単元計画でのピクトグラムの活用を主とし研究していくことを前提にして単元計画にピクトグラムをどう表記するかを検討すること。ピクトグラムを表記する上で必要とする内容と効果的な手立てを考慮すべき点として、よりよい生徒の学習活動へと繋げられる方法を検討していく必要がある。

4 参考資料など

- ・「ピクトグラム一覧」（独立行政法人教職員支援機構（NITS）ホームページより）
<https://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jirei/pictogram.html>
- ・授業研究で作成した指導略案、単元指導計画

ピクトグラム一覧

NITS【実現したい子供の姿】ピクトグラム

<主体的な学び>

				
興味や関心を高める	見通しを持つ	自分と結び付ける	振り返って次へつなげる	粘り強く取り組む

<対話的な学び>

						
共に考えを創り上げる	協働して課題解決する	互いの考えを比較する	思考を表現に置き換える	先哲の考え方を手掛かりとする	多様な手段で説明する	多様な情報を収集する

<深い学び>

						
思考して問い続ける	自分の考えを形成する	自分の思いや考えと結び付ける	新たなものを創り上げる	知識・技能を活用する	知識・技能を習得する	知識や技能を概念化する

独立行政法人教職員支援機構（NITS）ホームページより

授業づくりグループ 研究発表

2024年1月12日(金)

本日の発表の流れ

- (1) 本グループ研究の期待される成果**
- (2) 研究の成果について**
- (3) 研究の課題について**
- (4) 今後の向けて**

(1) 本グループ研究に 期待される成果

**★ 「主体的で対話的な深い学び」の
視点を取り入れた授業の充実**

**★ OKS授業フォームの検討
(略案、指導案、単元・題材別指導計画等)**

～1年次の研究内容から①～

- ・ **本校（OKS）の授業づくりについて**

→ **できる状況づくり
働く生活に必要な力
経験的・活動的な学習**

～1年次の研究内容から②～

- ・ **授業実践事例についての発掘**

→ **ピクトグラムの活用**

(NITS 独立行政法人教職員支援機構)

NITS【実現したい子供の姿】ピクトグラム

<主体的な学び>



興味や関心
を高める



見通しを
持つ



自分と
結び付ける



振り返って
次へつなげる



粘り強く
取り組む

<対話的な学び>



共に考えを
創り上げる



協働して
課題解決する



互いの考え
を比較する



思考を表現に
置き換える



先哲の考え方を
手掛かりとする



多様な手段
で説明する



多様な情報
を収集する

<深い学び>



思考して
問い続ける



自分の考え
を形成する



自分の思いや考
えと結び付ける



新たなものを
創り上げる



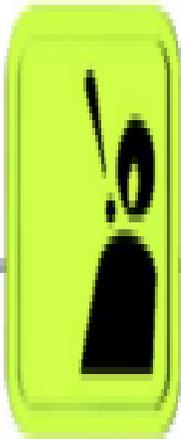
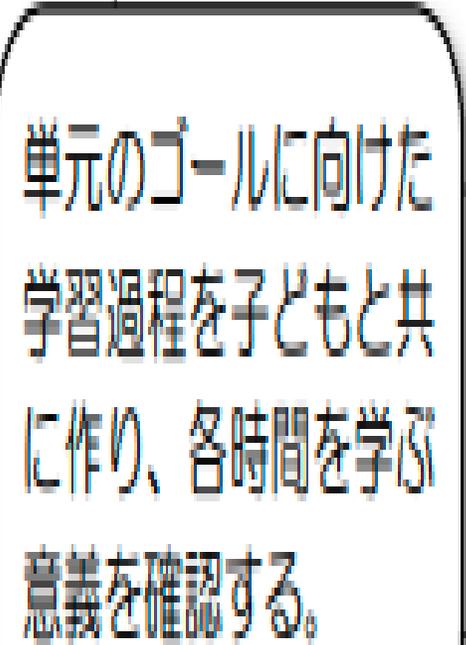
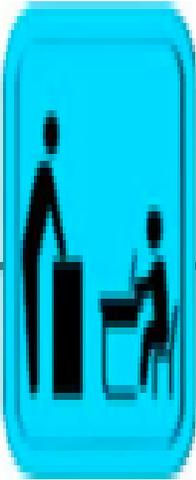
知識・技能
を活用する



知識・技能
を習得する



知識や技能を
概念化する

次(階)	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1(1)	「枕草子」の原文を音読したり、現代語訳を読んだりして、大体的な内容を理解したりする。	 興味や関心を高める	 単元のゴールに向けた学習過程を子どもと共に作り、各時間を学ぶ意義を確認する。	 知識・技能を習得する
(2)	「枕草子」の現代語訳を読み、随筆の特徴を捉える。			

～1年次の研究内容から③～

- ・ OKS授業フォームの検討について

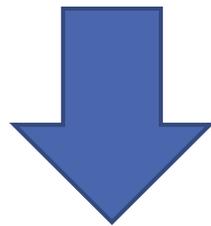
→ 年間指導計画や題材計画の段階で
「主体的で対話的な深い学び」
のポイントを意識できるようなものを
作成していけるとよいのではないか

(2) 研究の成果について

- ① 「主体的で対話的な深い学び」の授業改善
(北特研)**
- ② 「実践」授業研究**
 - ・ **ピクトグラムを活用した略案、単元計画**
 - ・ **アンケート集約結果まとめ**
- ③ 成果のまとめ**

① 「主体的で対話的な深い学び」 の授業改善（北特研）

生徒が見通しをもって、将来のために何を学んでいるのかを理解して学ぶことが重要。



そのために、身に付けさせたい力を明確にした 評価基準、単元づくりを行う。

① 「主体的で対話的な深い学び」 の授業改善（北特研）

評価規準

18種類のステップを覚え、踊ることができる。

振り付けの決定、改善などに意見を言っている。

決めた振り付けどおりに踊ることができる。

発表が終わった後に感想を言っている。

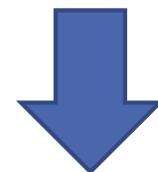
振り付けの改善に意見を言っている。

決めた振り付けどおりに踊ることができる。

発表が終わったあとに感想を言っている。

・ 身に付ける力の明確化

・ 学習活動への意味付け



「面白そうだな」

「やってみたいな」と思う

分かる授業づくりへ

① 「主体的で対話的な深い学び」 の授業改善（北特研）

❖ 単元や題材のまとまりを考える

次	小題材及び目標	主な学習活動	評価規準	評価の観点		
				知	思	主
1	ステップの種類を知ろう	18種類のステップの練習	18種類のステップを覚え、踊ることができる。	○		
2	振り付けを決めよう	振り付けの決定	振り付けの決定、改善などに意見を言っている。			
		振り付けの改善			○	
		曲開始前、曲途中のパフォーマンスの決定				
		ダンス練習	決めた振り付けどおりに踊ることができる。	○		
3	第1回発表会をしよう	第1回発表会	発表が終わった後に感想を言っている。			○
		振り付けの改善	振り付けの改善に意見を言っている。		○	
		ダンス練習	決めた振り付けどおりに踊ることができる。	○		
ダンス練習	○					
4	第2回発表会をしよう	ダンス練習	決めた振り付けどおりに踊ることができる。	○		
		第2回発表会		発表が終わったあとに感想を言っている。		

評価の観点のねらいを1時間ごとに「知」「思」「主」の1つにすると取り組みやすい。

① 「主体的で対話的な深い学び」 の授業改善（北特研）

なぜ、その学習内容を学ぶのか

- ・ 「学び」がその後の学習や生活とどのようにつながるのかという見通し
- ・ 学んだことが生活や学習に関連づいているという実感

目的意識や学びの必然性が重要
「確かな学び」へとつながる

② 「実践」 授業研究

★授業研究を行う目的

→ピクトグラムの活用から教員が「主体的で対話的な深い学び」を再認識し、その視点から授業改善を行うため

→指導略案や単元計画にピクトグラムを記しているが、その有用性について検証するため

② 「実践」 授業研究について

9:05.

3. 調理実習の目標の確認.

○自分で食べるものを自分で作る。【一人調理】.

○題材「焼きそば」.

①手順が分かりやすい.

②アレンジがしやすい.

○自己目標を考える..

A) 初めて…作り方を覚える..

B) 数回経験がある…手順表で確認しながら進める..

C) 調理経験が多い…具材の大きさや火加減など自分で判断し、調理を進める..



興味や関心を高める

【一人調理】.

・準備から後片づけまでの流れ考え、一人で行うことができる..

・調理技術（切る・炒めるなど）を自分の進度で行うことができる..

・調理経験をもとに、自己目標を設定するよう促す..



自分と結び付ける

↑ 家庭科指導略案の一部

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
 <p>興味や関心を高める。</p>	<p>・この単元のゴールの姿を伝える。</p>	
 <p>見通しを持つ。</p>	<p>・何のために欲しいものを伝えるフレーズを使うのかを伝える。</p>	
 <p>自分と結び付ける。</p>	 <p>協働して課題解決する。</p>	<p>・どんな内容の買い物にするか、自分の考えを伝えて話し合う場の設定。</p>
		 <p>知識・技能を習得する。</p>

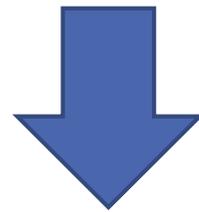
←外国語
単元計画一部

アンケートまとめ（良い点）

- ・ピクトグラムを見て、時間ごとのねらい、目的を把握しやすく、達成するための内容、手段を理解というように視線が誘導され、略案・単元計画が見やすい
- ・学習内容のどこに重点をおいているか分かりやすい
- ・チームティーチングの観点から共通理解が得られやすい

③ 成果のまとめ

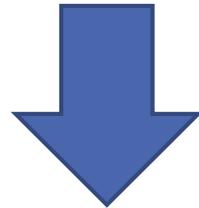
略案や単元計画にピクトグラムを活用することで日々の授業を見直すきっかけとなり、授業改善に繋がった



ねらいを視覚化することで明確に！

③ 成果のまとめ

ピクトグラムを略案や単元計画に記すことで、教員が授業のねらいを明確にし、授業を行うことができた



チームティーチング（共通理解が図りやすい）

(3) 研究の課題について

- ① グループでの話し合いまとめ**
- ② アンケート集約結果まとめ**
- ③ OKS授業フォームについて**

①グループでの話し合いまとめ

～授業研究を行ってみて～

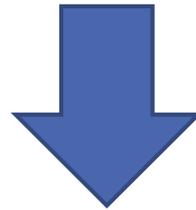
- ・ 「主体的」「対話的」「深い学び」の三観点のピクトグラムを全て1つの授業に記さなくても良いのではないか
- ・ ピクトグラムが多すぎるとねらいが分かりづらいのではないか
- ・ 略案にピクトグラムを多く記すと見づらくなるのではないか

②アンケートまとめ（改善点）

- ・ピクトグラムに対しての生徒の学習活動と教員の働きかけが分けて表記されていれば、より見やすいと思う
- ・略案、単元計画へのピクトグラムの表記方法として、「主体的」「対話的」「深い学び」を分けて表記した方が見やすいと思う
- ・1時間の授業の中で「主体的」「対話的」「深い学び」の三観点を必ず共存させなくとも単元として計画的に授業を進めていけるとよりよいと思う

③OKS授業フォームについて

OKS授業フォームの検討、作成までには至らなかったが、授業研究の実践を通して、略案よりも単元計画でのピクトグラムの活用の方が有用である



今後は単元計画でのピクトグラムの表記について検討することができるのではないか

(4) 今後に向けて

**「主体的で対話的な深い学び」の授業改善において、
ピクトグラムを有効に扱うには、**

- 単元指導計画でのピクトグラムの活用**
- 単元指導計画にピクトグラムをどのように表記
するかの整理**
- ピクトグラムを表記する上で必要とする内容と
効果的な手立ての表現方法**

家庭科学習指導略案

単元名	食事と健康 (調理実習事前学習)	生徒	
日時		場所	教室
目標	(1) 調理に必要な材料や調理器具、調理の手順を理解することができる。 (2) 仲間と話し合い、焼きそばに入れる材料を選択することができる。 (3) 調理学習の自己目標を考えることができる。		
時間	学習活動・展開	留意事項	
9:00	1. あいさつ 2. 本日の学習内容について説明 ○調理実習の目標の確認 ○題材の説明 ○調理実習のルールと調理器具・手順の確認	 見通しを持つ	・前時のプリントで学習計画の流れや本時の内容について確認する。 ・本時のプリントを配布する。
9:05	3. 調理実習の目標の確認 ○自分で食べるものを自分で作る。【一人調理】 ○題材「焼きそば」 ①手順が分かりやすい ②アレンジがしやすい ○自己目標を考える。 A) 初めて…作り方を覚える。 B) 数回経験がある…手順表で確認しながら進める。 C) 調理経験が多い…具材の大きさや火加減など自分で判断し、調理を進める。	 興味や関心を高める	【一人調理】 ・準備から後片づけまでの流れを考え、一人で行うことができる。 ・調理技術(切る・炒めるなど)を自分の進度で行うことができる。 ・調理経験をもとに、自己目標を設定するよう促す。
9:15	4. 題材「焼きそば」について説明 ●学級の仲間と話し合い意見をまとめる。 ○味…ソース・しお から1つを選択する。 ○材料…キャベツ・もやしを必ず入れ、ちくわ・ベーコン・魚肉ソーセージ・アラスカ(かにカマ)の4種類から1つを選択する。		・進行するよう促す。  自分と結び付ける  共に考えを創り上げる
9:25	5. 調理手順や調理器具の確認 ○手順…マルちゃん焼きそばのパッケージに書かれている3工程で進める。(別紙) ○調理器具の準備…プリントに記入する。 ○調理の流れ…身支度から後片付けまでの流れを確認し、どこの手順にどれくらいの時間がかかるかを考え、プリントに記入する。	 見通しを持つ  知識・技能を活用する	・進度により、調理室の下見、タブレット端末で動画を見るなどの活動を行う。
9:50	6. あいさつ		
評価	(1) 調理に必要な材料や調理器具、調理の手順を理解することができたか。 (2) 仲間と話し合い、焼きそばに入れる材料を選択することができたか。 (3) 調理学習の自己目標を考えることができたか。		

第 学年木工科 学習指導略案

形態・教科	木工科 作業学習	日時	年 月 日 ()
題材名	生徒考案製品 プレゼンテーション	場所	
学習者		授業者	
		欠席者	
目標	・自分の新製品の情報をみんなにしっかり伝える。		
時間	学 習 活 動 ・ 展 開	留 意 事 項	
9:00	○教室着席。	※作業服（上着はなし） ※筆記用具	
9:05	○挨拶、出席確認、作業心得確認 ○本時の作業内容確認 ①プレゼンテーション準備 ②プレゼンテーション（名） ③投票 ④移動 ⑤マルチチェア製作		
9:10	①プレゼンテーション準備(約30分間) ・自分の考えた製品について、取り組みの行程やアピールポイント等を考え、用紙に書く。 (ipadを利用して調べたり、比較したりする)  夏休みの宿題で考えた製品を振り返る。  今まで学んだ製品づくりの工程を思い出し、製作工程を考える。  新製品の用途やデザイン等をiPadで調べる。 ・記入した用紙を元にプレゼンの準備（練習）をする。	※発表原稿用紙、ipad ・自分の考えや製作工程、製品へのニーズの予想を考え、記入するよう促す 【主体的な学びのポイント】 ・学びを生かし、新課題への意欲換気をする。 (今迄製作した製品を思い出させる。) ・学習成果を別の場面で生かすよう促す。 (学んだ工程を新製品に活用するよう促す。) ・課題解決に必要な情報を探す/選択/吟味を促す。 (ipad等から必要な情報を引き出すよう促す) ・職員室、作業室への入室を意識して行うよう確認する。	
9:40	②プレゼンテーション（名） ・立候補し、発表する。 (他：発表者のプレゼン内容を理解する)  自分の考えた新製品について工夫して発表する。	【主体的な学びのポイント】 ・学んだことを他者に伝えようとする。 (自分の考えた新製品の情報を仲間に伝える場面を設定する)	
10:20	③投票  自分の製品といいと思う仲間の製品の2つを投票用紙に記入し、投票する。	※投票用紙 【主体的な学びのポイント】 ・知的好奇心をかき立てる場面を設定する。 (どの製品が選択されるか、自分の考えを投票で反映させるよう設定)	
10:45	④移動（休憩、トイレ、水分補給）		

保健体育学習指導略案

対象		日時										
担当		場所										
単元名	選択体育（フットサル・バスケットボール）											
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べた練習内容や考えを周りに伝える。 ・競技の特性やルールなどをお互いに教えたり教わったりする。 											
時間	学 習 活 動 ・ 展 開	留 意 事 項										
13:25	<input type="checkbox"/> 体育館集合 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・出欠の確認 ・体調の確認 ・本時の内容 前時の振り返り 選択授業（フットサル・バスケットボール） <div style="text-align: center;">  <p>見通しを持つ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・縦と横を合わせる。 ・身だしなみを確認。 ・STキャットウォーク窓換気。 										
13:30	<input type="checkbox"/> 準備運動											
13:35	<input type="checkbox"/> 前時の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・前時に計画した内容を振り返り、iPad等を使って練習の動画を見せるなど練習の流れをチーム全体で確認する。 ・チームでその練習を行う目的、目標を決めて練習に取り組む。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div> 振り返って次へつなげる</div> <div> 互いの考えを比較する</div> <div> 共に考えを創り上げる</div> <div> 先哲の考え方を手掛かりとする</div> <div> 知識・技能を活用する</div> <div> 多様な手段で説明する</div> <div> 思考を表現に置き換える</div> </div>											
13:55	<input type="checkbox"/> 選択授業 <ul style="list-style-type: none"> ・フットサル ・バスケットボール ・個別対応生徒 ・初日に考えたチーム練習計画を元に練習を行う。 ・前半サッカーグループ体育館、バスケットグループが多目的ホール。後半は入れ替える。 <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> <div> 自分の思いや考えと結び付ける</div> <div> 知識・技能を習得する</div> </div> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">時間</th> <th style="width: 25%;">体育館</th> <th style="width: 25%;">多目的ホール</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14:00～14:25</td> <td style="text-align: center;">サッカーG</td> <td style="text-align: center;">バスケットG</td> </tr> <tr> <td>14:30～14:55</td> <td style="text-align: center;">バスケットG</td> <td style="text-align: center;">サッカーG</td> </tr> </tbody> </table>	時間	体育館	多目的ホール	14:00～14:25	サッカーG	バスケットG	14:30～14:55	バスケットG	サッカーG	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的ホールでボールを扱う際は事前に壁にボールを当てないように言葉掛けを行う。 ・場面に応じて教師が見本を行う。 	
時間	体育館	多目的ホール										
14:00～14:25	サッカーG	バスケットG										
14:30～14:55	バスケットG	サッカーG										
14:55	<input type="checkbox"/> 片付け・整理体操											
15:00	<input type="checkbox"/> 挨拶・移動・着替え（昼休み） <ul style="list-style-type: none"> ・怪我の確認 ・次回の予定→選択体育 											
○準備する物 ・タイマー・バスケットボール・サッカーボール・練習計画表・iPad・コーン・マーカー												

美術指導略案

単元名	水彩絵の具で描く		題材名	水彩絵の具で描く(鑑賞)	
日時			場所	美術教室	
学科			指導者		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の想いを表現することができる。 ・仲間の作品を味わうことができる。 				
時刻	学習内容	生徒の活動	ピクトグラム	教師の活動	教材・道具
13:25	号令 本時の学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手による号令 ・出欠の確認 ○水彩画の鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> ・号令を指示する。(T1) ・健康チェックをする。 ・前回のワークシートを返却する。 ・本時の学習内容を伝える。 ・話を聞く姿勢に気をつけさせる。 	
13:30	①水彩絵の具の特徴と鑑賞ポイントの確認	○鑑賞のポイント 「自分の作品を棚に上げる」 <ul style="list-style-type: none"> ・色の使い方 ・色の塗り方(筆の使い方) ・個性(工夫) 		<ul style="list-style-type: none"> ・作品作りと鑑賞は別の観点であることを再度伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞ワークシート ・感想カード
13:35	②作品の振り返り(感想カード記入)	○感想カードを記入する。	 思考を表現に置き換える	<ul style="list-style-type: none"> ・前に出て発表。 ・声の大きさに注意させる。 ・iPadで撮影しモニターに拡大する。(教師の操作) 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニター ・iPad
13:50	③発表する。	○作品を見せながら発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・題名 ・見どころ、工夫ポイント 		 自分の思いや考えと結び付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識して活動させる。(iPadで時間経過を伝える。) ・片付け方を確認させる。(所定の場所に戻す)
14:05	④鑑賞(鑑賞ワークシート)	○鑑賞する <ul style="list-style-type: none"> ・各項目に合わせて、作者の名前とコメントを記入する。 ・感じたことを言葉で表現する。 	 振り返って次へつなげる		<ul style="list-style-type: none"> ・作品カードは作品下中央に貼らせる。
14:10	⑤振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを記入する 感想カードを作品に貼る ・作品と作例を提出する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・聞く姿勢に気をつけさせる。
14:10	⑥次回の説明 あいさつ	○次回の学習内容について「レタリング」 <ul style="list-style-type: none"> ・挙手による号令 各先生から 		<ul style="list-style-type: none"> ・号令を指示する。(T1) 	

作業学習 学習指導略案

対象		日	
担当		時	
単元名	・ポリッシャー検定 オリエンテーション	場	
所			
作業学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎の徹底、発展的な技術力の向上。応用的な技術を身に付ける。(知能・技能) ・自身の課題を理解し、解決する力を養う。仲間と連携して効率良く作業に取り組む。(思考力、表現力、判断力等) ・主体的かつ協動的に作業に取り組み、社会人として必要な人間性を育む。(学びに向かう力、人間性等) 		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリッシャー機の正しい操作方法を知り、手順通りに清掃に取り組む。 ・ポリッシャー検定を通して、清掃活動に実践できるように技術を身に付ける。 ・仲間の練習の様子を見て、学びを深めて表現することができる 		
時間	学習活動・展開	留意事項	
3	後半：ポリッシャー検定 オリエンテーション (Ⅱ期検定者) (Ⅰ期検定終了者)	持ち物：検定バイブル、ipad、筆記用具	
10:50	○本日の目標の確認 ・ポリッシャー検定の見通しをもつ ・ポリッシャー機を安全に扱う方法を学ぶ	 見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> ・計8～10回の検定練習 ・検定について学んでいく順番を知る 	
～	1. 検定の動画を視聴する ・疑問に思ったことをメモしておく。	 多様な情報を収集する <ul style="list-style-type: none"> ・動画から疑問や発見をメモし、仲間と情報共有する 	
11:40	2. Ⅰ期検定終了者の演説を見る (教員補足説明有り) その後、質疑応答 ・検定本番を想定して、ポイントの知る	 興味や関心を高める <ul style="list-style-type: none"> ・実際の演説を見て、説明を聞きながら、自分自身ならどう取り組めるかを考える 	
11:45	3. ポリッシャー機の準備扱い方、取り外し方を知る ・操作するための検定の手順を知る	 知識・技能を習得する <ul style="list-style-type: none"> ・ポリッシャー機の扱い方と準備の仕方を知り、次の検定練習に繋げる ・危険に繋がる行動を知る 	
～	4. ポリッシャー機を動かしてみる ・安全に留意し、操作してみる		
12:35	○後片付け ○集合、あいさつ ○次回予告	12:10 後片付け 12:20 あいさつ、次回予告 12:25 解散	
備考			

※作業中の換気、清掃終了後の手洗い等の感染対策の声掛けをお願いします。

○単元デザイン

1. 単元名 「ポリッシャー検定」

2. 単元の目標

- ・ポリッシャー機の正しい操作方法を知り、手順通りに清掃に取り組む。
- ・ポリッシャー検定を通して、清掃活動に実践できる技術を身に付ける。
- ・仲間の練習の様子を見て、学びを深めて表現することができる。

3. 単元の指導計画と学びの実践ポイント（ピクトグラム）

時数	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
	○オリエンテーション ・安全に操作するための留意事項を知る。 ・検定の一連の流れを映像で見る。 ・既に検定が終了している仲間の検定本番での演示を見る。	 興味や関心を高める  見通しを持つ	 多様な情報を収集する	 知識・技能を習得する
	○第1回ポリッシャー練習 ・ポリッシャー機の準備の手順を知る。			 知識・技能を習得する
	○第2回ポリッシャー練習 ・ポリッシャー機の準備の手順を振り返る。 ・ポリッシャー機を動かし、その場でとどまる。	 振り返って次へつなげる		 知識・技能を習得する
	○第3回ポリッシャー練習 ・ポリッシャー機を縦、横に動かす。	 振り返って次へつなげる		 知識・技能を習得する
	○第4回ポリッシャー練習 ・ポリッシャー機を縦、横に動かし、片手で扱う。	 振り返って次へつなげる		 知識・技能を習得する

	<p>○第5回ポリッシャー練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定場のコースを動く。(枠取り、机の下) 	 <p>振り返って 次へつなげる</p>		 <p>知識・技能 を習得する</p>
	<p>○第6回ポリッシャー練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポリッシャー機の使用後、片付けの手順を知る。 ・検定のコースをスムーズに動くことができる。 	 <p>振り返って 次へつなげる</p>		 <p>知識・技能 を習得する</p>
	<p>○第7回ポリッシャー練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備、コース、後片付けを通して検定を練習する。 	 <p>粘り強く 取り組む</p>		
	<p>○第8回ポリッシャー練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本番を想定して練習する。 ・ipadで練習の様子を撮影し、仲間と成果と課題を話し合う。 	 <p>自分と 結び付ける</p>	 <p>多様な手段 で説明する</p>  <p>互いの考え を比較する</p>	 <p>知識・技能 を活用する</p>
	<p>○第9回ポリッシャー練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本番を想定して練習する。 ・ipadで練習の様子を撮影し、仲間と成果と課題を話し合う。 	 <p>自分と 結び付ける</p>	 <p>多様な手段 で説明する</p>  <p>互いの考え を比較する</p>	 <p>知識・技能 を活用する</p>
	<p>○ポリッシャー検定 本番</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習の成果を発揮する。 	 <p>粘り強く 取り組む</p>		
	<p>○ポリッシャー再検定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定本番での課題を振り返り、再検定に臨む。 ・検定後、校内の清掃に生かすために振り返る。 	 <p>振り返って 次へつなげる</p>		 <p>自分の考え を形成する</p>

対象 担当		日時	
単元名	「買い物しよう」	場所	
単元の 目標	(知識・技能) (思考力・判断力・表現力) (学びに向かう力・人間性等)	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の場面で使用する表現を知り、理解する。 ・買い物の場面で使用する表現を聞き取る。 ・自分の欲しいものを伝える表現を知り、理解する。 ・買い物の場面での表現を用いて、相手とやり取りをする。 ・自分の欲しいものを相手に伝える。 ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 	
本時の 目標	(知識・技能) (思考力・判断力・表現力)	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日パーティーに必要な物を選び、英語で欲しいものを伝える。 ・今まで学習した買い物の場面での表現を用いて、相手とやり取りをする。 	
時間	学習活動 (★教材等)		留意事項
9:55 導入	■あいさつ～日直 ■本時の学習内容について ①greeting ②Warm up! ③買い物しよう		・ppを使用。
10:00 展開	① greeting (あいさつ) (5分) <ul style="list-style-type: none"> ・「Good morning.」(全体) ・「How are you?」(個々に聞く) ・「What's the date today?」(全体) ・「What day is it today?」(全体) ・「How is the weather today?」(全体) 		
	② Warm up! (10分) (★タブレット、ワードサーチのプリント使用) ・タブレットもしくはプリントで単語学習に取り組む。		・生徒たちが自分で課題を選び、取り組む。
	③ 買い物しよう! (25分) (★会話文のプリント、商品の写真、値札) <ul style="list-style-type: none"> ・欲しいものを伝える表現を確認する。 ・ペアになって会話の練習をする。 ・仲間の誕生日パーティーに必要なものを選び、店員と客に分かれて、買い物のやり取りをする。 		・
10:40 まとめ	■振り返り ・振り返りシートに今日の学習内容、感想を記入する。 ■あいさつ～英語で挨拶		
10:45			
評価 観点	(知識・技能) (思考力・判断力・表現力)	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日パーティーに必要な物を選び、英語で欲しいものを伝えられたか。 ・今まで学習した買い物の場面での表現を用いて、相手とやり取りをすることができたか。 	

1 単元名 「買い物しよう」

2 単元の目標

(知識・技能)

- ・買い物の場面で使用する表現を知り、理解する。
- ・買い物の場面で使用する表現を聞き取る。
- ・自分の欲しいものを伝える表現を知り、理解する。

(思考力・判断力・表現力等)

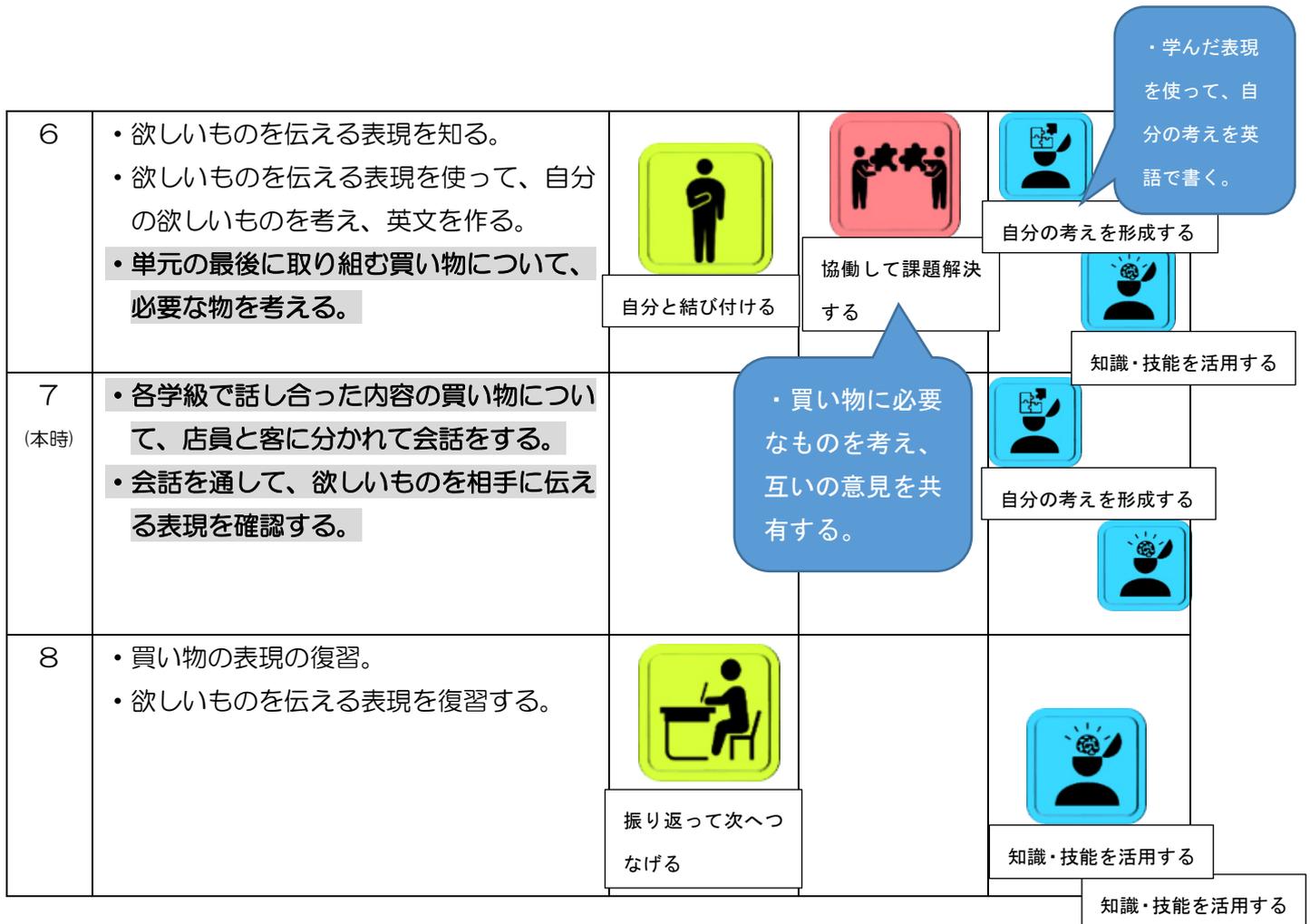
- ・買い物の場面での表現を用いて、相手とやり取りをする。
- ・自分の欲しいものを相手に伝える。

(学びに向かう力・人間性等)

- ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 単元の指導計画

次	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1	<ul style="list-style-type: none"> ・T シャツ屋さんの買い物について、店員と客の英会話のCDを聞く。 ・CDを聞いて、穴埋め問題に答える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・この単元のゴールの姿を伝える。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の単元の最後に、買い物の英会話に取り組むことを知る。 ・今回の単元の目標が、英語で欲しいものが伝えられるようになることだと知る。 ・単元の最後に取り組む買い物について、どんな内容にするか、学級の仲間と話し合う。 ・T シャツ屋さんの買い物についての英会話のCDをプリントを見ながら聞く。 ・英会話の意味を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味や関心を高める 見通しを持つ 自分と結び付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 協働して課題解決する 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能を習得する
3	<ul style="list-style-type: none"> ・T シャツ屋さんの買い物についての英会話の練習をし、発音に慣れる。 ・買い物の場面で使用する表現や英単語を知り、意味を確認する。 ・ペアになって、T シャツ屋さんの会話の原稿を見ながら、店員と客に分かれて会話をします。 			<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能を習得する
4	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの紙幣について知る。 ・ペアになって、T シャツ屋さんの会話の原稿を見ながら、店員と客に分かれて会話の練習をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能を習得する
5	<ul style="list-style-type: none"> ・店員と客に分かれて、実際のTシャツを用いて動作をつけながら会話をする。 ・店員と客に分かれて、実際のTシャツを用いて動作をつけながら、アドリブも入れて会話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と結び付ける 		<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能を活用する



※ 網掛けの部分は、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため単元計画を見直し、学習内容を修正したところです。

〈今回の単元計画を考える際に、特に大事にしたところ〉

- ・単元のゴールを生徒たちと共有し、各時間の学習への目的意識を明確にする。
- ・単元の最後の取り組みを生徒たちに考えさせ、学習したことが何につながるのかを意識させる。

第6次研究（3か年研究）2年目のまとめ（研究の方向性・内容、成果と課題）

2023.2.15 全体研究

今年度の各研究課題別グループの日常的な学習活動や1月13日の「校内研究交流会」の資料及び報告を受け、各研究課題グループの研究の方向性及び、研究内容、研究の成果と課題をまとめた。第6次研究（3か年研究）の2年目のまとめとして、そして、次年度（3年目）の研究に向けての道しるべとしたい。
また本日の全体研究において確認された内容や助言を追加して研究集録の内容とする。

（1）各研究課題グループの研究の方向性、内容、2年次の成果と課題

グループ名	研究の方向性と内容、成果と課題 等
ICT教育グループ	<p>【活用グループ】</p> <p>① 研究の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科におけるICT教材を生かした授業プランの作成・実践の充実 <p>② 研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業学習におけるICT機器の活用 視点をかえてのICT機器の活用 <p>③ 研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表やグラフ等の可視化による内容や課題の明確化により、学習理解、振り返り、目標立ての円滑化に効果が見られた。また、作業工程に対する見通しや自己役割の理解、積極性が見られた。 (学習内容等の明確化による生徒の積極性への有効性) ○作業日誌では、ペーパーフリーや生徒の自己評価、成果・課題の記録のグラフ化により、情報を一括化し、円滑な評価につながった。 (評価情報の整理と円滑化) ⊕研修等を通じて、ICT教育に対する教師の意識向上が見られた。 (教職員のICT教育意識の向上) <p>④ 研究の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒の文字を書く機会や言葉を使った学習の機会の減少 (ICT機器依存による危険性) ●作業学習でのiPad使用学習は、破損等の危険性があり、使用が難しい場合がある。 (活用場面による機器破損への危険) ●動画等のデータ化(電子化)は時間と労力を費やす。また、生徒の実態にも左右される。(操作ができるとできないの2つの状況) ●私物のiPad使用等、公的な機器の不足状況(教師用機器の不足) ●制限によるサービス関連アプリの未取得。(ツール等への制限) ⊗現在、ICT教育を進めるにあたり、指導にばらつきがあり、統一した指導を行えていない。(全校的に統一した指導の未整理) <hr/> <p>【モラルグループ】</p> <p>① 研究の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> モラルに関する生徒指導の実態把握 情報モラル等の指導内容の検討 <p>② 研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教科情報」における情報モラル等の指導内容の検討、年間指導計画の改善 <p>③ 研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導案件調査の実施により、情報モラル関連事案の把握と分析で、「適切なSNSの利用」の課題や「情報機器の使用」に関する課題を把握できた。 (関連する生徒指導案件からの課題の実態把握) ○継続指導（生徒の実態に即した内容）により、生徒のモラルに対する意識（理解）の深化が期待される。 (生徒の実態に即した指導継続の重要性) ⊕研修等を通じて、ICT教育に対する教師の意識向上が見られた。 (教職員のICT教育意識の向上)

	<p>④ 研究の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●モラルの指導については、生徒が他人事のように受け止め、自分に置き換えて考えることが難しい現状。学習内容と自己の行動との乖離が見られる。(生徒の実態に即した指導継続の重要性) ●ICTの進歩に応じた定期的な指導内容の見直しが必要である。また、生徒や学年の実態に応じた指導内容の検討が年度当初で必要になってくる。(定期的な指導内容更新の必要性) ◎現在、ICT教育を進めるにあたり、指導にばらつきがあり、統一した指導を行えていない。(全校的に統一した指導の未整理)
	<p>《 今後（3年目に向けて）の研究の方向性 》</p> <p>【活用グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果と課題を元に、各学科から各教科等に広げ、そのノウハウ等を位置付けるための検証の必要性。 ・ICT機器を活用した学習のノウハウを教師間の共有と活用の必要性。 <p>【モラルグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で生徒の情報モラルに関する生徒の実態を把握し、生徒指導に生かすことの重要性。 ・今年度作成した情報の指導内容（案）の実施と更なる分析・検討の必要性。 <p>※教育課程検討委員会（ICT教育担当）と連携</p>

グループ名	研究の方向性と内容、成果と課題 等
<p>発達障害指導グループ</p>	<p>① 研究の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害のある生徒に対する問題行動の指導について、先行研究からの知見を統合し、問題行動等に対する事例に対し、効果的な指導方法について知見を深める。 <p>② 研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動に対する指導の先行研究から得られた知見の蓄積と理解。(「ASD」と「ADHD」に特化) ・理論と実践の連携を図った具体的な支援策の検討。 <p>③ 研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○蓄積された先行研究の統合や検討の結果、行動問題へのアプローチとしてABA(応用行動分析)の指導の有効性に着目できた。 (有効な指導方法・支援方法の選定) ○質問紙調査から教師の発達障害に対する理解度や取組に向けて改善の余地があることが明らかになった。 (発達障害やその指導についての改善点の示唆) <p>④ 研究の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発達障害のある生徒への指導に関する課題については、個別のニーズに応じた適切な支援の提供など、5点の課題(校内研究会資料参照)が示され、また、それらの対応策についても個別のニーズに合わせた柔軟なアプローチのもと、教育現場における継続的な研究や情報共有が重要であり、その枠組みをどのように学校現場に導入するかが課題。 (発達障害指導における学校現場での課題)
	<p>《 今後（3年目に向けて）の研究の方向性 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害のある生徒に対し、更なる論文収集や質問紙の妥当性を図り、より一般的に適應できる理論と実践の連携を図ったABA(応用行動分析)による具体的な支援方法の検討が必要。 ・効果的な支援方法の検証のため、事例研究等の実施と分析。

グループ名	研究の方向性と内容、成果と課題 等
<p>観点別評価 グループ</p>	<p>①研究の方向性 ・本校独自の評価基準表の充実</p> <p>②研究の内容 ・各教科等の評価規準表の作成を計画的に進めるとともに、実際に授業に活用できるかを検証する。</p> <p>③研究の成果 ○様々な参考文献を基に学習指導要領の段階に応じた各教科の観点別の具体的な目標の立て方や手立て、観点ごとの評価の記載例等を確認できた。 (様々な知見の蓄積) ○本校の文字数の制限がある中でも、記入できる文章例を積み重ねることができた。 (評価文例の蓄積) ○北特研等での講師の方の助言や講義の内容から観点別評価について多様な知見を深めることができた。 (観点別評価の貴重な知見) ○昨年度からの作成を継続し、他教科(社会や家庭、職業)など昨年度はなかった教科も作成することができた。 (観点別評価〈検討案〉の各教科への広がり) ○1学年の「社会」「職業」「家庭」「情報」で授業実践を行い、観点別評価の視点を生かした授業づくりを実践し、生徒の学習評価に客観性を持たせ、また、評価規準表の見直しや検証に取り組むことができた。 (授業研究による見直しや検証の実施) ○新評価規準表により、授業(題材終了後)の評価をスムーズに実施できた。 (PDCAサイクルのCの円滑な実施)</p> <p>④研究の課題 ●生徒たちの学びをより「主体的・対話的で深い学び」とするために教師と生徒の両者での学習評価活動に取り組み、学習改善につながる運用等に取り組んでいく必要がある。 (観点別評価を生かした学習改善に向けた運用) ●作業学習の評価規準表を作成する際に、学習内容によっては作成が難しい単元もあった。 (観点別評価の難しさ)</p>
	<p>《 今後(3年目に向けて)の研究の方向性 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新観点別評価の様式や運用等について、授業実践や研究授業等での検証の実施。 ・次年度以降、「主体的・対話的で深い学び」を生み出す学習評価の在り方について考えていく。 (※生徒の「自己評価」の意識向上を図るとともに、教員で有効な手立てを考えていくことが必要である。) ・作業学習における観点別評価の様式や評価方法等を含めて検討の必要性。

グループ名	研究の方向性と内容、成果と課題 等
<p>キャリア教育</p>	<p>【OKSライフキャリアプランの理解と活用グループ】</p> <p>① 研究の方向性 ・OKSライフキャリアプランの構成を理解し、より生徒の実態に応じたものにする。</p> <p>② 研究の内容 ・OKSライフキャリアプランの作成や活用についての資料整理や検討・見直しを図る。</p> <p>③ 研究の成果 ○職員研修を実施し、全校的な共通理解を図った。 (定期的な研修の重要性) ○資料の点在化の改善や新転入者の理解促進のため、点在する学習活動や支援部資料を一括し、学年ごとに実施時期、取組内容等を整理した資料を「進路学習におけるキャリアカウンセリング」の資料にまとめ作成をした。 (一元的な資料の整理と完成)</p>

④ 研究の課題

- 点在する資料からOKSライフキャリアプランの構成について一定の整理を図れたが、基板となる「進路学習」や「支援部」のフォルダ内のデータ整理にまだ取組めていない部分もある。
(さらなる一元的な資料の整理と充実の必要性の余地)

【キャリアカウンセリングの充実グループ】

① 研究の方向性

- ・キャリアカウンセリングの取組の充実

② 研究の内容

- ・キャリアカウンセリングの取組について、より生徒の実態に届けられるよう取組方などの検討、見直しを図る。

③ 研究の成果

- グループの検討や担任へのアンケート調査から3点の課題を明らかにし、改善への視点を定めることができた。

- ・ 「生徒・教師ともに目標の価値が薄れているのではないか」
～定期的だけではなく、日々の面談や作業学習等、日常的に目標や現状に触れながら、生徒が自己目標を理解し、意識化できることが重要。目標の抽象化から具体化(一点集中)し、日常の具体的な指導や実態把握の上、キャリアカウンセリングの実施が重要。

(目標の意識化、細やかな実態把握の実践の示唆)

- ・ 「キャリアカウンセリングの時間が足りない」
～進路学習だけではなく、作業時間での抽出による定期的なキャリアカウンセリングの実施を基本とするのが望ましい。

(意識化を図るための作業学習での定期的な実施)

- ・ 「キャリアカウンセリングシートの分かりにくさ」
～ 「生徒の目標」の記入欄が一番上になっているが、取組む流れに沿い、記入欄を「生徒の考え」、「先生のアドバイス」、「前期目標」、「目標達成に向けて」に変更すると理解しやすく、取組みやすい。

(目標設定までの流れを意識した様式の整理と充実)

④ 研究の課題

- 見直した教材の活用を図り、生徒に効果的でより良いものとなるよう取組方の検討を継続することが必要。

(教材の活用と検証の必要性)

【キャリア・パスポートの取組グループ】

① 研究の方向性

- ・キャリア・パスポートの充実を図る。

② 研究の内容

- ・キャリア・パスポートの書式や実施方法についての検討。

③ 研究の成果

- 教育課程検討委員会と連携して取り組むことができた。

(本格実施に向けた委員会との連携)

- 内容と様式、取り扱う時期や時間割、管理方法について検討した。令和6年度入学者から実施していきたい。

(内容・様式、運用の実施)

④ 研究の課題

- 令和6年度入学者から実施と平行して、改善が必要な場合は検討・見直しを行う。

(内容・様式、運用の実施と検証・改善)

《 今後(3年目に向けて)の研究の方向性 》

【OKSライフキャリアプランの理解と活用グループ】

- ・ 「進路学習」や「支援部」のフォルダ内のデータ整理に取り組む、OKSライフキャリアプランの充実を図る。

【キャリアカウンセリングの充実グループ】

- ・ 見直した教材の活用とより生徒に効果的なキャリアカウンセリングの取組方の検証を継続(※取組のビデオ分析研究等)

【キャリア・パスポートの取組グループ】

- ・ 新キャリア・パスポートの試行と点検・改善点の検討。見直し。

※教育課程検討委員会(キャリア教育担当)と連携

グループ名	研究の方向性と内容、成果と課題 等
特別の教科 「道徳」	<p>【 教材開発グループ 】</p> <p>① 研究の方向性 ・教科用図書や生徒の実態に合った教材等の発掘など、道徳指導の総合的な充実を図る。</p> <p>② 研究の内容 ・15期生の年間指導計画を基板に学習時期や内容の検討と作成 ・「私たちに未来へ」などの教科用図書の導入に向けた検討 ・本校の実態に即した具体的な教材の発掘や内容の充実</p> <p>③ 研究の成果 ○各学年の年間指導計画にある題材をピックアップし、T-net内の教材BOXの内容を整理。 (題材に応じた教材の整理及び今後の活用) ○北特研「特別の教科 道徳」講座を通して、副読本「私たちの未来 未来の私たち」の活用に向けた具体的な助言を頂いた。また、次年度の段階的な導入に向け、授業研究により試行できた。 (教科用図書の検討に向けた知見と試行の実施)</p> <p>④ 研究の課題 ●副読本「私たちの未来 未来の私たち」を試行し、本校の生徒の実態に合っているか等、さらに検証の必要性がある。 (教科用図書選定に向けての検討の必要性) ※各学年の「特別の教科 道徳」を担当する教員を明確化しているが、現状としてあまり機能していない。それは、作業学習の中で特定の期間で指導をすることと関連性がある。道徳として1コマ設定するかを教育課程検討委員会と連携し、時間割の検討をする必要がある。 (作業学習での道徳の実施しづらさと改善の必要性)</p>
	<p>【 年間指導計画グループ 】</p> <p>① 研究の方向性 ・「特別の教科 道徳」の基底指導計画及び年間指導計画の充実</p> <p>② 研究の内容 ・令和5年度 基底となる学習計画の作成(新書式) ・令和5年度 年間指導計画の作成(新書式)</p> <p>③ 研究の成果 ○令和5年度の基底指導計画を検討し、新書式で作成を完了した。 (新基底指導計画の完成) ○各学年の年間指導計画についても全学年分検討し、新様式で作成をすることができた。(学年毎の新基底指導計画の完成)</p> <p>④ 研究の課題 ●教材開発グループの副読本「私たちの未来 未来の私たち」を試行的活用をする場合、時期や題材について年間指導計画に反映させる必要がある。各学年の担当者から指導内容等を周知していく必要がある。 (年間指導計画の内容と教科用図書及び教材の整合性の計画的検証)</p>
	<p>《 今後(3年目に向けて)の研究の方向性 》</p> <p>【 教材開発グループ、年間指導計画グループ 】</p> <p>・各学年の年間指導計画に基づく、教科用図書(検討中副読本)や教材を活用した授業での活用を主とした検証及び分析。 ・本校の「特別の教科 道徳」+αの教育課程上の位置付けに向けて(基底指導計画、各学年の年間指導計画、各種題材と適切な共済等の蓄積及び、活用、週時程表上の位置づけ：教育課程検討委員会と連携)</p> <p>※教育課程検討委員会(道徳担当)と連携</p>

グループ名	研究の方向性と内容、成果と課題 等
授業づくり グループ	<p>① 研究の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習計画及び授業展開において、学習指導要領に示される「主体的で対話的な深い学び」の視点を取り入れた効果的な授業づくりの構築を図る。 ・OKS授業フォームの検討 <p>② 研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の授業づくり（できる状況づくり、働く生活に必要な力、経験的・活動的な学習）を押さえた授業づくり ・年間指導計画や題材計画、略案等のピクトグラム活用の有用性についての検討、検証。 <p>※ピクトグラムは独立行政法人教職員支援機構（NITS）の次世代型教育推進センターが公表した教育ツール。</p> <p>③ 研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北特研より、授業づくりは、将来のために何を学んでいるかの学習活動への見通しや意味付けが重要であること、目的意識や学びの必然性が「確かな学び」へとつながること、そのために、身に付けさせたい力を明確にした評価基準（～できる）、単元づくり（学習内容の充実）を行うこと等の示唆を得たこと。 （目的とテーマのある学習内容、身に付けたい力の基準等の知見） ○ピクトグラムの活用は、学習計画や授業展開におけるねらいの視覚化や重点を明確化することができる。さらにTT（チームティーチング）における授業情報の共通理解を図るツールとして有効。 （視覚化による学習計画や授業展開等での有効性） ○略案、単元計画等の検証授業を通じ、ピクトグラムを活用することで日々の授業を見直すきっかけとなり、授業改善への活用について有効であることを検証。 （授業改善のためのツールとしての有用性） ○略案よりも単元計画での活用が有効であることを確認した。 （学習計画におけるピクトグラムの有用性の確認） <p>④ 研究の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●略案等、授業展開でのピクトグラムの活用過多は授業のポイント等を分かりづらくする。 （ピクトグラム活用方法の再検討） ●単元計画に「主体的」「対話的」「深い学び」の三観点をどう分かりやすく表記することができるのかを検討する必要がある。 （ピクトグラムの有効な表記等の検討） ●OKS授業フォームの検討、作成までには至らなかったが、単元や題材計画段階でのフォーム検討の余地がある。 （指導計画段階での活用の検討）
	<p>《 今後（3年目に向けて）の研究の方向性 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的で対話的な深い学び」の視点を取り入れた効果的な授業づくり」として、<u>単元計画でのピクトグラムの活用について検討</u>を図る。 ～<u>単元計画でのピクトグラムの活用を通じ、効果的な表記の整理と必要な内容や手立ての表現方法について検討</u>を図る。 ～「主体的で対話的な深い学び」の視点を単元指導計画から日々の学習活動へつなげ、事後の授業改善に向けた方法の検討 ・検証を図る必要がある。

(2) 全体に共通した研究成果

今年度は、2年次研究の重点である「学んだ理論を実践で試す」に向け、昨年度の重点である「課題解決に必要な理論を学び合う」のもと、文献や過去の研究成果などをもとに、理論研究で積み上げた成果を実戦に向け、試行のステップへ移行したグループの実践も多く、研究成果にレベルアップを感じる。教育課程検討委員会との連携も図っているグループもあり、取組の改善等、一定の成果を収められたと考える。

各研究課題グループにおいて、これらの成果を「研究集録」におさめ、次年度（3年次研究）の校内研究の中で役立たせ、校内研究最終年度の成果として本校の教育実践に役立たせていくことを期待したい。

(3) 研究の成果

各研究課題グループの実践において研究の進捗に濃淡はあるが、今年度、取り組まれた試行等の取組で明らかになった課題等についての検討・検証に取り組み、今後、よりよい充実した教育活動になるよう研究の深化につながればと考える。

(4) 研究3年目（3カ年計画の3年目）に向けた方向性

ア 研究内容

- ・「学んだ理論を実践で深める」
- ・学び合った理論に基づき、授業を通してのさらなる実践と検証②
- ・2年目の積み残しの研究内容より
 - ① ICT教育グループ【検証授業】
 - ～ICTを活用した教育（各学科から各教科等での活用とその検証）
 - ～情報の指導内容（案）の実施と更なる分析・検討等に期待。
 - ② 発達障害指導法グループ【事例研究】
 - ～生徒の特性を踏まえた効果的な支援方法（ABA：応用行動分析）による具体的な支援方法の検討と検証等に期待。
 - ③ 観点別評価を生かした授業【検証授業】
 - ～観点別評価の様式や運用等について検討、検証等に期待
 - ④ キャリア教育の充実【ビデオ研究】
 - ～効果的なキャリアカウンセリングの取組方（基本）の検証。
 - ～新キャリアパスポートの試行及び、点検、改善点の検討等に期待
 - ⑤ 特別の教科 道徳の取組【検証授業】
 - ～各学年の年間指導計画に基づく、教科用図書（検討中副読本）や教材との整合性を分析及び検証等に期待。
 - ⑥ 主体的で対話的な深い学び【検証授業】
 - ～単元指導計画でのピクトグラムの活用を通じ、効果的な表記の整理と必要とする内容や手立ての表現方法について検討を図る。
 - ～ピクトグラムを活用した単元指導計画からの授業の検証等に期待。

□障害特性とその対応に関わる研究

～②発達障害指導法グループの研究内容が該当

イ 研究方法

- ・研究課題によるグループ編成
（1年次研究の基礎研究、2年次研究での試行事案等の継続・発展を期待）
- ・3年目は「授業研究」、「事例研究」及び「公開授業研究」の実施
- ・校内及び公開研修会の開催
 - ～夏季校内研究
（※内容等は現時点未定、但し、6研究課題グループ等の内容の中より予定）
 - ～冬季校内研修会《公開研究大会》

ウ 校内研究への助言

(ア) 1月校内研究交流会（学校長より助言）

学習者主体の主語のもと、これまで研究を重ねられてきました。それらをなくして、これからの学校経営・運営に生かすと言うことは難しいと思っています。

【ICT教育】

- ・ICT教育は、これから学校DX（デジタルトランスフォーメーション）というものに移行していくと思います。発達障害指導グループの中でも「チャクジGP」とか、「AI」という言葉が出てきいますが、学校現場でもこれは避けて通ることはできません。我々に求められるものが数多く出てくると思います。時代時代のニーズに応じて、生徒のニーズに応じて、どのようにバージョンアップしていくのか、どのように取り組んでいくのかが、大きな課題だと思います。

【発達指導方法】

- ・発達指導方法に関わっては、いろいろな言葉が錯そうしているところですが、基本は、国総研が出している「自閉症ガイドブック」、これが大きなポイントになると思います。言葉やニュアンスが少しずつ変わってきていますが、国の特別支援のフラッグシップとして、この「自閉症ガイドブック」に立ち返りながら、今の指導に生かすかがとても大事だと思います。いろいろな文献を示していただいておりますので、それをしっかりと理解し、今、本校で求められるものが何なのかということを考えていくことが必要であると思います。

【観点月評価】

- ・観点別評価については、実践に基づいて、今、整備をしていただいております。これが理論的に体系づけられるかということは、とても大きなことだと思います。先進的には、益山先生が稲穂で取り組んでいましたが、稲穂の実践も現在少し変わってきていることも耳にしています。他校の実践と本校との取り組みをあわせながら取り組むことも1つ必要ではないかなと思います。

【キャリア教育】

- ・キャリア教育については、開校の時からとても重要視しています。OKSライフキャリアプランは、私が教頭でいたとき、開校時に作り上げたものです。少しずつバージョンアップを重ね、現在に至っているわけですが、総合的に今の生徒たちに合うのかという観点で取り組んでいただいておりますし、その他にキャリアガイダンスも配置していますので、それを、しっかりと目的を意識しながらやっていくことが必要だと思います。

【特別の教科 道徳】

- ・道徳については、教育活動全体を通してということを進めています。本校では「作業学習」を通じて行うようになっていますが、道徳の内容をしっかりと理解した上で、どのように意識するかということが必要だと思います。道徳の内容をどのように意図的にやっていくのかという意識付けをしっかりとつ必要があると思います。

【授業づくり】

- ・授業づくりについては、各グループの研究を受けて、これを授業に生かしていく、そのきっかけとして、ピクトグラムとか、OKS授業ホームとかをつなげていければと思います。

【寄宿舍の研究】

- ・寄宿舍の研究については、合理的配慮と合意形成ということが大きなポイントとなってくると思います。この考え方をしっかりと踏まえながら、寄宿者の研究に生かしていただきたいと思います。

いずれにしても先生方が取り組んでいることは、生徒の為になるということが大前提ですので、今年度のまとめをしっかりと踏まえて、来年度につなげていただければと思います。ありがとうございました。

(イ) 2月全体研究日（学校長より助言）

- ・来年度の学校経営方針の重点にもあげていますが、「つなぐこと」に取り組んでいただけたらと思います。各研究グループで培った縦の系（成果等）を、各研究グループ間等の横の系として、どうつなげていくかが重要となってくる。どのように交わっていくのか、どうつないでいくのかが今後重要である。
- ・今後の研究の推進に当たり、今までは保護者も含んだ研修を行ってきたが、外部講師の招聘について管理職としても検討中、教職員だけの研修を進めるための予算も考えている。校内研修の充実、しいては生徒たちへの指導の充実にあたればと考えている。

寄宿舍研究の成果と課題

寄宿舍 第5次研究 (2年次 令和5年度)

1 研究主題

「変化に対応できる力を身に付ける」

2 研究内容・方法

2年次は個別の指導計画の見直しに向けて、キャリア教育の他にICF等の視点も加え、指導計画等の見直しをする1年。ICFの観点を加え、情報の流れ、理論と現実とのズレを認識し、個と集団、今の社会や生徒の実態に適しているかを考察する。

3 2年次研究の成果(令和5年度)

寄宿舍の指導体制はグループ制であり、的確な実態把握、指導員間での協働、プラスの視点での指導、卒業後の社会参加のイメージを共有するためにもICFの観点が有効と考えた。現在【個別の指導計画】【実態把握シート】以外にも指導に関する資料があり、【実態把握シート】はICFの観点で記入するような形であるが、他は統一されておらず、変換して考えるように別紙で補足説明を行っている。

2年次は3年次の研究に繋がるように、ICFの再確認を行い、「人間関係相関図の作成」、「ワークショップ研修」の内容で研修を行った。

表1 寄宿舍で使用している指導に関する資料

名称	内容
【日常生活調査表】	入舎前に保護者に家庭の様子を記入していただく調査表。 項目毎に保護者が3段階で評価する形式。
【保護者懇談記録】	入舎時の保護者懇談時の内容を記録する表。 項目は事前入力され、必要な箇所のみ記録する形式。
【引継表】	昨年度のグループ担当からの引継ぎの為の表。 主に指導の達成度や課題がわかるように記載する形式。
【実態把握シート】	指導計画作成前に実態を把握するための表。 ICFの生活機能モデルに沿った形式。
【寄宿舍でつきたい力】	保護者と本人の願いの表。指導計画作成時の参考になっている。 保護者と本人が自由記述する形式。
【個別の指導計画】	OKSライフキャリアプランと連携している、1年間の指導計画。 【目標→設定理由→指導方法→指導経過→評価】(前後期)の形式。

【日常生活調査表①】

日常生活調査表

日常生活調査表の目的は、本人の生活状況を把握し、その生活状況に基づいて適切な支援を行うことにある。

氏名: _____ 性別: _____ 年齢: _____ 学年: _____

調査日: _____

項目	1	2	3	4
1. 起床の時刻				
2. 起床後の活動				
3. 朝食の摂取状況				
4. 服装の準備				
5. 洗面・身支度				
6. 靴の履き替え				
7. 手洗いや消毒				
8. 歯磨き				
9. 髪の手入れ				
10. 化粧品の使用				
11. 持ち物の準備				
12. 通学準備				
13. 通学開始				
14. 授業中の様子				
15. 授業後の様子				
16. 帰宅時刻				
17. 帰宅後の活動				
18. 夕食の摂取状況				
19. 風呂の入り				
20. 寝る時刻				

【日常生活調査表②】

日常生活調査表

日常生活調査表の目的は、本人の生活状況を把握し、その生活状況に基づいて適切な支援を行うことにある。

氏名: _____ 性別: _____ 年齢: _____ 学年: _____

調査日: _____

項目	1	2	3	4
1. 起床の時刻				
2. 起床後の活動				
3. 朝食の摂取状況				
4. 服装の準備				
5. 洗面・身支度				
6. 靴の履き替え				
7. 手洗いや消毒				
8. 歯磨き				
9. 髪の手入れ				
10. 化粧品の使用				
11. 持ち物の準備				
12. 通学準備				
13. 通学開始				
14. 授業中の様子				
15. 授業後の様子				
16. 帰宅時刻				
17. 帰宅後の活動				
18. 夕食の摂取状況				
19. 風呂の入り				
20. 寝る時刻				

【日常生活調査表③】

日常生活調査表

日常生活調査表の目的は、本人の生活状況を把握し、その生活状況に基づいて適切な支援を行うことにある。

氏名: _____ 性別: _____ 年齢: _____ 学年: _____

調査日: _____

項目	1	2	3	4
1. 起床の時刻				
2. 起床後の活動				
3. 朝食の摂取状況				
4. 服装の準備				
5. 洗面・身支度				
6. 靴の履き替え				
7. 手洗いや消毒				
8. 歯磨き				
9. 髪の手入れ				
10. 化粧品の使用				
11. 持ち物の準備				
12. 通学準備				
13. 通学開始				
14. 授業中の様子				
15. 授業後の様子				
16. 帰宅時刻				
17. 帰宅後の活動				
18. 夕食の摂取状況				
19. 風呂の入り				
20. 寝る時刻				

【保護者懇談記録】

保護者懇談記録

氏名: _____ 学年: _____

日時: _____

場所: _____

出席者: _____

議題: _____

内容: _____

その他: _____

【引継表】

引継表

氏名: _____ 学年: _____

担当: _____

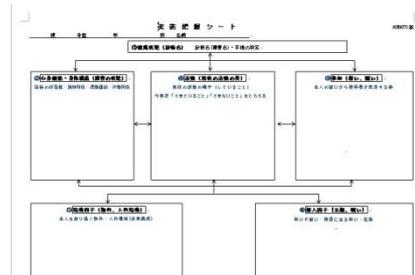
引継先: _____

引継理由: _____

引継内容: _____

その他: _____

【実態把握シート】



【寄宿舎でつきたい力】

寄宿舎でつきたい力

氏名: _____ 学年: _____

希望する力: _____

理由: _____

その他: _____

【個別の指導計画】

個別の指導計画

氏名: _____ 学年: _____

指導内容: _____

指導方法: _____

指導期間: _____

その他: _____

【引継表をICFに変換する補足説明】

引継表をICFに変換する補足説明

この説明は、引継表の内容をICFに変換するための補足説明である。

項目: _____

内容: _____

その他: _____

1 研究のまとめとICF（5月）

1年次の研究のまとめについて寄宿舍内で説明した。個別の指導計画を見直すには、それだけではなく、指導に関わる他の資料等も見直しを図らなければ、「変化に対応する力」には繋がらないため、繋がり軸となるICFについて再確認を行った。研究の方向性に対する理解が深まり、研究推進の準備ができた。

2 人間関係相関図（6月）

当初6月と11月で予定していたが、日程の都合で1回のみとなった。人間関係の変化の把握はできなかったが、指導計画等では見えにくい各棟のブロックやフロアの中での生徒同士の関係性や、集団の実態を知るために役立った。また生徒一人一人のコミュニケーション力や、仲良くなりたいけれど入れないなど集団の中での個々のニーズを把握することができるため、生徒のつながりを広げていく組織的な指導の機会となった。

3 ICFについてのワークショップ研修（9月）

表1の資料の項目から①【日常生活調査表】【保護者懇談記録】②【引継表】③【実態把握シート】④【寄宿舍でつきたい力】【個別の指導計画】の4グループに分け、「ICFの観点で見直したら何がかわるか」について話し合い、発表した。

このワークショップでは普段、意見交換する機会の少ないことを話し合えたことで、より理解を深める機会となった。しかしながら、それぞれの資料の目的がきちんと定義されていないものもあり、話し合いが進まない面もみられた。



4 目的についてのワークショップ研修（10月）

前回のワークショップ研修（ICF）の結果から、それぞれの資料の目的について再確認していく必要があった。前回と同じグループでワークショップ研修を実施した。

目的の再確認や整理ができたことで、それぞれの資料の役割が明確になった。役割が明確になったことで、情報の整理やICFの観点で変換していく準備ができた。



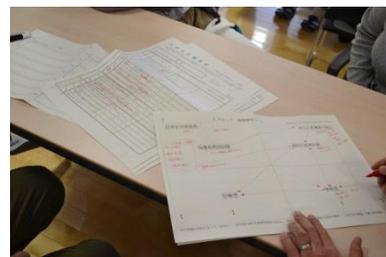
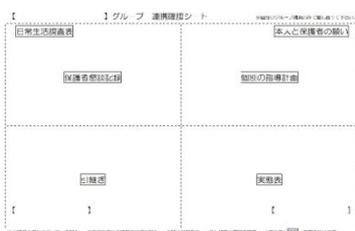
①グループ		目的確認シート	
項目	目的	目的	目的
日常生活調査表		保護者懇談記録	
引継表		実態把握シート	
寄宿舍でつきたい力		個別の指導計画	



5 連携についてのワークショップ研修（12月）

前回のワークショップ研修（目的）の結果から、目的を達成するためにそれぞれの資料との連携について考える必要があった。また現状では重複する情報が多く、情報の正確さや業務の効率に課題があり、連携が重要と考えた。前回と同じグループでワークショップ研修を実施した。

連携の視点で見直すことで、重複する内容や情報が途絶えやすい箇所が明確になった。また組織的な指導をするにはどうすべきかなど、先の視点も交えて話すグループもあり、見直しに向けて、全体的なイメージができてきている様子であった。



6 ワークショップ研修のまとめ

3回のワークショップの結果、まとめると下記の表のようになった

表2 ワークショップのまとめ

名称	WS	内容
日常生活調査表	ICF	・ICFの観点ではないので整理が必要。
	目的	・寄宿舍生活を送る際の必要事項を家庭から情報提供してもらう。
	連携	・保護者懇談記録と一本化できたら良い。
保護者懇談記録	ICF	・ICFの観点ではないので整理が必要。
	目的	・目的が不明。現状では確認する項目が多い。
	連携	・項目全て確認できないので、日常生活調査表と一本化で良い。
引継表	ICF	・ICFの観点ではないので整理が必要。
	目的	・次年度の担当に引き継ぐため。
	連携	・実態把握シートと重複する内容が多いので、一本化すると良い。
実態把握シート	ICF	・ICFの観点になっているが、記載内容の整理が難しい。
	目的	・個別の指導計画作成のための資料であるが、有効活用されていない。
	連携	・指導の計画を立てる上で理にかなっているが、詳細な現状把握が必要。
寄宿舍でつきたい力	ICF	・願いなので特になし。
	目的	・生徒と面談あると本人に意識させやすい。
	連携	・引継に記入される形になると業務がスリム化する。
個別の指導計画	ICF	・実態把握が評価項目の形式でも良い。
	目的	・生徒と保護者等のため、卒業後に必要な力を導くため。
	連携	・寄宿舍でつきたい力を年度末に記入できれば、作成の流れが円滑に。

4 今後の課題（3年次に向けて）

今年度のワークショップはグループを固定して行ったため、他のグループの指導員からの意見も反映させるためアンケートも行ったが、日程の都合で集約が終わっていないため、昨年度からの課題とワークショップ内で出てきた課題をまとめた。

- ・学校と類似した形での評価が理想であるが、寄宿舎は生活の場なので評価しにくい。
- ・心理的な問題を抱える生徒が増えているが、形のないものは評価しにくい。
- ・指導員間での指導力（得意な指導分野）の違いがあり、統一した指導が難しい。
- ・人によって「あたりまえ」が違う。記入量や内容、指導員が想定する将来像など。
- ・指導員間で話し合う時間が少ない。（業務量と会議時間が乖離）
- ・理想（計画案）と現実（実施状況）がかみ合わない。
- ・指導員の業務（指導、分掌など）自体が変化に対応できていない。
- ・保護者等と連携を密にしたいが、家庭により温度差がある。（仕事優先など）
- ・目標等の視点がはっきりしない。（1年、3年、短期、長期）
- ・生徒の実態の変化がわかりにくい。
- ・1年生の指導計画について、あの短期間で目標を設定するのは難しい。

5 2年次のまとめ

1年次のキャリア教育の確認から、2年次のICFの確認とつながり、指導の「あたりまえ」について理解を深める課程で、様々な課題が見えてきた。ワークショップで「あたりまえ」のことを実際に行ったらどうなるか話し合い、より具体的に想像することができた。現状の指導体制は、理論上整合性はあるが、時間的な制限などで実施できないことも多い。情報の流れに無駄が多く、必要以上に労力がかかっている。「変化に対応できる力を身に付ける」とは生徒だけではなく、指導員も含めて考えるべきである。

またワークショップを複数回行ったことで、対話の練習にもなり、回を重ねるごとに建設的な対話が増え、研究以外の業務の見直し等にも良い影響が出ている。その結果、指導資料は現状のままであるが、情報共有を促進し組織的な指導や、無駄を減らし効率的な業務にもつながっている。

生徒も指導員も十人十色。時代の変化は加速度的。変化に対応するには、どのようにしていくべきか。今年度の研究が、「対応が変化」できるよう、3年次の研究に向けて準備を整えておく。

校内研究に関連した取組

第45回 北海道特別支援教育研究協議会 道央地区大会（小樽大会） 兼 北海道小樽高等支援学校 夏季校内研究会 概要報告

◆ 期 日

令和5年7月28日（金）

◆ 会 場

北海道小樽高等支援学校



◆ 主 催

全日本特別支援教育研究連盟
北海道特別支援教育研究協議会
北海道小樽高等支援学校



◆ 参加者

167人(会場参加者166人、リモート参加者【講座講師】1名)

◆ 日 程

9:00 9:30 9:45 11:45 12:00～

受付	開会式	全体講演 【説明・質疑応答】 体育館	諸連絡	昼食休憩 (学校紹介ビデオ) 体育館・多目的ホール
----	-----	--------------------------	-----	---------------------------------

昼食休憩 (学校紹介ビデオ) 体育館・多目的ホール	宿舎舎見学 (見学希望者) 寄宿舎	移 動	講座（6講座） 【講義・質疑応答・情報交流】 各講座指定教室	移 動	閉会式 体育館 ※	北特研 地区総会 体育館
---------------------------------	-------------------------	--------	--------------------------------------	--------	-----------------	--------------------

～ 12:45

13:10 13:20

14:50

15:05

15:30～

◆ 研究大会の内容

1 全体講演

「子どもたちの可能性を伸ばす効果的なアセスメントについて」

講 師 北海道教育大学 函館校 教 授 北 村 博 幸 氏

【主な内容】 特別支援教育の指導において、アセスメントによる情報収集の重要性とともに、そこから最適な指導・支援の方法を見つけ、児童生徒達の能力を最大限に引き出す指導の重要性について大変貴重な示唆に富んだ講演となった。



2 講座（6つの講座を開催）

第1講座 ICT教育

「特別支援教育におけるICT教育の現状と今後の方向性について」
北海道星置養護学校 ほしみ高等学園 教諭 小林義安 氏



第2講座 発達障害指導法

「障害特性の把握と実態を踏まえた指導・支援について」
札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる
センター長 坂井翔一 氏



第3講座 観点別評価

「観点別評価導入の試みについて」
千歳市立北進小中学校 教諭 益山友和 氏



第4講座 キャリア教育

「児童生徒の各ライフステージにおけるキャリア教育の重要性について」
中部大学 現代教育学部 現代教育学科 准教授 立田祐子 氏



第5講座 特別の教科 道徳

「特別の教科 道徳の現状と今後の方向性について」
熊本県立小国支援学校 教諭 日置健児朗 氏（リモート出演）



第6講座 授業づくり

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点」
北海道立特別支援教育センター
知的障がい教育室 主任研究員 岡森博宜 氏



【 講座の展開と成果 】

各講座で、テーマに関する講演、質疑応答、参加各校の講座内容に関連する実践等の情報交流を展開し、今後の特別支援教育において、開設した各分野（講座）に参加した先生方にとって、実りあるものとなった。

令和5年度 ICT 校内研修会①

<これまでの取組>

- ◆令和3年（2021年）7月26日 「Zoom 研修会」（ICT 教育推進委員会）
 - ・ホストとして Zoom を活用した取組を行う時の留意点について
 - ・ゲストとして Zoom を活用した取組に参加する法について（個人の端末の場合）
 - ・実技
 - ・質疑・応答
- ◆令和4年（2022年）1月12日 「ICT 校内研修会」（ICT 教育推進委員会）
 - ・GIGA スクール構想とは（2019年開始 全国の児童・生徒に1人1台のコンピュータと高速ネットワークを整備する文科省の取組。Global and Innovation Gateway for All）
 - ・本校の取組について（購入予定モデル、ICT プロジェクトメンバーによる授業実践の紹介、年間指導計画への記入方法について）
 - ・道内の先進的な取組の紹介（「GIGA ワールド通信」より）
 - ・Google Workspace とは（アメリカの Google 社が提供する 100%WEB のツール。旧 G Suite for Education 教育機関がクラウドを活用し生徒の学習を支援できる、厳重なセキュリティ対策が魅力の学習支援ツール。）
 - ・実技（Google フォームでアンケートの回答）

<今年度の取組>

- ◆令和4年（2022年）8月17日 「ICT 校内研修会」（ICT 教育推進委員会）
 - ・Google ドライブの紹介と実技研修
（ドライブの共有ストレージ、Google Workspace の利用、共有ドライブでできること）
 - ・Google Classroom の使い方（実技なし）
 - ・Google フォームの使い方の基礎（実技 スプレッドシートの紹介、アンケートの作り方）
 - ・生徒用 iPad 利用規約および管理方法の周知について
 - ・10月7日 生徒用 iPad 説明会について（この日より生徒1人1台端末の配付）
- ◆令和4年（2022年）12月26日～27日 「ICT 校内研修会」（ICT 教育推進委員会）
 - 「初中級編」
 - ・生徒用 iPad のアプリの使い方
 - ・iPad を利用した授業の本校実践事例の紹介（外国語、体育、社会）
 - ・Zoom のセッティング方法
 - ・その他、iPad やアプリの使用法の疑問への回答
 - 「上級編」
 - ・Google Classroom の使い方（実技）
 - ・Google ドライブの使い方（教師間、教師と生徒間の資料共有の方法）

令和5年度 ICT 校内研修会②

1. はじめに

令和5年度 ICT 校内研修会①で、多くの教師が「Google Classroom」について基本的な知識や技術を学んだ。その研修を通して、多くの参加者から日常的な活用に向けての継続的な研修を望む声が多数あり、冬季休業期間中に2回目の開催となった。

2回目の研修会では、研修内容を3つに分け、より詳しい内容が学べるように構成した。

2. 研修の概要・様子

①「掲示板機能等を活用した教師・生徒間の円滑なコミュニケーション」

令和6年1月12日実施

◆研修概要

- ・ Google Classroom のストリームを活用した連絡について（説明・演習）
- ・ Google Classroom にあるオンライン会議機能の活用方法について（説明）

◆研修の様子等

参加者は、ストリーム機能について説明や実践例を聞き、実際に持参した PC やタブレットを用いて掲示板投稿の体験を行った。その体験を通じてコミュニケーション方法の理解を深めることができた。

②「Google フォームを活用した課題の作成及び採点」

令和6年1月15日実施

◆研修概要

- ・ 生徒や教師、それぞれの立場からの課題について（説明・体験）
- ・ 課題の作成とクラス内での割り当てについて（演習）

◆研修の様子等

参加者は課題にかかわる流れについて、生徒や教師それぞれの立場になって学びを深めた。また、実際に教師の立場で課題を作成から割り当てまでを行い、紙媒体とネット媒体のメリット・デメリットを実感してもらうことができた。

③「Microsoft365 (Word/Excel/PowerPoint) を活用した授業実践」

令和6年1月16日実施

◆研修内容

- ・ Microsoft365 と Google for Education の違いについて（説明）
- ・ Microsoft365 を活用した授業実践の紹介（説明）

◆研修の様子等

Microsoft365 についての機能確認や Google の機能と比較し、機能面で大きな違いがないことを学んだ。また授業実践を聞き、活用の幅広さ等の理解を深められた。

3. 今後に向けて

今回は3つのテーマに分けて実施した。全てのテーマに参加する教師が多く、ICT 活用に対する積極性がみられた。また多くの教師から質問等もあり、今後も教師のニーズを随時把握していき、関係部署と連携して継続的に研修が続けられるように進めていく。

令和5年度 冬季校内研修会の概要

◆ 日 時

令和6年1月10日（水）10:00～11:40

◆ 場 所

北海道小樽高等支援学校 体育館

◆ 参加者

本校教職員 55名 保護者 6名



◆ 内 容

1 講演 「北海道の障害者雇用と辞令を事例を通して卒後の進路を考える」

講師 石狩障がい者就業・生活支援センター のいける
センター長 吉田 志信 様
主任就業支援担当 西川 香 様

《内 容》

- 1 石狩障がい者就業・生活支援センター「のいける」の紹介
～活動エリア、地域づくりのための4つの役割と機能、
- 2 障がい者雇用の状況
～令和5年障害者雇用状況の集計（通称ロクイチ調査）結果から、北海道の企業規模別の雇用状況(令和4年度)、法定雇用率の段階的な引き上げ、労働人口の減少、北海道の障害者雇用の将来、
- 3 障害者雇用・就労支援のフィールドにおける3つの変化
～雇用代行ビジネス、就労選択支援、福祉サービス事業所の量的変化、
- 4 卒後の進路
～その（卒業後）先を見据えて、
- 5 卒後の定着にあたって・仕事を継続していくために
～事例の紹介（事例①、事例②）
- 6 グループワーク
～テーマ 「卒後の社会生活を見据えて 就学中に身につけたいスキル」
* 8つのグループ（内1組は保護者グループ）に分かれ、テーマに沿って、各約10分間、各グループ意見交換、情報共有を図った。
～グループワークを通じて出てきたキーワードをまとめ、スキル項目として表示。

- ① 生活自立の向上
- ② コミュニケーション能力の向上
- ③ 対人関係の向上
- ④ 自己理解 等
- ⑤ 気持ちの前向きさ
- ⑥ 気持ちの切替え
- ⑦ 働き続ける力
- ⑧ 自己解決力
- ⑨ 取り組みへの意識

令和5年度 校内研究交流会の概要

- 1 日時 令和6年1月12日（金）9:30～11:40
- 2 場所 北海道小樽高等支援学校 体育館
- 3 参加者 本校教職員 47名（教務、寄宿舍）
- 4 内容



《 日程（流れ）》

◆ 開会のことば

◆ 本日の進め方について

- ・ 研究課題別グループから6本、寄宿舍からの計7本、各グループの今年度の研究内容と成果と課題をプレゼンする。

◆ 発表 ※詳細は本集録を参照のこと

- ① ICT教育グループ
- ② 発達障害指導法グループ
- ③ 観点別評価グループ



◆ 休憩

◆ 発表

- ④ キャリア教育グループ
- ⑤ 道徳グループ
- ⑥ 授業づくりグループ
- ⑦ 寄宿舍の研究



◆ 助言（児玉校長より 要旨）



- ・ 学習者主体の元、研究が重ねてきたと考える。それなくして学校経営・運営に生かすことは難しい。
- ・ ICT教育では、これからICTから学校DX、デジタルトランスフォーメーションへの移行など、新たなことから学校現場は避けられない、様々なニーズに応えるべく、どのようにバージョンアップするかが、大きな課題となる。
- ・ 発達障害指導法は、色々と錯そうしている現状はあるが、国総研の「自閉症ガイドブック」が基本となる。他、様々な文献等も理解した上で、本校で求められているものを考えていくことが必要である。
- ・ 観点別評価では、現在、実践に基づき整備中であるが、理論的に体系化を図ることが重要となる。他校の実践も合わせ考えていくことが必要である。
- ・ キャリア教育は、現在の「OKSライフキャリアプラン」などの取り組みが、総合的に今の生徒達に合っているのかという観点で、（使用について）目的を意識して取り組んでいくことが必要である。
- ・ 道徳に関しては、道徳の内容をしっかりと理解した上で、その内容をどのように意図して取り組んでいくかを考えることが必要である。
- ・ 授業づくりでは、各グループの研究を受け、授業に生かすことが大切、そのきっかけとして、ピクトグラム、OKS授業ホームにつなげていければと思う。
- ・ 寄宿舍の研究実践については、合理的配慮と合意形成という考え方を踏まえながら取り組んでいただきたい。

◆ 閉会のことば

※会場撤去

道外視察研修

視察研修報告

福祉サービス科 教諭 福澤 千晴
梅野 美里

1 研修目的

作業学習における喫茶店運営および介護職員初任者研修資格取得の取組や指導の実際について視察し、本校福祉サービス科における指導計画の作成や実技研修、その他校内研修に資するため。

2 期間および研修先

日時：令和6年2月13日（火）～15日（木）

研修先1：宮城県立支援学校女川高等学園

研修先2：宮城県立支援学校岩沼高等学園川崎キャンパス



3 研修報告

3-1 宮城県立支援学校女川高等学園

(1) 学校概要

宮城県立支援学校女川高等学園は、宮城県教育委員会が平成22年3月に定めた「県立特別支援学校教育環境整備計画」に示された県北東部の高等学園として新設された特別支援学校である。障害者雇用枠での一般就労を目指す県内の軽い知的障害のある生徒に対し、専門教科の指導を中心として、実際に働くために必要な態度や意欲、知識や技能及び集中力や持続力等の能力を培うとともに、普通教育と寄宿舎における指導をとおして、一人で生活することができる能力を高め、地域社会との関わりの中で人から必要とされ、職業的に安定し自立した生活をしていくことのできる生徒を育成することを目指す。令和5年度4月の生徒数は、1学年17名、2学年19名、3学年24名の計60名であり、全員が寄宿舎に入舎している。

(2) 特色

職業教育を中心とする学習活動を展開し、就労するために必要な能力を育成するために、1科（産業技術科）3コース（食品製造、福祉、サービス）を設定し、コースに沿った専門教科の授業を編成することで、即戦力として働ける人材の育成に努めている。食品製造コースでは、食品衛生や製造に関する知識と技術の習得、食品関連企業への就職を目指す。福祉コースでは、介護や接遇に関する知識と技術の習得、老人福祉サービスなどの事業所への就職を目指し、福祉コースの生徒に対し授業をとおして「介護職員初任者研修」修了証取得に向けた学習と講習会を実施する。サービスコースではビルクリーニングや物流サービスに関する知識と技術の習得、幅広いサービス関連企業への就職を目指す。

全員が寄宿舎へ入舎している。将来の生活に必要とされるスキルを身に付けるため、学校における教育活動と関連づけた3年間の寄宿舎による生活指導を充実させる。共同生活をとおして、規範意識の向上や協力し合う心や態度を育成するとともに、将来の自立に向けて基本的な生活習慣や自己管理能力の向上を図る。

地域の環境整備や防災関連のボランティア活動に積極的に参加し地域活性化への貢献を目指す。

【時間割】1学年 週時程

校時	月	火	水	木	金	
SHR(10) 8:45～ 8:55	ホームルーム					
1校時(40) 9:00～ 9:40	LHR	専門教科 食品製造 福祉 サービス	情/理	専門教科 食品製造 福祉 サービス	自活	
2校時(40) 9:50～10:30	国語		理/情		音楽	
3校時(40) 10:40～11:20	保体		英/音		家/美	
4校時(40) 11:30～12:10	保体		音/英		家/美	
5校時(40) 13:10～13:50	美/家		総合		道徳	
6校時(40) 14:00～14:40	美/家		社会		保体	特別活動
7校時(40) 14:50～15:30	数学		職業		国語	
清掃・SHR(20) 15:30～15:55	ホームルーム					

※第1学年の専門教科は、1学期に3コースを全ての生徒が履修し、2学期に仮コースとして1コースを選択し、履修する。

※第2・3学年の専門教科は3コースより1コースを選択し履修する。進路の選択の幅を広げるため第2学年と第3学年は別のコースも選択可能とする。

(3) サービスコースの学習内容

サービスコースでは、大きく分けてビルクリーニングや喫茶サービスを中心とした専門教育を行っている。今回の視察では、カフェ班の学習内容を中心に視察させて頂いた。現場実習や学校行事の関係で営業日は前後するが、基本的には水・金曜日の10:00～12:00に営業を行っている。校舎の近くに別棟があり、16名程度の客席が確保できる店内で接客を行っていた。事前の予約があれば大人数の対応ができる別室もある。メニューは温かい飲み物(コーヒー、紅茶、ココア)に食品製造コースで製造しているプイボールやシフォンケーキをカフェで提供している。シフォンケーキは5種類ほどあり、注文時に生徒から説明される。

店内の装飾やカフェで使用するコーヒー豆のメーカーなど、生徒達が試飲したり、職員とともに考えながらメニューに反映している。玄関や店内は生徒が作った装飾が並んでおり、時期に合わせて更新している。お客様に喜んでいただける内容を話し合い、工夫しながら準備を進め、学習活動に取り組んでいる。季節によりお客は少ないときもあるが、地域とのつながりも強く、地元の常連客でにぎわうことも多いとのこと。研修時も5、6名ほどの来客があり、生徒達は恥ずかしそうにしながらも主体的に接客している姿が印象的だった。



<店内の様子>



<メニュー表>



<シフォンケーキセット>

(4) 福祉コースの学習内容

福祉コースでは、介護職員初任者研修の資格取得に向けた取組が中心となる。宮城県立支援学校女川高等学園では、平成29年から「介護職員初任者研修」資格取得に関する講座を開講している。宮城県基準のカリキュラムに沿って指導を行っており、2学年から3学年の中旬（7月）くらいまでの期間で履修する。修了後は、介護技術の復習や卒業試験などをカリキュラムに加えている。認知症カフェへの参加や、認知症サポーター研修への参加、ペタングを通じた地域交流など介護職員初任者研修以外にも福祉分野の学習を充実させている印象を受けた。実習を受け入れて下さる施設もあり、実習の学習も充実させている。

視察時は、2学年と3学年の授業の様子を参観させて頂いた。2学年は講義、3学年は演習の授業を行っていた。それぞれに福祉免許の教員が指導にあたっていた。3学年は7月に介護職員初任者研修の資格取得を修了しており、学校が設定する実技の卒業試験に向けて6名の生徒が演習の練習を行っていた。2学年は福祉コースを選択した生徒が1名と少ないが、自立活動の学習と関連を持たせながら、個に応じた丁寧な指導を実践していた。年度にもよるが、受講者の数は減少傾向にあるとのこと。卒業後の進路についても福祉分野以外の就職をする生徒もいる。



<演習の様子>



<教材・教具の工夫>



(5) 視察を終えて

今回はサービスコースの喫茶班と福祉コースの学習内容を中心に見学させて頂いた。本校では作業学習という位置づけであるが、専門教科としてコース展開がされているなど教育課程の編成にも様々な形があるということを知ることができた。また、本校では福祉サービス科として福祉の分野と流通（喫茶サービス）の分野を併せ持った内容で学習内容を展開しているが、サービスコースでは清掃の学習も展開されており、本校における環境・流通サポート科の学習内容と類似していたため、他コースの取組についてもこの機会にもっと学ぶことができればと思った。また、食品製造コースでは商品の製造、販売を積極的に行っている様子で、様々な商品が販売されており、特に『ほや茶漬けの物』は宮城県水産加工研究団体連合会長賞を受賞する等、素晴らしい取り組みを知ることができ、

学びを深めることができた。いずれのコースでも、地域の特色を生かした教育活動が実践されているということを知ることができた。

また、今回の視察を経て、防災教育の取組に触れることができたことも新鮮で大きな学びとなった。女川という地域は東日本大震災で大きな被害を受けた地域の一つである。地域全体でも防災教育に力を入れている。寄宿舎では6つの班に分かれた自治会活動があり、日頃から防災意識を高めるための訓練や生徒同士の学習があるということを知った。本校も防災に対する意識を高めておく必要性を改めて感じた。

3-2 宮城県立特別支援岩沼高等学園 川崎キャンパス

(1) 学校概要

宮城県立特別支援学校岩沼高等学園は、平成13年に宮城県立養護学校岩沼高等学園として設立される。平成21年4月に校名を変更し、現在の校名となる。平成28年に川崎キャンパスが開校となり岩沼本校と川崎キャンパスに分かれて学習活動を展開している。

軽度の知的障害のある生徒に、社会参加と職業的自立を目指した職業教育をとおして、積極的に社会参加し、心豊かに、そして主体的に自分の力や可能性を發揮して生きる人間を育成することを目指す。令和5年度4月の生徒数は岩沼本校では1学年37名、2学年34名、3学年37名の計108名、川崎キャンパスでは1学年8名、2学年5名、3学年6名の計19名となる。岩沼本校では46名の生徒が寄宿舎を利用している。川崎キャンパスは寄宿舎を設置しない通学型である。

働くために必要な知識、技能、態度等の習得を目指し、職業教育をメインとした学習活動を展開している。岩沼本校では、1科（産業技術科）4コース（家政、農業、工業、流通・サービス）、川崎キャンパスでは1科（産業技術科）2コース（福祉、流通・サービス）に分かれ、1学年次にはそれぞれのコースを体験し、2学年から選択したコースを履修する。

(2) 川崎キャンパスの特色

柴田農林高校川崎校と同じ校舎内に川崎キャンパスがある。同じ階の中でエリアを分けて学習活動に取り組んでいる。時程はそれぞれ異なるが、体育など交流する機会もあり、インクルーシブ教育の実践に努めている。

地域資源を活用したデュアルシステムによる職業教育を行う。「学校」と「地域」の2つの学びの場で学習し、相互で得られた成果を生かし合いながら学習活動を展開している。流通サービス、福祉コースの2コースを設定し、日常的に職業教育を行いつつ、職場実習との関係を図りながら生徒の能力・適性に合った職業教育を行う。また、近隣の公共施設やスキー体験、フィールドワーク等、地域資源を活用した体験を通して卒業後の社会生活や余暇活動等を支援し、生活力のある人材を育成することを目指す。



【時間割】 1 学年 週時程

校時	月	火	水	木	金
SHR(15) 8:45～ 9:00	SHR				
1校時(35) 9:10～ 9:45	特活	理科	国語	国語	美術
2校時(50) 9:55～10:45	家庭	保体	保体	社会	保体
3校時(50) 10:55～11:45	音楽	職業	専門教科	専門教科	専門教科
4校時(35) 11:55～12:30	保体	情報	流通・サービス	福祉	流通・サービス
5校時(50) 13:20～14:10	専門教科	専門教科	数学	自立	専門教科
6校時(30) 14:20～14:50	流通・サービス	福祉	道德	総合	福祉
清掃・SHR(20) 14:50～15:10	SHR・清掃				

※第1学年では全員が福祉、流通サービスの専門教科を学習する。

※第2学年からは選択したコースを学習する。(専門教科週12時間)

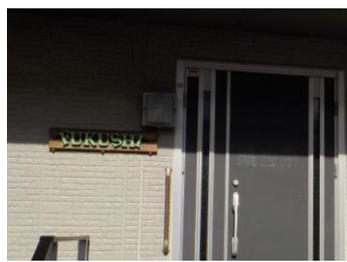
(3) 福祉コースの学習内容

1学年8名中、2年次からコース選択を行うので、年度によりコース選択をする生徒数が異なる。今回の視察では、福祉コースの授業を中心に見学させて頂いた。3学年の生活援助技術の学習と1学年の福祉の授業を視察している。3学年で福祉コースを選択した生徒は3名、2学年は福祉コース選択者はいなかった。(8名全員が流通・サービスのコースを選択することとなる)年度にもよるが、男子の生徒の割合が多い。福祉コースでは、介護職員初任者研修の資格を取得することを目指しているが、コース選択者は減少傾向にある。

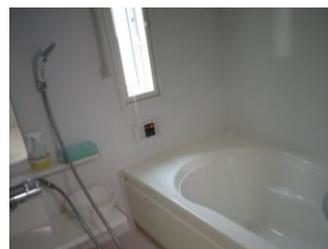
見学時、3学年の生徒は生活援助技術の学習を行っていた。東日本大震災時に集会所として使用していたプレハブの建物を活用し、校内に別棟として各コースの学習を行うことができるよう改修されていた。福祉コースの部屋ではベッドメイキングや生活援助の学習が行えるよう、小規模な福祉施設をイメージした建物に改修されていた。また、同じ棟の別室では、流通・サービス科が活用できるよう改修された教室もあり、学習環境の工夫に感銘を受けた。少人数教育の中で、自身が目指す進路に向けてより個に応じた実践的なカリキュラムを展開することができるのではないかと感じた。



<東日本大震災時に使用されていた建物>



<ベッドメイキング演習>



<生活感が残る中での生活援助演習>

介護職員初任者研修の学習は2学年からスタートし、3学年の7月に修了する予定となっている。修了後は、卒業後の進路に向けた学習やデュアルシステムを活用した学習に力を入れている。就職先は福祉分野に限定してはいないものの、福祉分野を希望する生徒の割合は多い。介護職員初任者研修のカリキュラムに関わらず、福祉分野の学習においては、徒歩圏内に福祉施設が複数あり、また、社会福祉協議会などの機関も隣接しているため、地域とのつながりを大切にした学習活動が日常的に多く取り入れられていたところが特徴的だと感じた。日常的に高齢者と接する機会が多い環境の中で、利用者様とのコミュニケーションの取り方や社会人として関わる際のマナー、仕事への心構えや取り組み方など、貴重な環境の中で学ぶことがたくさんあり、魅力的であると感じた。社会資源に恵まれているところに感銘を受けた。

1学年のベッドメイキングでは、本校も1学年で車いすとベッドメイキングを実施することもあり手順書の提示の仕方や授業の展開の仕方など様々な面で勉強させて頂いた。8名の生徒に対して2名の教員で指導にあたっていたが、実技の演習に関しては、細かい部分の力の入れ方や動きを指導する際に、ある程度個別に細かい動きを確認することで修得できる部分がある。そのため、授業を展開する際の工夫について知りたいと思っていたので大変貴重な機会だった。授業では、自身が振り返りを行うことができるようにiPadを活用していたが、MTが個別指導を行う生徒を担当している間にSTと動画で振り返りを行う形式をとっていた。振り返りを行う際には全体だけではなく、三角折りの部分などポイントを絞って振り返っていた。3回目の練習と伺っていたが、授業の後半は、人数が多くてもスムーズに流れに乗って各自が練習に取り組むことができていた。ペアとなる生徒同士、声を掛け合いながら協力して取り組もうとする姿が印象的だった。



<隣接する複数の福祉施設や関係機関>

(5) 視察を終えて

今回は福祉コースの授業を中心に見学させて頂いた。介護職員初任者研修については、女川高等学園と同様に2学年の4月から開講し3学年の途中で修了していることや、講師要件の部分で北海道と少し仕組みが異なっていることを知った。本校では、2学年11月からグループ別に分かれて福祉とサービスの分野に分かれて学習に取り組むが、グループ選択の時期については今後検討していきたいと感じていた部分だったため、大変参考にさせて頂いた。

また、流通・サービスコースがあるが、本校では環境・流通サポート科の作業学習にあたる内容で学習が展開されていた。岩沼高等学園川崎キャンパスは本校と離れた場所にあるが、岩沼本校にも複数のコースが展開されており、アビリンピックにも積極的に参加しているとのことだったので、そちらの取組についてももう少し詳しく話を伺いたいと感じた。見学時は、各教室のワックスがけを行っていた。和やかな雰囲気の中で、先生方に「きれいにしてくれてありがとう」「在学中最後の清掃活動だね」と言われていて、生徒達は嬉しそうに学習活動に取り組んでいた。

4 視察研修のまとめ

今回、宮城県立特別支援学校女川高等学園、宮城県立特別支援学校岩沼高等学園川崎キャンパス校の2校を視察させて頂いた。どちらの学校も本校より小規模の学校であったが、介護職員初任者研修について研鑽を深めること、また、本校のカリキュラムや仕組みの見直しを検討していた時期だったので、進め方について各校の取組を直接知ることができたことは貴重な経験となった。

今回の研修の1つ目の目的である作業学習における喫茶店運営については、10:00~12:00と本校と同じ営業時間の中でカフェメニューを提供していた。他コースと連携した学習内容を工夫したり、集客に向けた取り組みについて、地域とのつながりを大切にしていた。地域のお客様に親しんでもらえるための喫茶運営を進めていくために、本校も改めて工夫をしていくことの必要性を感じた。値段の設定など柔軟に対応していた部分は魅力的だったため今後参考にできるところはしていきたいと思う。

2つ目の目的である介護職員初任者研修資格取得に関わる指導内容については、宮城県の基準があり、それらに沿ってカリキュラムが作られていることを知った。北海道と異なる点もあるが、福祉の教科免許を持つ職員が指導のチーフとなり、複数体制で演習などの学習に取り組んでいることや、状況に応じて外部講師を依頼するなど資格取得のために工夫している取組の実際を知ることができた。

どちらの学校の取組にも共通して、地域とのつながりを大切にしている点が、本校が大切にしている教育と同じであることを改めて感じる事ができた。地域資源の積極的な活用の仕方については今回の研修で学ばせて頂いた。今後の学科運営に生かしていきたい。

今回は貴重な機会をいただき、多くのことを学ばせてもらいました。本当にありがとうございました。学んだことを生かして今後も研鑽に努めていきたいと思えます。

あ と が き

「令和の日本型学校教育」の構築のために、私たちには学校教育を取り巻く環境を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続ける姿勢が求められています。そして、生徒一人一人の可能性を最大限に引き出すために、「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進が不可欠とされています。また、GIGAスクール構想により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現が進められています。さらに、改訂生徒指導提要では、生徒指導の基本的な考え方や取組の方向性等が再整理されるなど、学校教育を取り巻く環境は社会・産業構造同様、大きく変化しています。

本校においても、教職員一人一人がこれらをしっかりと認識し、それぞれの役割を果たし学校教育目標の実現を目指すことがますます重要となります。

さて、今年度の校内研究は、第6次研究計画（3カ年）2カ年目の重点である「学んだ理論を実践で試す」を踏まえ、事例研究や授業研究を中心に進めてきました。夏季休業中には、本研究計画の内容に基づき、夏季校内研修会兼北特研道央地区研究大会を実施しました。講師である道内外の大学及び学校関係者、外部機関の職員の方々の講義をとおして、実践的内容の説明や具体的な助言をいただき、多くの学びを得ることができました。そして、冬季休業中に実施した校内研究交流会にて、各グループのまとめを共有しました。ICT機器を活用し、可視化できる教材づくりによる学習理解の促進、問題行動へのアプローチとして応用行動分析による指導の有効性、教育課程編制における道徳の在り方の検討などが示されました。また、キャリアカウンセリングシートの様式、ピクトグラムを活用方法などの見直しが行われました。校内研究を積み重ねることで、生徒に対する適切な指導・必要な支援への新たな気づきが生まれます。この気づきこそが私たちの資質・能力の向上につながると考えます。

次年度は、本研修計画の最終年になります。カリキュラム・マネジメントを確立させ、充実した教育活動を展開するためにも、各グループの検証結果を実践で深めつつ、グループ横断的な視点をもち取り組んでいきます。

本校では、これからも多様な教育的ニーズに応えられるよう、家庭、地域、関係機関との連携を深めた学校体制を構築し、生徒から選ばれる学校、生徒が学び続けたい学校づくりを目指して参ります。併せて、開校以来大切にしてきた生徒の社会的・職業的自立できる力を育成できるよう、更なるキャリア教育の充実を目指して参ります。

皆様方には、この研修集録「躍動」を御高覧いただき、忌憚のない御意見をいただきましたら幸いです。

令和6年3月 北海道小樽高等支援学校教頭 林 英 孝

執筆者一覧

はじめに 校長 児玉倫政

1 校内研究の概要

第6次研究計画の概要（2年目） 教諭 大滝尚孝

第6次研究計画

2 研究の成果と課題

グループ研究の成果と課題

- | | |
|--------------------------|-------|
| ①ICTグループ 教諭 | 富山 怜奈 |
| ②指導法グループ 教諭 | 折 明宏 |
| ③観点別評価グループ 教諭 | 小笠原純 |
| ④キャリア教育グループ 教諭 | 成松智也 |
| ⑤道徳グループ 教諭 | 長田正勝 |
| ⑥授業づくりグループ 教諭 | 池本大樹 |

第6次研究（2年目）のまとめ（成果と課題） 教諭 大滝尚孝

3 寄宿舍の研究

第5次研究（2年目）の成果と課題 寄宿舍指導員 岡 徹

4 校内研究に関連した取組

第45回 北海道特別支援教育研究協議会 道央地区大会（小樽大会）
兼 北海道小樽高等支援学校 夏季校内研究会

ICT校内研修会①②

冬季校内研修会

校内研究交流会

5 道外視察研修

あとがき 教頭 林 英孝

執筆者一覧

共同研究者

研究集録バックナンバー 主な内容一覧 〈原点回帰〉

号	主題	体制	主な内容	研究成果等
1 H21 2009	第1次 社会動向を 踏まえた職 業教育の実 践的研究	全体 学科 教科 研究係	●学校経営の基本理念●本校のキャリア教育の押さえ●各学科の教育課程BasicPlan、年間指導計画●各教科の教育課程BasicPlan、年計●公開研究会①〈公開授業、分科会〉	●キャリア教育全体推進計画試案●キャリア発達を支援する内容表、指導内容、チェックリスト試案
2 H22 2010		学科 教科	●個別の教育支援計画作成の検証、本人・保護者のニーズの把握、支援するチェックリストの活用、目標設定の考え方●教育課程BasicPlan、シラバス（学習計画表）の作成●体験活動（地域の教育力）●公開研究会②〈公開授業、分科会〉	●教育課程BasicPlan ●各教科のシラバス ●地域の教育力の活用事例
3 H23 2011		学科 教科	●キャリア教育全体推進計画改善●仮称OKSライフキャリアプラン作成、活用（事例）●教育課程BasicPlanの整理●シラバスの充実●総合的な学習の時間の整理●体験活動の充実●ICFの視点での授業づくり●公開研究会③〈公開授業、分科会〉	●キャリア教育全体計画2011●OKSライフキャリアプラン ●教育課程BasicPlan ●各教科シラバス●寄宿舍の研究開始
4 H24 2012	第2次 自己有用感 をもって、 生き生きと 活動する生 徒を目指し て	学科 教科	●シラバスと年間指導計画の検討 ●自己有用感を高める指導の工夫 ●教科等の特徴的な取組 ●自己有用感について卒業生へ調査① ●公開研究会④～暴風雪のため中止	●自己有用感を高める指導のポイント ●校内向けに研究発表会の実施（ポスター発表など）
5 H25 2013		学科 教科	●シラバスと年間指導計画の充実 ●自己有用感を高める指導の工夫についての授業研究●進路学習におけるキャリアカウンセリング●自己有用感について卒業生へ調査② ●公開研究会⑤（公開授業、ポスター発表、全体会、講演会）	●改訂教育課程Basic Plan ●改訂各教科シラバス ●作業学習と道徳、自立活動の関連
6 H26 2014	第3次 社会で生き 抜く力を高 める実践的 研究	各学年 テーマ別 に4グル ープ	●①生徒像・教職員像、②授業づくり、③生徒理解と指導法、④進路学習の4つのテーマ別に研究 ●自己有用感について卒業生へ調査③ ●公開研究会⑥（公開授業、ポスター発表Ⅰ・Ⅱ）	●進路学習と各教科との関連一覧 ●生徒像、教職員像の整理●社会生活に結びつく指導内容
7 H27 2015		学年 学科	●事例研究～障がいの理解と実態把握、効果的な指導法、授業力を高める●授業研究～生徒向けシラバスの作成など●自己有用感について卒業生へ調査④●校内研究交流会	●生徒向けシラバス ●事例研究5本
8 H28 2016		学科 教科	●シラバスの見直し、基底となる学習計画の作成 ●年間指導計画の見直し ●アクティブラーニングと合理的配慮を踏まえた授業づくり ●校内研究交流会（冬休み中）	●資料 合理的配慮 ●資料 アクティブラーニング ●上記のチェックリスト

9 H29 2017	第4次 生徒の二 ズや教育動 向を踏まえ、 授業の改善 ・充実をめ ざす実践的 研究	学科	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒像の再検討、新しい作業種の開発、自己有用感を高める指導、主体的・対話的で深い学びの追求 ●基底となる指導計画の作成 ●校内研究交流会（冬休み中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●新カリキュラムの基底となる指導計画 ●学科生徒の目指す生徒像
10 H30 2018		教科	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の課題の検討●地域の教育力を生かした取組●ICTを活用した教育活動●新学習指導要領の理解●授業研究●10周年記念公開研究会⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料 観点別学習状況の評価と歴史 ●分かる授業の工夫
11 H31R1 2019	第5次 学習指導要 領等の教育 動向を踏ま え、教育課 程の見直し と授業の充 実をめざす 実践的研究	課題別6 グループ （縦割り）	<ul style="list-style-type: none"> ●①教材開発、②事例研究、③授業研究、④文献研究、⑤調査研究、⑥教育課程検討の6つのテーマごとに ●校内研究交流会（冬休み中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領の目標・内容一覧●卒業生アンケート改訂版●人材バンク
12 R2 2020		調査研究 教科7 作業学習 5	<ul style="list-style-type: none"> ●自己有用感について卒業生へ調査⑤ ●本校における資質・能力の検討 ●学習評価の在り方の検討 ●校内研究交流会（冬休み中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の教育課程の考え方（新指導要領） ●各教科の評価規準 ●道徳全体計画 ●特別活動全体計画
13 R3 2021		教科10 作業学習 5	<ul style="list-style-type: none"> ●「対話スタイル」の授業づくり ●コミュニケーションスキルとチェックシート ●教育課程ベーシックプランの改訂 ●基底となる指導計画の様式改善 	<ul style="list-style-type: none"> ●各教科等の評価規準の具体化例 ●個別の指導計画の改訂 ●手立て一覧ほか
14 R4 2022		課題別6 グループ （縦割り）	<ul style="list-style-type: none"> ●①ICT ②指導法 ③観点別評価 ④キャリア教育 ⑤道徳 ⑥授業づくり ●校内研究交流会（夏休み・冬休み中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●文献研究による活用できる各種情報 ●改訂ベーシックプラン ●基底となる指導計画新様式 ●教科 情報の履修の見直し ●学校経営計画等の見直し
15 R5 2023	課題別6 グループ （縦割り）	<ul style="list-style-type: none"> ●①ICT ②指導法 ③観点別評価 ④キャリア教育 ⑤道徳 ⑥授業づくり ●第45回北特研道央地区大会兼校内研修会（夏休み） ●校内研究交流会（冬休み中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●文献研究等に基づいた取り組みへの構築、検証 ●情報モラルの指導内容（案） ●ライフキャリアプランの整理及び運用の改善 ●特別の教科道徳の基底及び年間指導計画の作成 	

共同研究者

校長 児玉 倫政
教頭 林 英孝

副校長 佐藤 貴雄
主幹教諭 奈良 吉高

富山 怜奈	鈴木 宏和	大野 浩子	久保 りつ子
志賀 昌弘	中野 美穂	山田 宏治	小山 桃果
大槻 貴博	鈴木 美彩	小蕎 也知	片岡 真実
折 明宏	関川 克視	武澤 直也	濱谷 れもん
兼平 優華子	外館 あゆみ	香城 望	石川 賢吾
藤卷 さつき	菊田 ひろみ	岩川 拓巳	俵 愉香
小早川 正輝	奥山 由紀子	小笠原 純	富加見 洋子
奥村 亮	山森 清菜	横堀 由美子	中村 洋次
佐々木 みゆき	梅野 美里	三上 尚子	相澤 昂輝
木村 祐介	鈴木 有紀	牟禮 麻子	大久保 彰子
内藤 剛	山本 あゆみ	村上 葵	小谷 明日香
成松 智也	福澤 千晴	長田 正勝	檜田 周久
亀谷 友香	門間 大樹	佐々木 敏光	茶谷 泰久
田村 美奈	上村 幸教	行田 瑠衣	岡田 賢一
池本 大樹	高橋 朋子	佐々木 美和	中島 彩之介
小松 正直	森谷 理	安藤 和也	大滝 尚孝
浅井 勇気	新山 さやか	黒田 裕美	稲見 彩佳
内山 志乃	永嶋 美喜		

岡崎 有治	田口 真由美	岡 徹	高木 陽介
伊藤 成美	田中 英利	北原 達也	遠藤 耕一
松本 典幸	笹林 環	成田 奈美	中川 敦平
藤原 真紀	櫻田 郁夫	市川 早苗	津波 古真
川辺 和恵	高松 正	水田 沙緒里	

躍動 研究集録 第15号

令和6年4月26日発行

発行者

北海道小樽高等支援学校長 児玉 倫政

〒047-0261 小樽市銭函1丁目10番1号

TEL (0134) 61-3400 FAX (0134) 61-3430

URL <http://www.otarukoushi.hokkaido-c.ed.jp>

E-mail otarukoushi-z0@hokkaido-c.ed.jp

